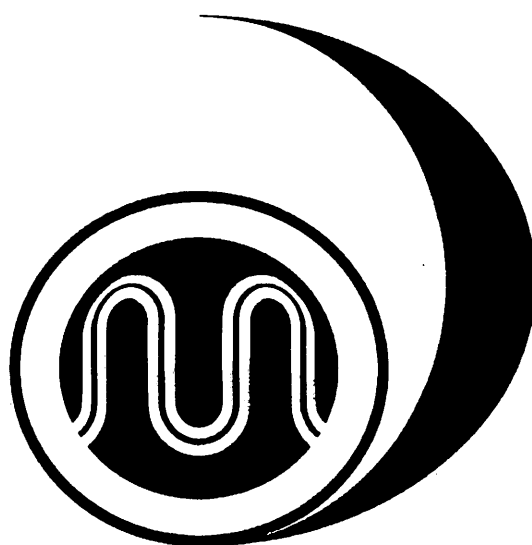


第351回
地震防災対策強化地域判定会

記者会見資料



平成27年7月27日

気象庁

この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県及び神奈川県温泉地学研究所、気象庁のデータを基に作成しています。

以下の資料は暫定であり、後日の調査で変更されることがあります。

目次

定例資料

1. 地震活動概況 P. 1-7
2. 活動指数 P. 8-12
3. 静穏化・活発化領域の抽出 P. 13-14
4. 領域別地震活動 P. 15-26
5. ひずみ計による地殻変動観測 P. 27-59
6. GNSSによる面的地殻変動監視 P. 60-66
7. 東海・東南海地域の海底津波計記録の長期変化 P. 67
8. ひずみ変化量から推定した長期的ゆっくりすべり P. 68-69

平成 27 年 6 月～7 月 22 日の主な地震活動

○ 想定震源域およびその周辺； $M \geq 3.0$ または震度 1 以上を観測した地震
特になし

○ 南関東； $M \geq 4.0$

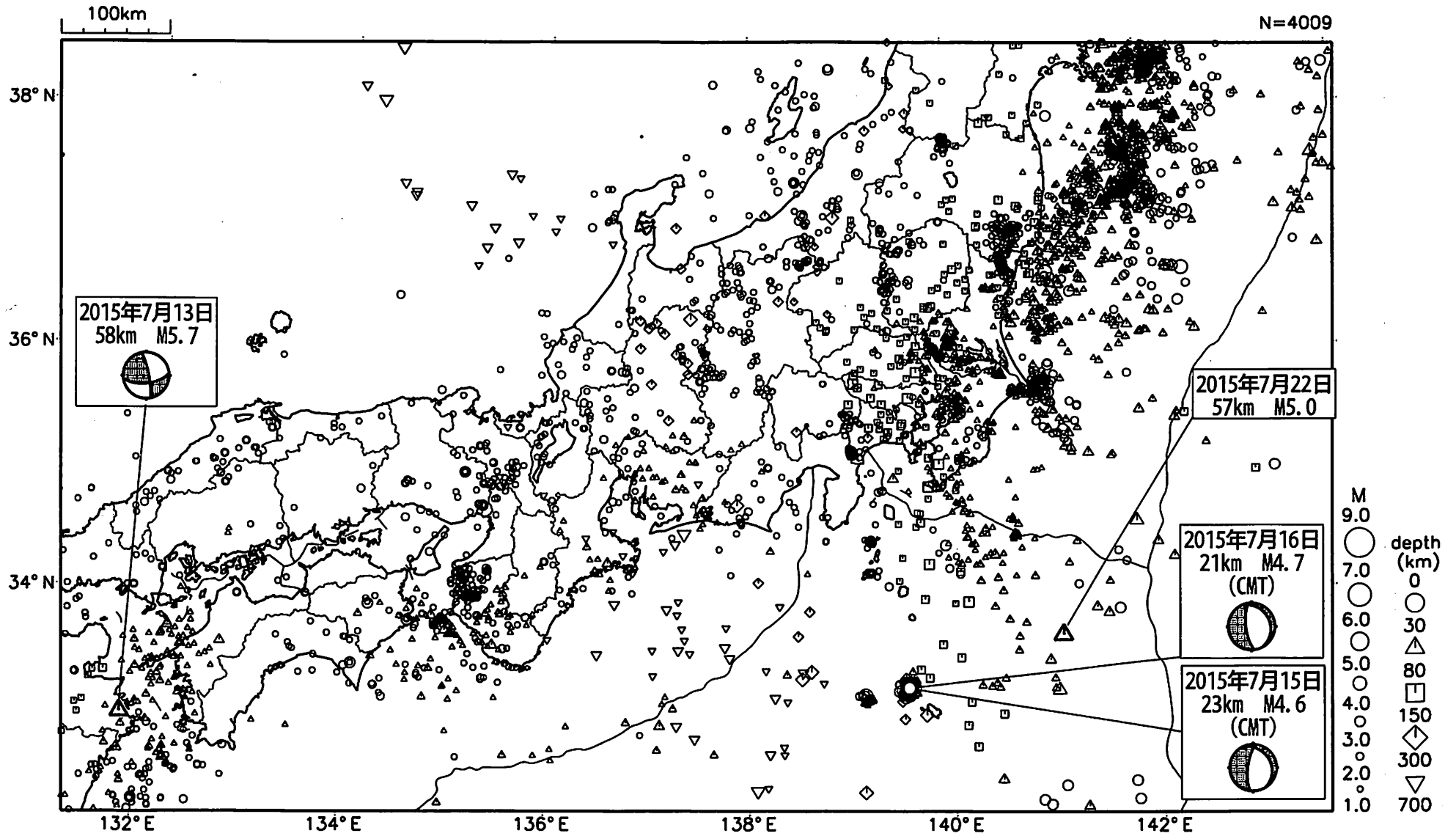
月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発震機構
6/9	5:44	茨城県南部	51	4.4	4	北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型
7/6	18:30	茨城県南部	46	4.1	3	北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型
7/10	1:15	茨城県南部	45	4.4	4	北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

○ その他の地域； $M \geq 6.0$

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	参考		最大 震度	発震機構
					Mj	Mw		
6/23	21:18	小笠原諸島西方沖	484	6.8	6.8	6.5	4	太平洋プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型
7/7	14:10	北海道東方沖		6.3	6.3	6.3	3	西北西-東南東方向に圧力軸と持つ逆断層型

Mj は従来から用いられている気象庁マグニチュード。Mw はモーメントマグニチュード。

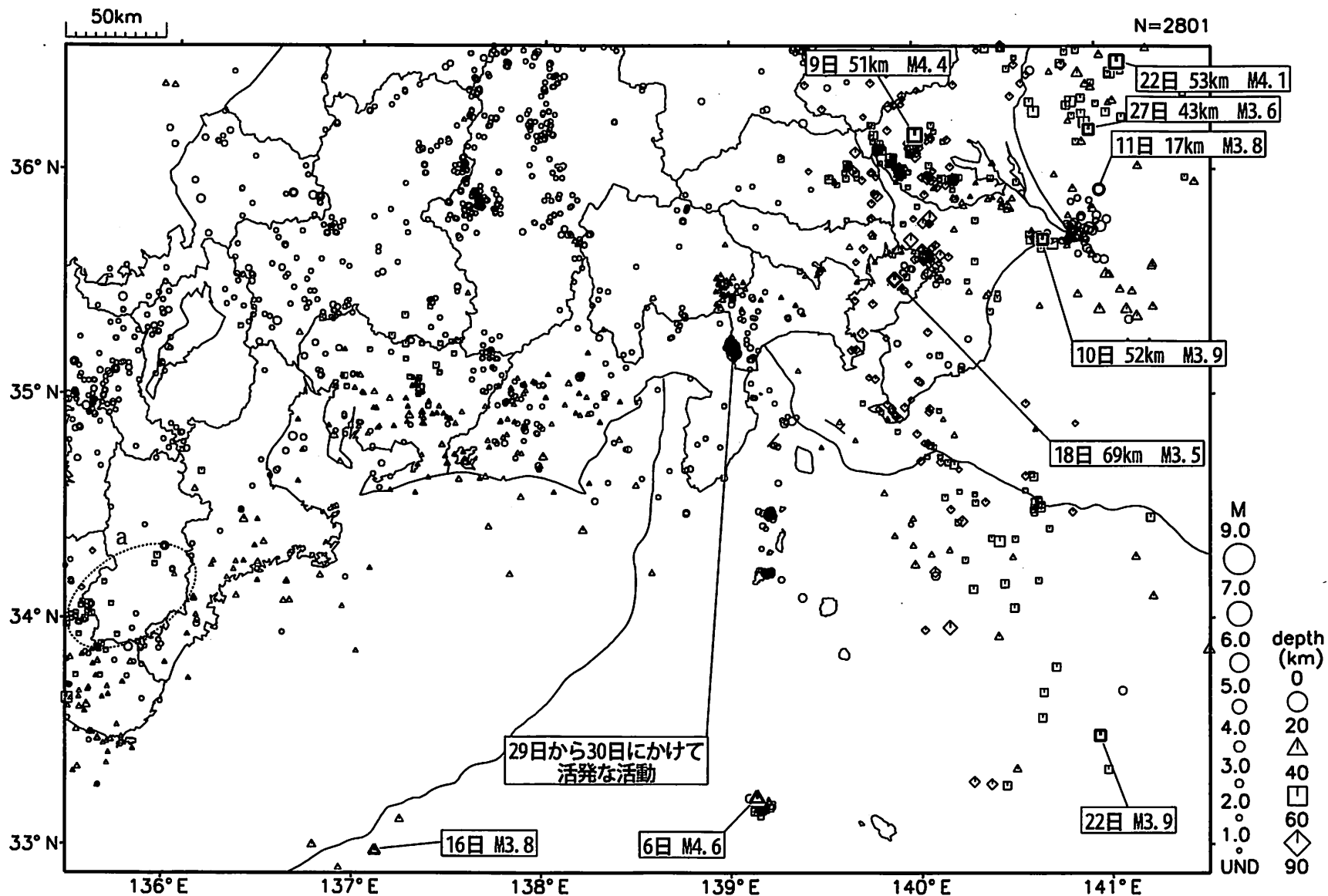
東海地方とその周辺の広域地震活動 2015年6月1日～2015年7月22日



図中の吹き出しは、陸域M4.5以上・海域M5.0以上とその他の主な地震

気象庁作成

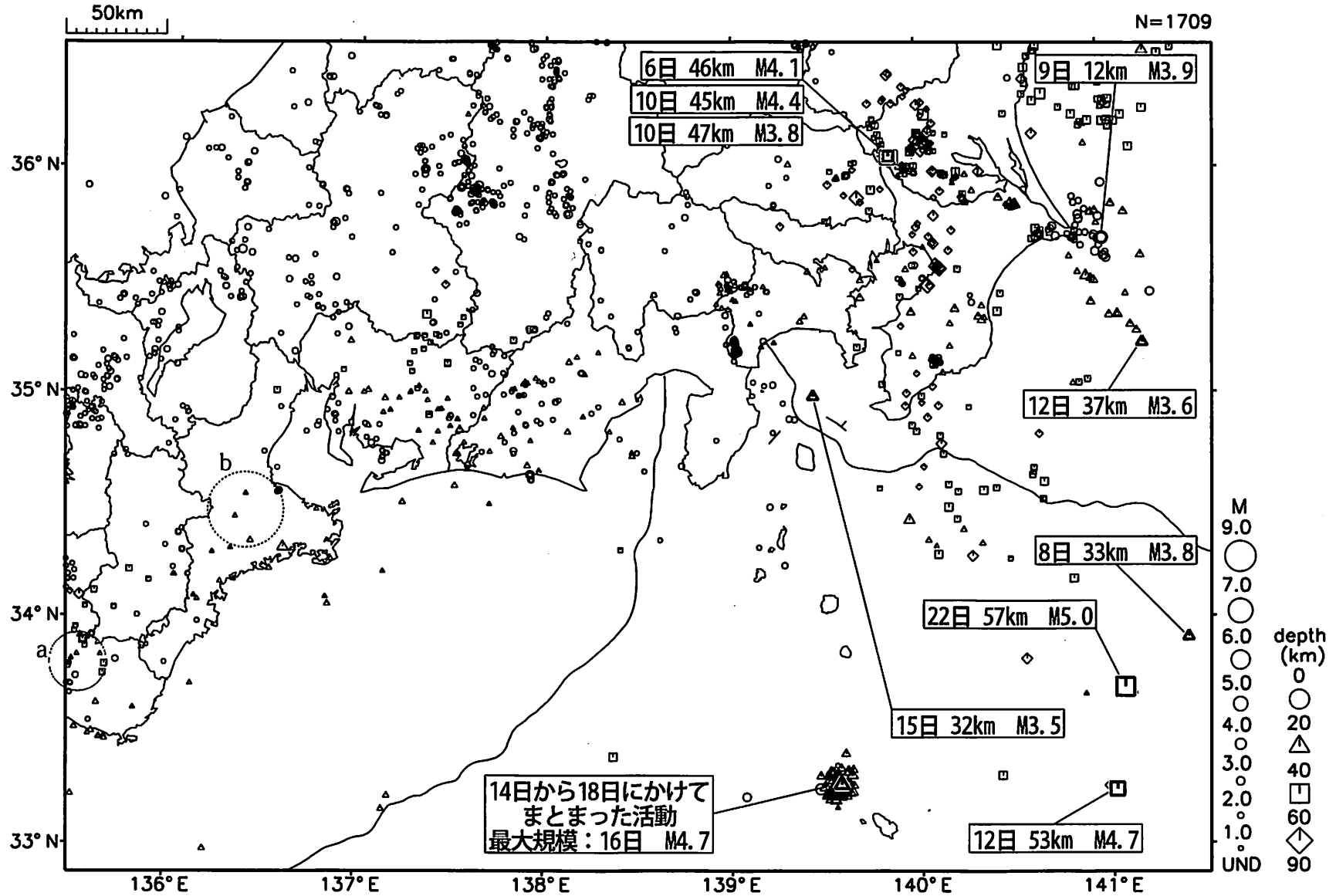
東海・南関東地域の地震活動 2015年6月 (1日~30日)



精度良く震源決定された地震のみを表示している。
和歌山県南部から奈良県（破線の領域a）を震央とする深部低周波地震を6月4日から8日にかけて観測した。

気象庁作成

東海・南関東地域の地震活動 2015年7月 (1日~22日)

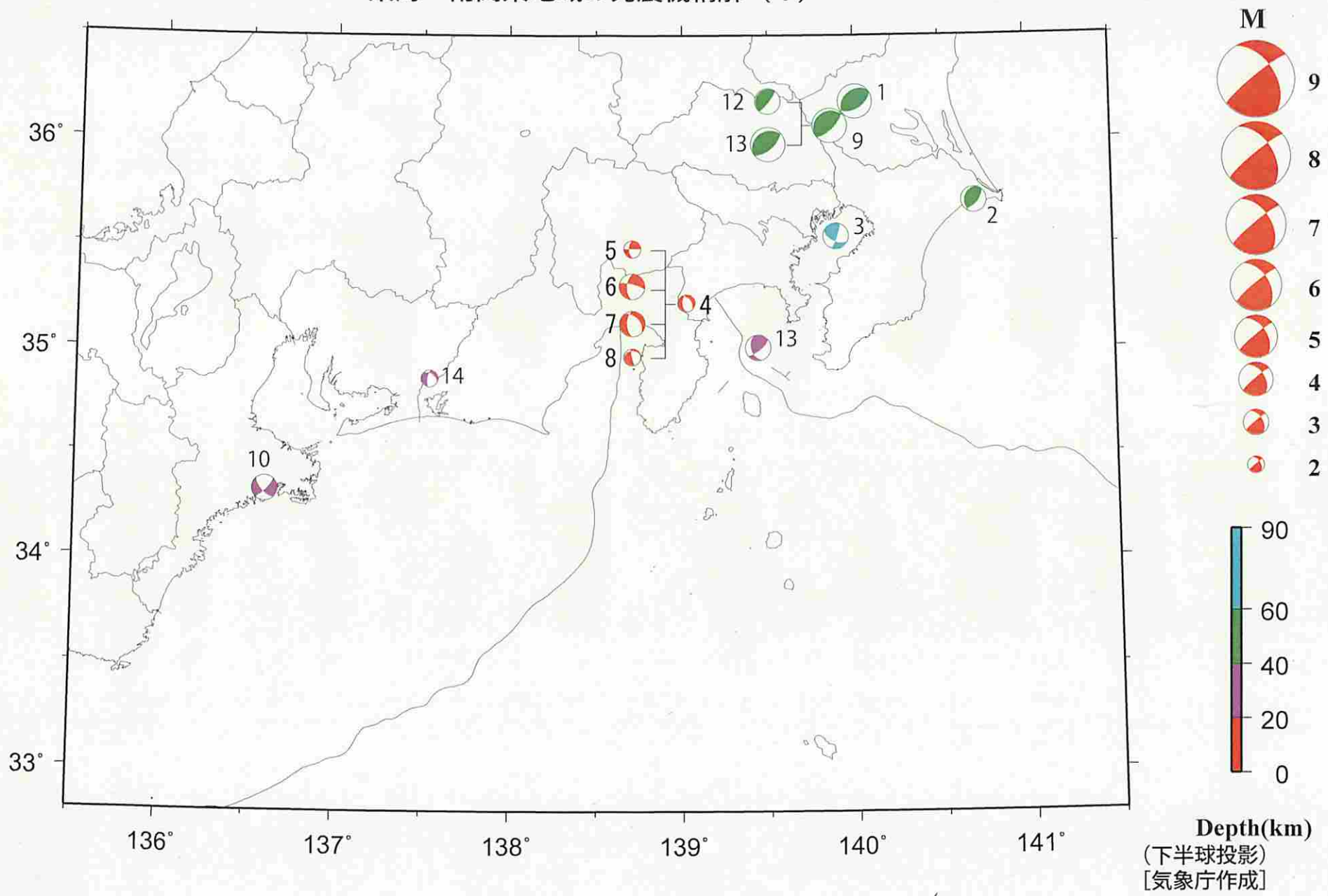


精度良く震源決定された地震のみを表示している。
和歌山県北部から南部（破線の領域a）を震央とする深部低周波地震を7月11日から15日にかけて観測した。
三重県中部から南部（破線の領域b）を震央とする深部低周波地震を7月18日以降観測している。

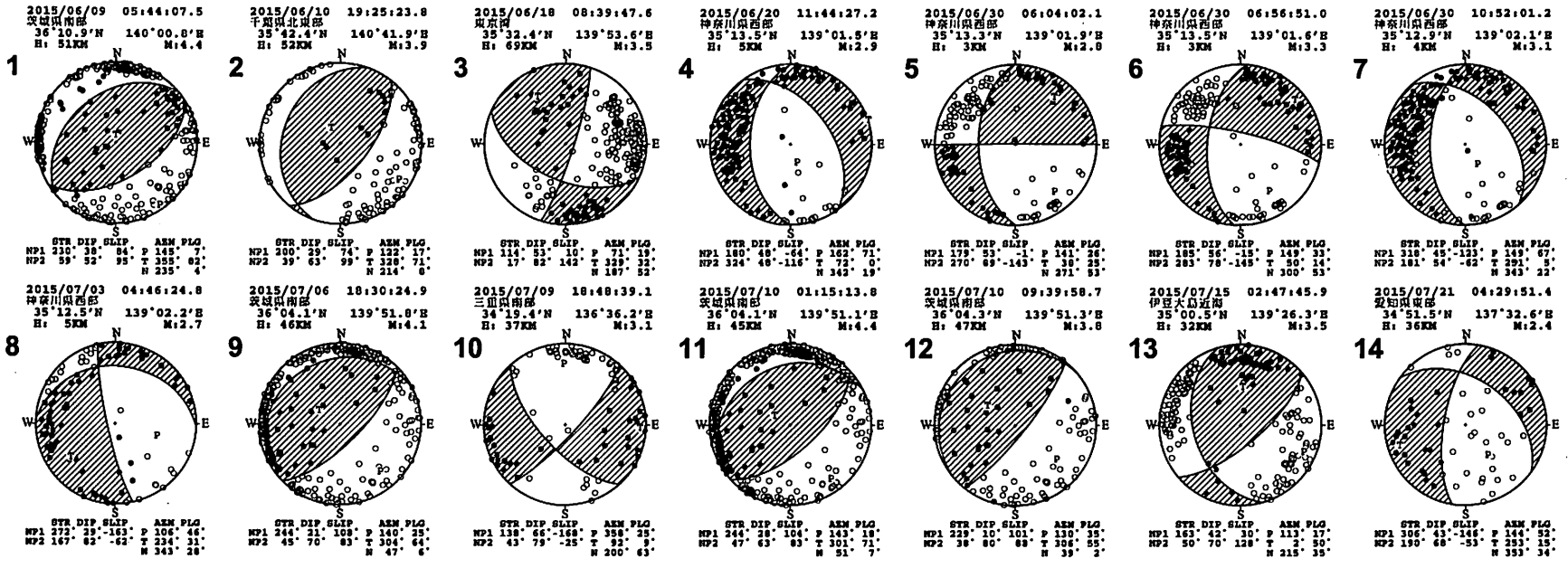
気象庁作成

東海・南関東地域の発震機構解 (1)

Period:2015/06/01 00:00—2015/07/21 24:00



東海・南関東地域の発震機構解（2）

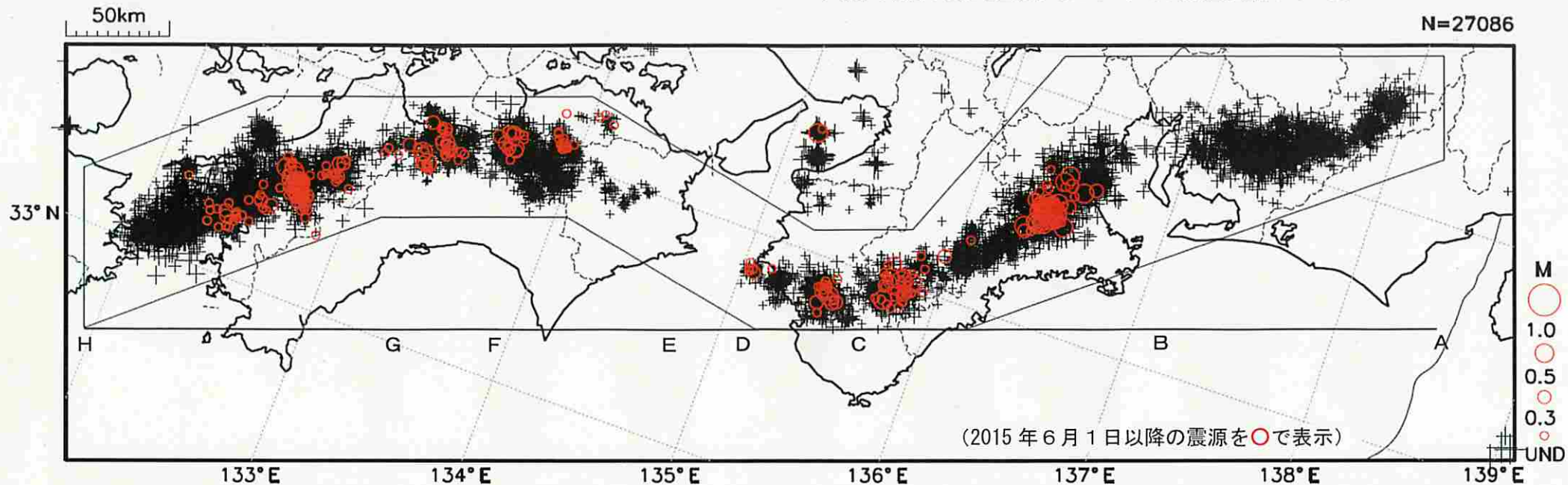


※東海地域のM2.4以上の地震及び南関東地域のM3.5以上の地震の発震機構を表示している。
 各震源球の上には震源要素、下部には発震機構の断層パラメータが併記されている。
 断層パラメータが併記されていないものは、発震機構解の精度がやや劣るものである。

（下半球投影）
 [気象庁作成]

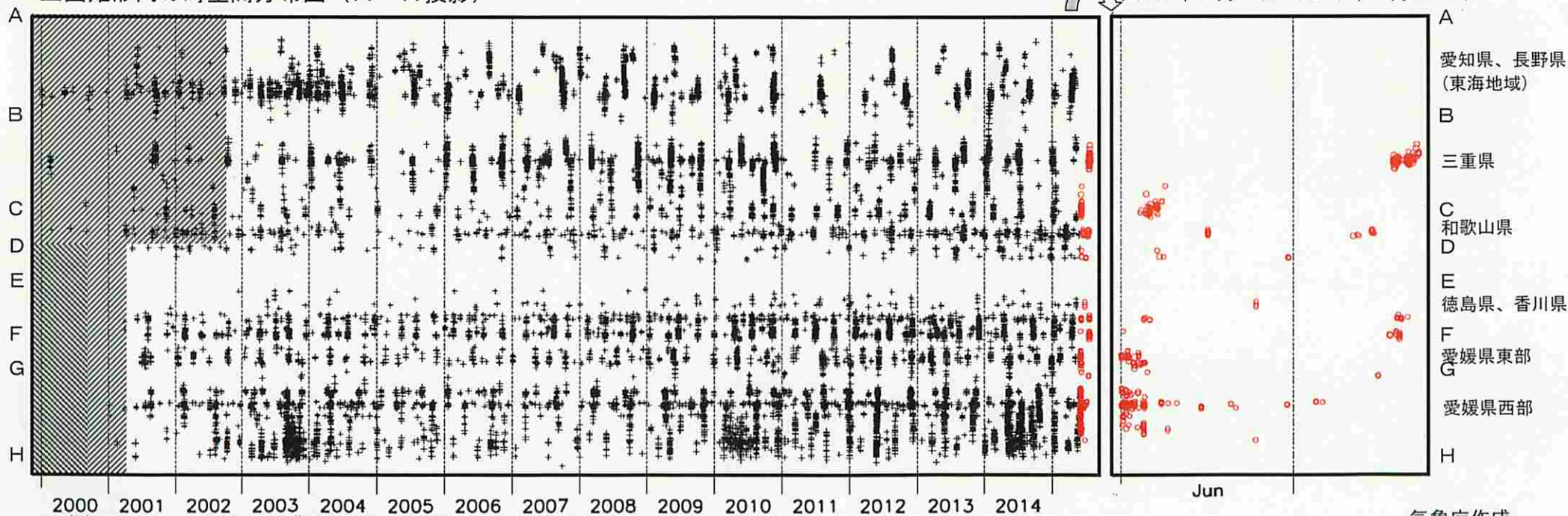
深部低周波地震活動 (2000年1月1日~2015年7月22日)

深部低周波地震は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。



上図矩形内の時空間分布図 (A-H投影)

(2015年6月1日~2015年7月22日)



※時空間分布図中、網掛けした期間は現在と比較して十分な検知能力がなかったことを示す。

東海地域の地震活動指数

(クラスタを除いた地震回数による)

2015年7月22日 現在

	① 静岡県中西部		② 愛知県		③ 浜名湖周辺			④ 駿河湾	
	地殻内	フィリピン海プレート	地殻内	フィリピン海プレート	フィリピン海プレート内		全域	余震除去	
					全域	西側			東側
短期活動指数	4	3	4	4	4	7	1	4	4
短期地震回数 (平均)	4 (5.29)	4 (7.00)	13 (13.16)	13 (14.15)	6 (6.16)	6 (2.46)	0 (3.70)	5 (6.06)	3 (3.89)
中期活動指数	3	1	2	4	2	5	0	5	3
中期地震回数 (平均)	13 (15.87)	11 (21.00)	31 (39.48)	42 (42.44)	7 (12.32)	6 (4.93)	1 (7.39)	14 (12.12)	5 (7.79)

*Mしきい値： 静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：M≥1.1、駿河湾：M≥1.4

*クラスタ除去：震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺： $\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$

駿河湾： $\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$

*対象期間： 静岡県中西部、愛知県：短期30日間、中期90日間

浜名湖周辺、駿河湾：短期90日間、中期180日間

*基準期間： おおむね長期的ゆっくりすべり（スロースリップ）発生前の地震活動を基準とする。

静岡県中西部、愛知県：1997年－2001年（5年間）、

浜名湖周辺：1998年－2000年（3年間）、駿河湾：1991年－2000年（10年間）

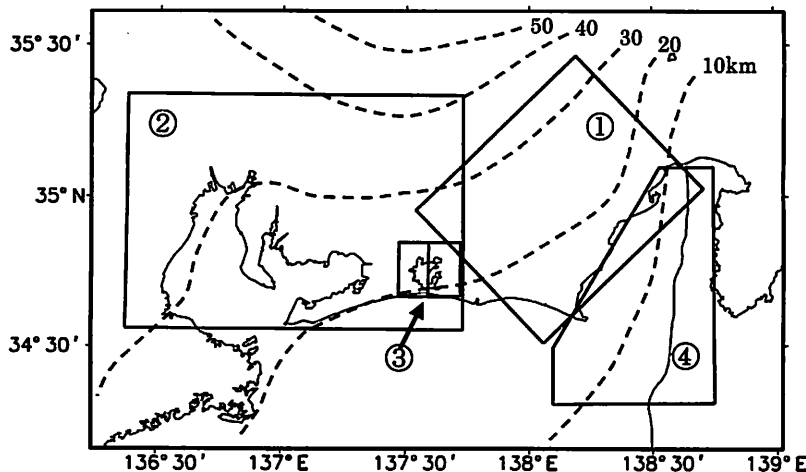
[各領域の説明] ①静岡県中西部：プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域（固着域）。

②愛知県：フィリピン海プレートが沈み込んでいく先の領域。

③浜名湖周辺：固着域の縁。長期的ゆっくりすべり（スロースリップ）が発生する場所であり、同期して地震活動が変化すると考えられている領域。

④駿河湾：フィリピン海プレートが沈み込み始める領域。

余震除去：2009年8月11日の駿河湾の地震（M6.5）と2011年8月1日の駿河湾の地震（M6.2）の余震域の活動を除いて活動指数を求めた場合。

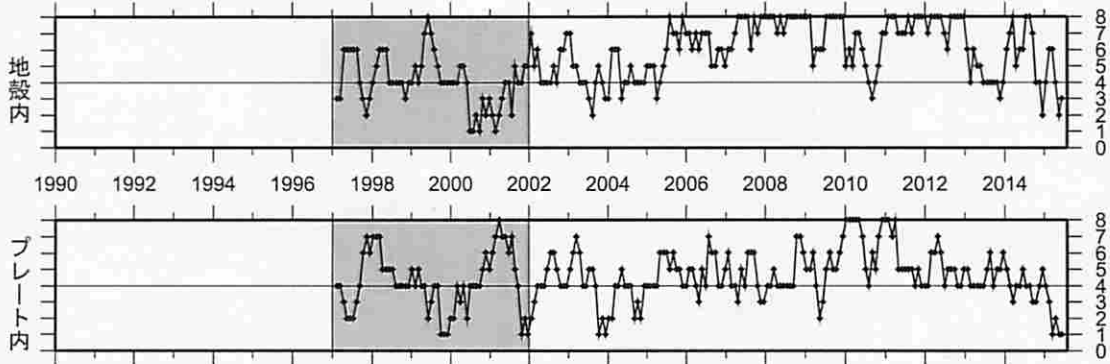


*Hirose et al (2008) によるプレート境界の等深線を破線で示す

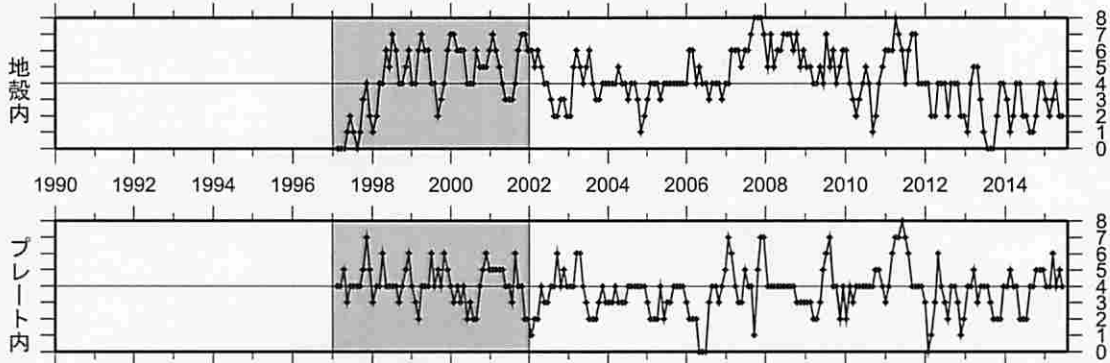
指数	確率 (%)	地震数
8	1] やや多い
7	4	
6	10	
5	15] ほぼ平常
4	40	
3	15] やや少ない
2	10	
1	4] 少ない
0	1	

地震活動指数の推移（中期活動指数）

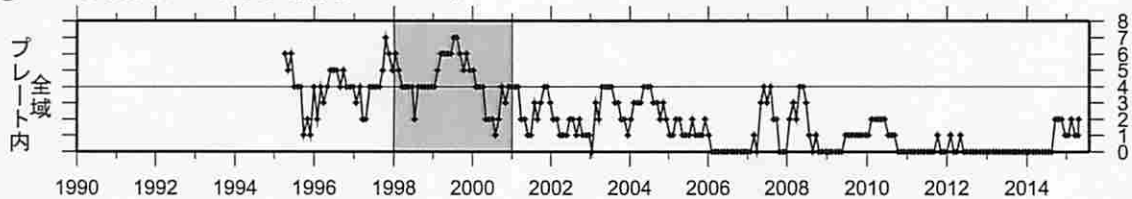
① 静岡県中西部（対象期間：90日） 1997/1/1~2015/7/22 M ≥ 1.1



② 愛知県（対象期間：90日） 1997/1/1~2015/7/22 M ≥ 1.1

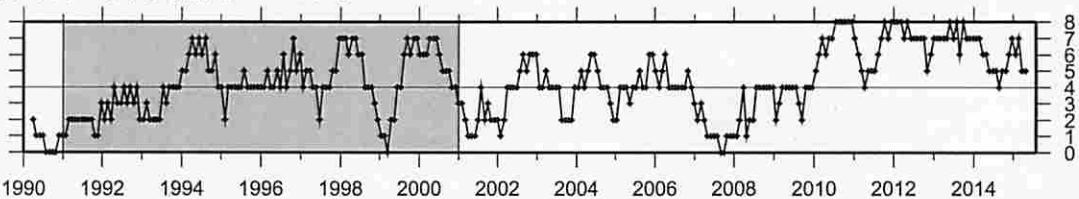


③ 浜名湖周辺（対象期間：180日） 1995/1/1~2015/7/22 M ≥ 1.1

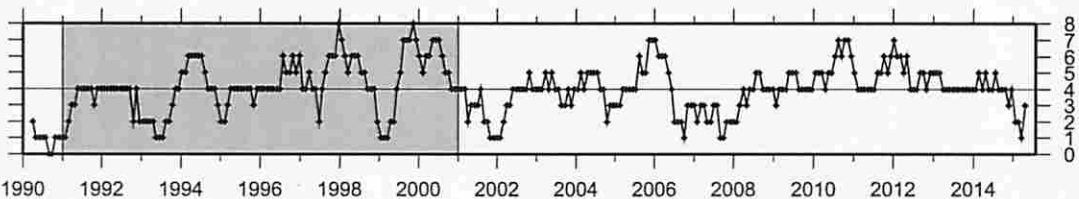


少ない
継続中

④ 駿河湾（対象期間：180日） 1990/1/1~2015/7/22 M ≥ 1.4



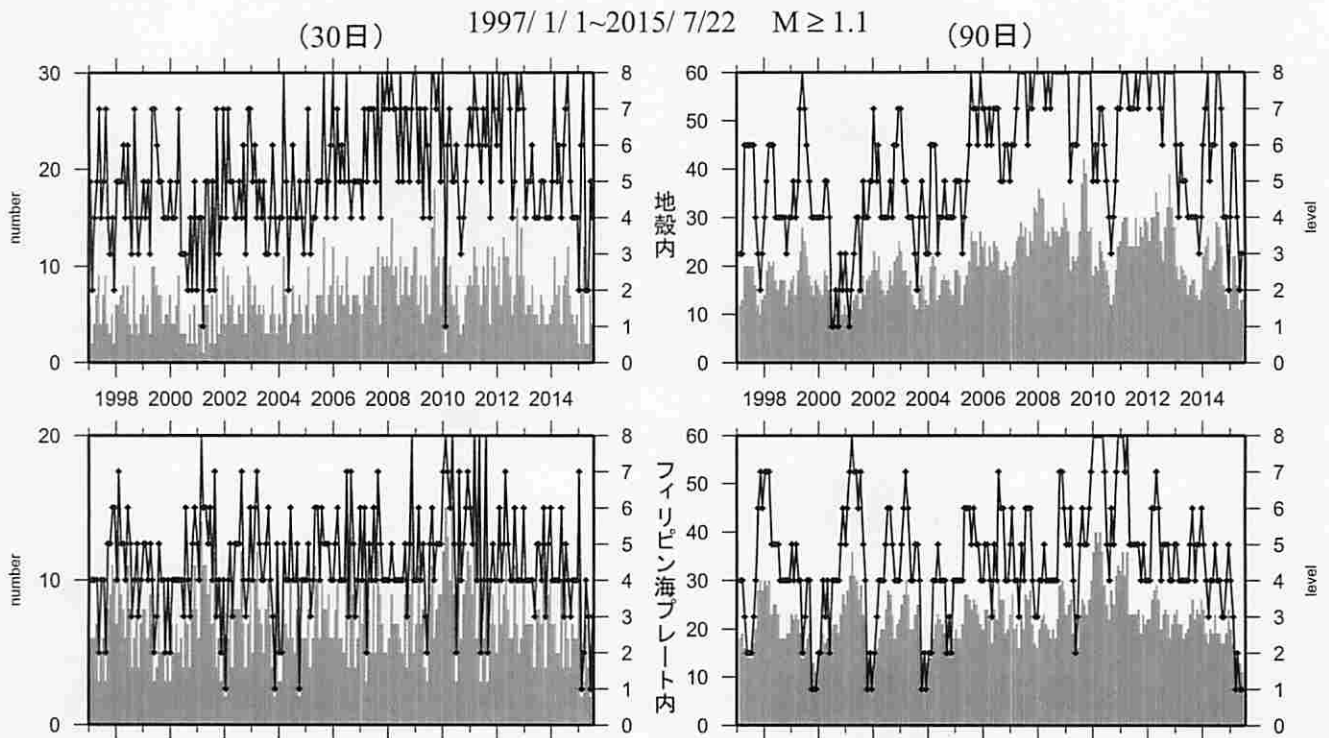
2009年8月11日の駿河湾の地震（M6.5）と2011年8月1日の駿河湾の地震（M6.2）の余震域の活動を除去した場合



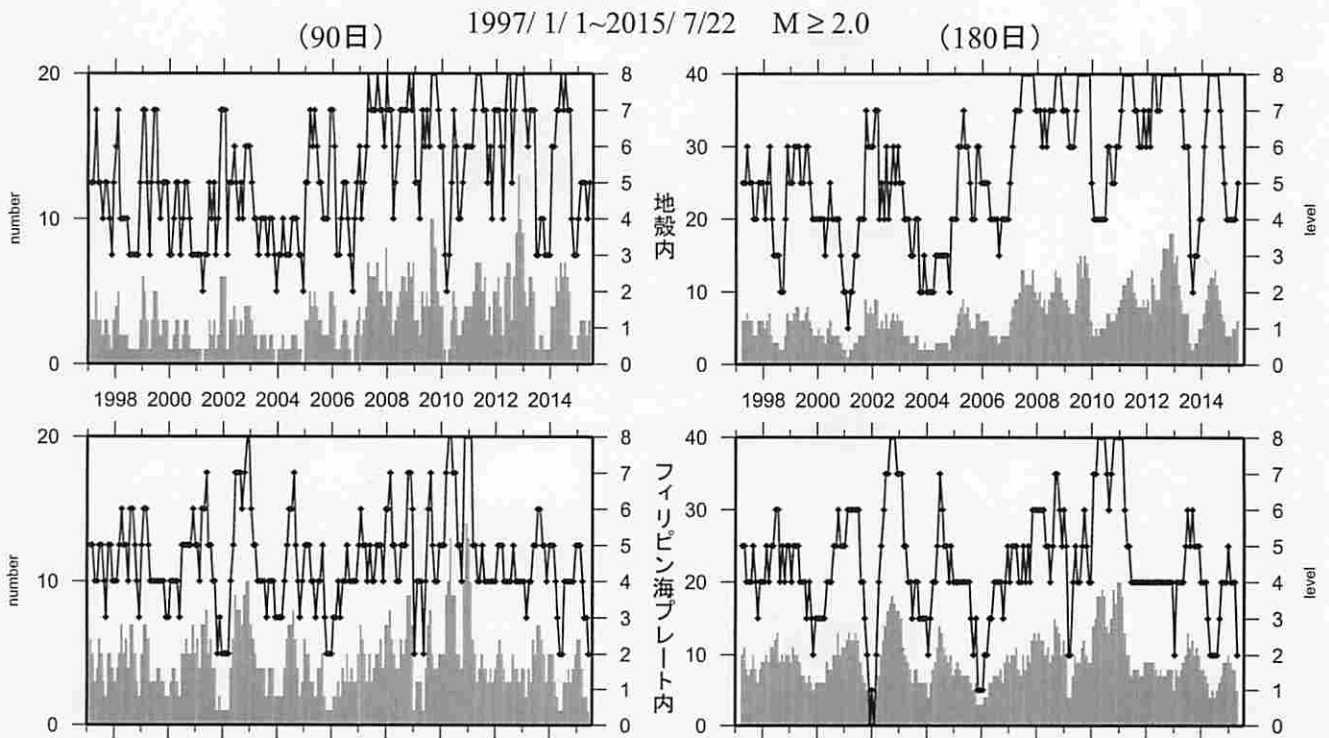
■ : 基準期間 / : 地震活動指数（0-8）

地震活動指数の推移

① 静岡県中西部



地殻内はほぼ平常(4から3)。フィリピン海プレート内はやや低い(3から1)。



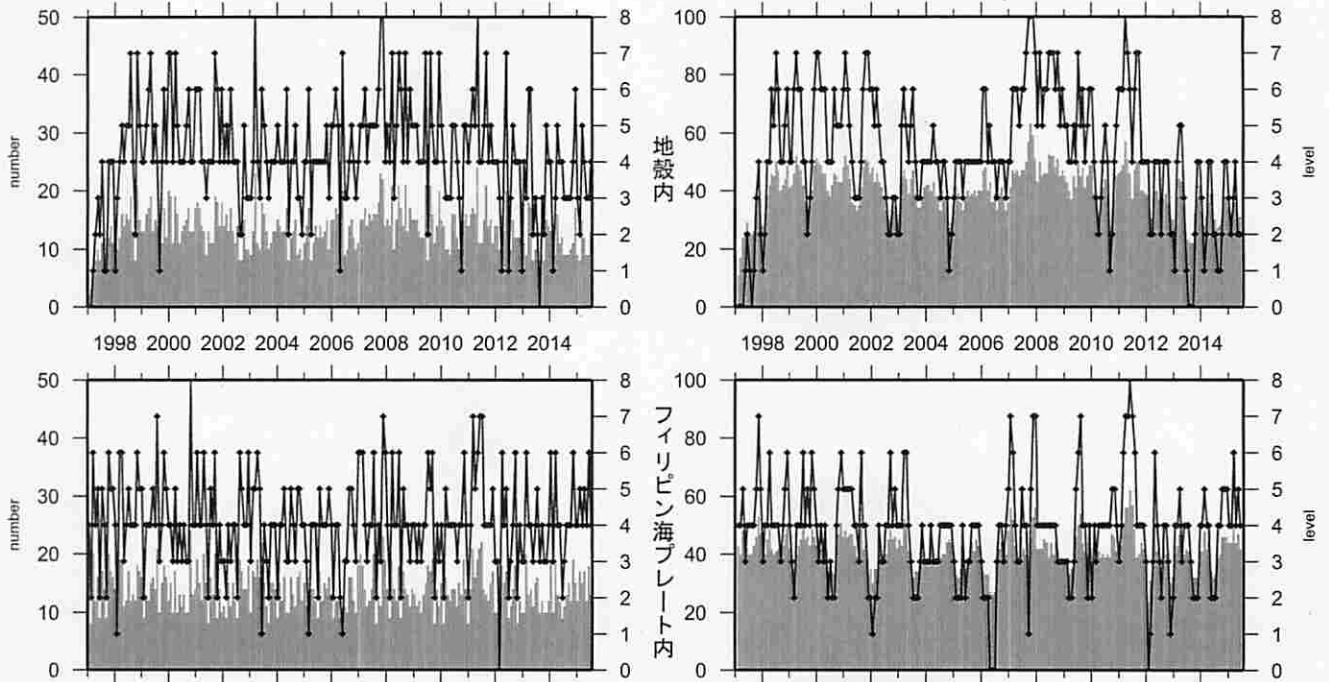
地殻内はほぼ平常(4から5)。
フィリピン海プレート内はほやや低い(2)。

— : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスタを除く)

地震活動指数の推移

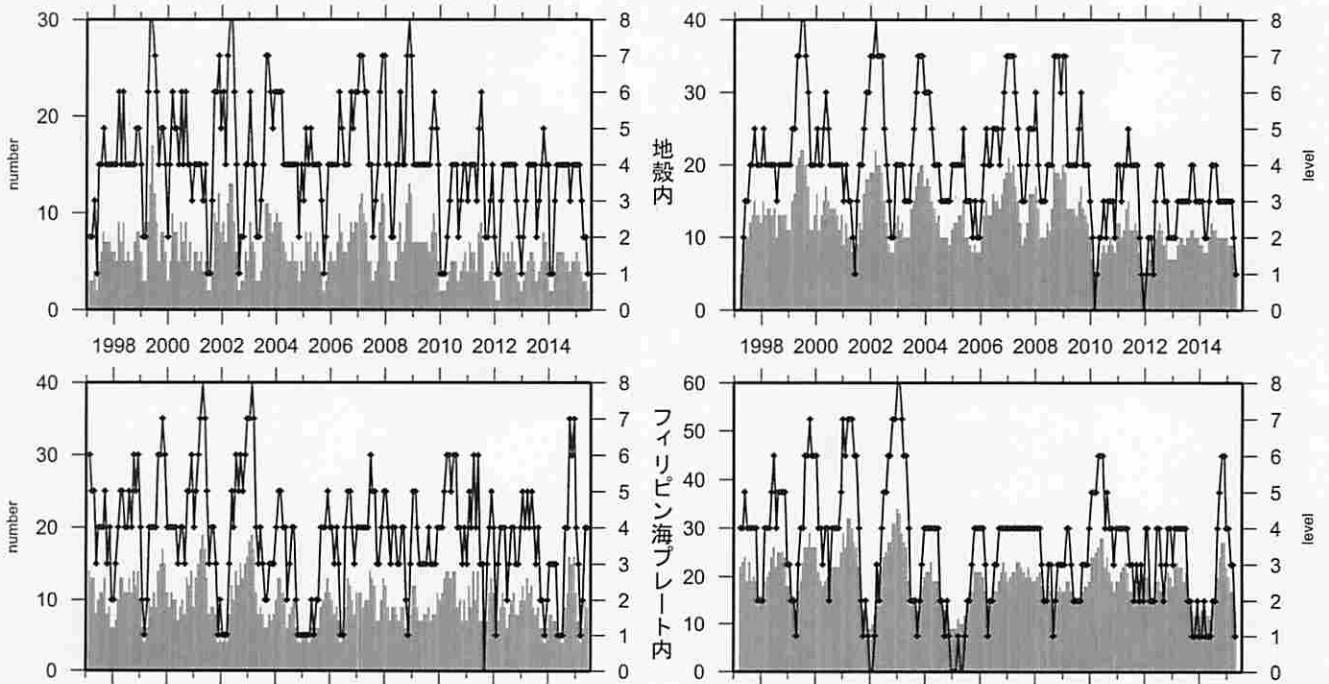
② 愛知県

(30日) 1997/ 1/ 1~2015/ 7/22 M ≥ 1.1 (90日)



地殻内はやや低い(4から2)。フィリピン海プレート内はほぼ平常(4)

(90日) 1997/ 1/ 1~2015/ 7/22 M ≥ 2.0 (180日)



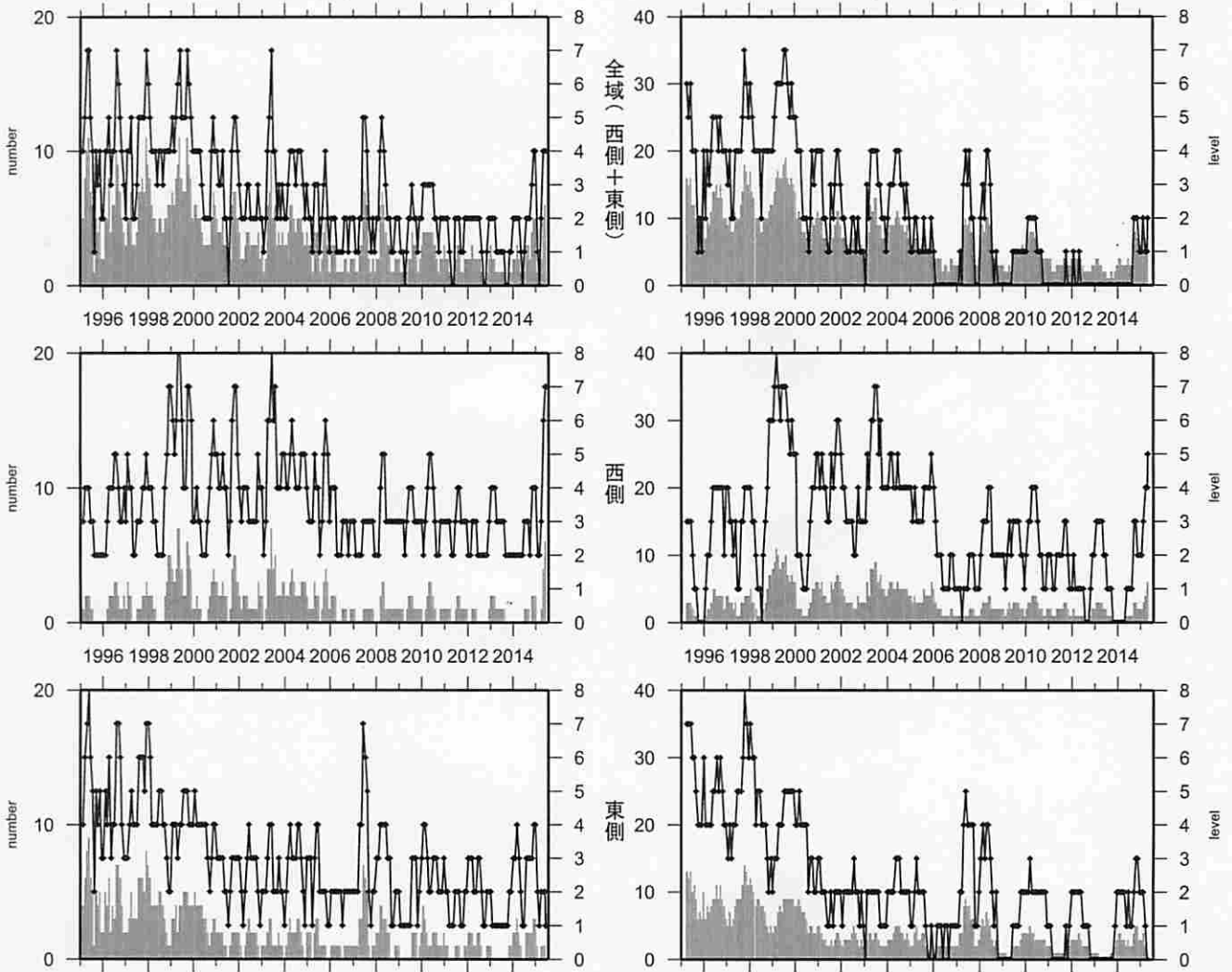
地殻内はやや低い(1)、
フィリピン海プレート内はやや低い(4から1)。

— : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスタを除く)

地震活動指数の推移

③ 浜名湖周辺（フィリピン海プレート内）

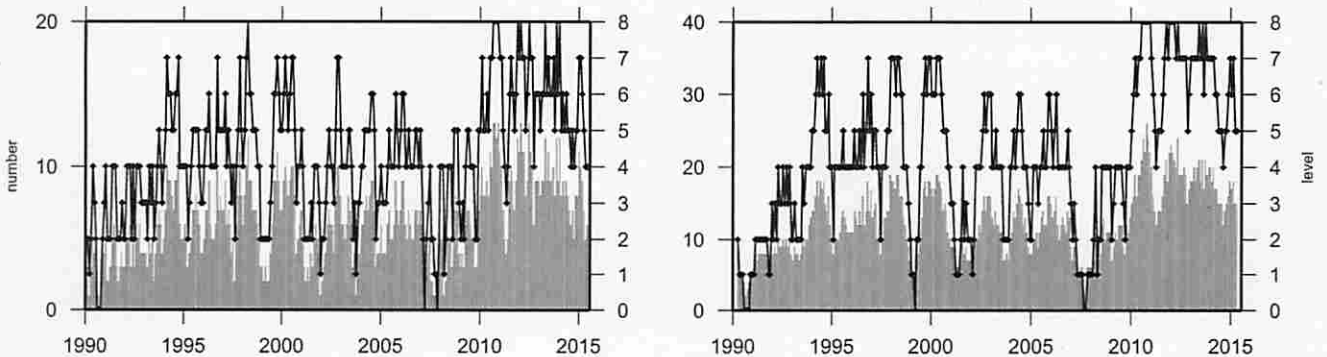
(90日) 1995/1/1~2015/7/22 M ≥ 1.1 (180日)



フィリピン海プレート内の地震活動はやや低い(4から2)。

④ 駿河湾

(90日) 1990/1/1~2015/7/22 M ≥ 1.4 (180日)



地震活動はほぼ平常(4から5)。

ただし、2009年8月11日 駿河湾の地震 (M6.5) と、2011年8月1日 駿河湾の地震 (M6.2) の余震活動の影響が残っている。

／：地震活動指数 (0-8)
■：地震回数 (クラスタを除く)

静穏化・活発化領域の検出（東海地方、地殻内）

抽出した地震
 東海地方、地殻内で発生した
 M 1.1 以上の地震

- : 全期間の地震
- : 解析対象期間内に発生した地震

クラスター除去（デクラスター）
 震央距離 3.0 km 以内、発生時刻 7.0 日以内
 の地震をグループ化し、最大地震で代表させる

図の注釈

静穏化

- : 半径 15.0 km 以内でレベル 0
- : 半径 20.0 km 以内でレベル 0

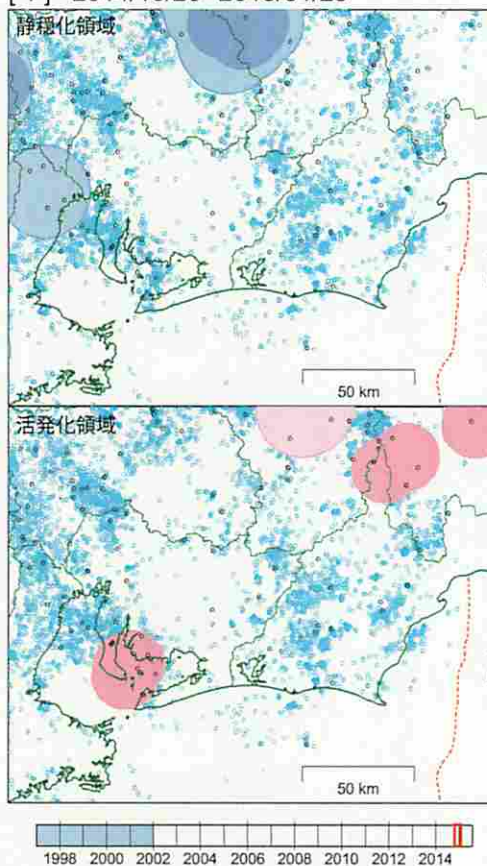
活発化

- : 半径 15.0 km 以内でレベル 8
- : 半径 20.0 km 以内でレベル 8

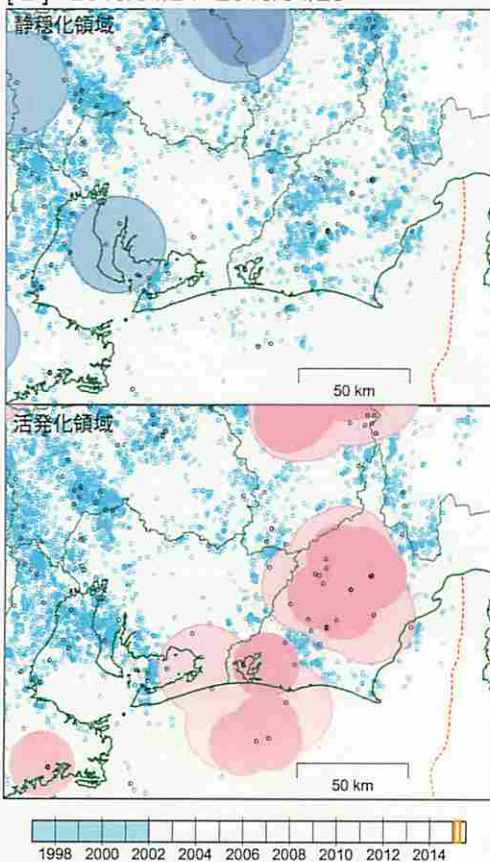
タイムバー

- 全体 : 検出領域中心として解析に用いたデータの期間
- : 基準期間
- : 解析対象期間

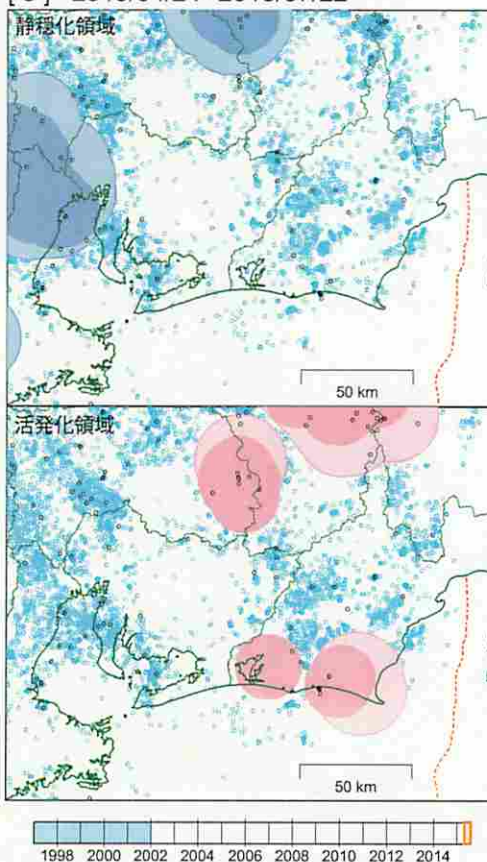
[1] 2014/10/26--2015/01/23



[2] 2015/01/24--2015/04/23



[3] 2015/04/24--2015/07/22



静穏化・活発化領域の検出（東海地方、プレート内）

抽出した地震
東海地方、プレート内で発生した
M 1.1 以上の地震

- ：全期間の地震
- ：解析対象期間内に発生した地震

クラスタ除去（デクラスタ）
震央距離 3.0 km 以内、発生時刻 7.0 日以内
の地震をグループ化し、最大地震で代表させる

図の注釈

静穏化

- ：半径 15.0 km 以内でレベル 0
- ：半径 20.0 km 以内でレベル 0

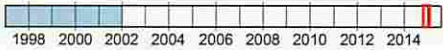
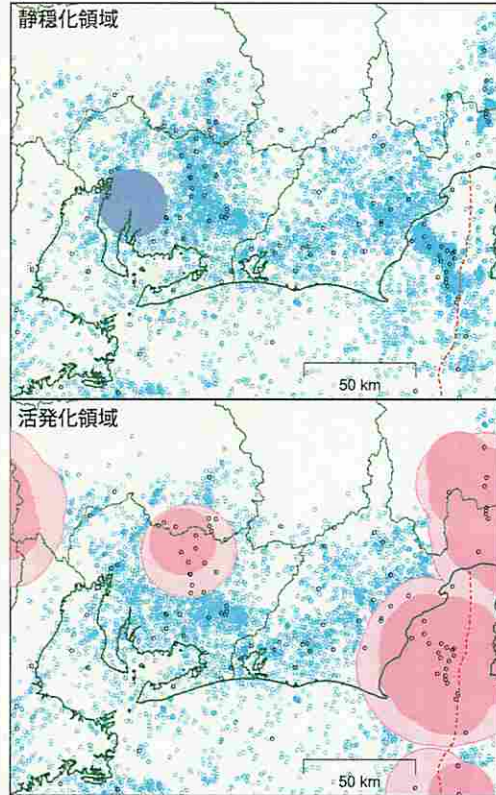
活発化

- ：半径 15.0 km 以内でレベル 8
- ：半径 20.0 km 以内でレベル 8

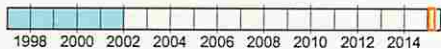
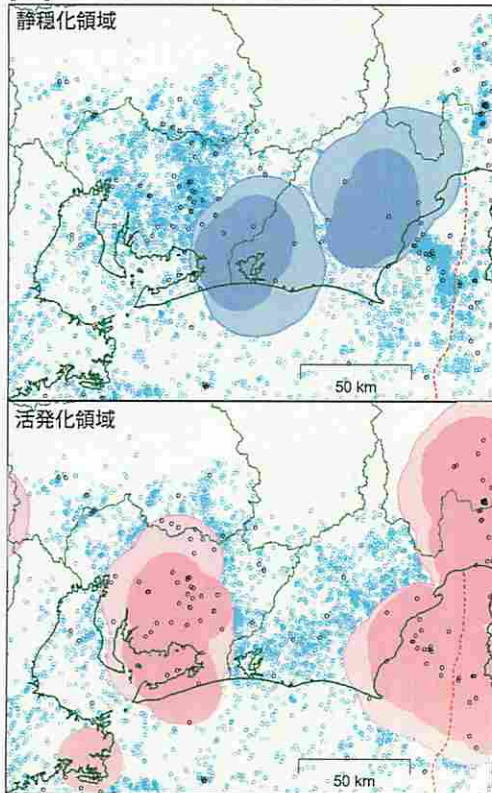
タイムバー

- 全体：検出領域中心として解析に用いたデータの期間
- ：基準期間
- ：解析対象期間

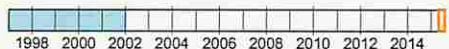
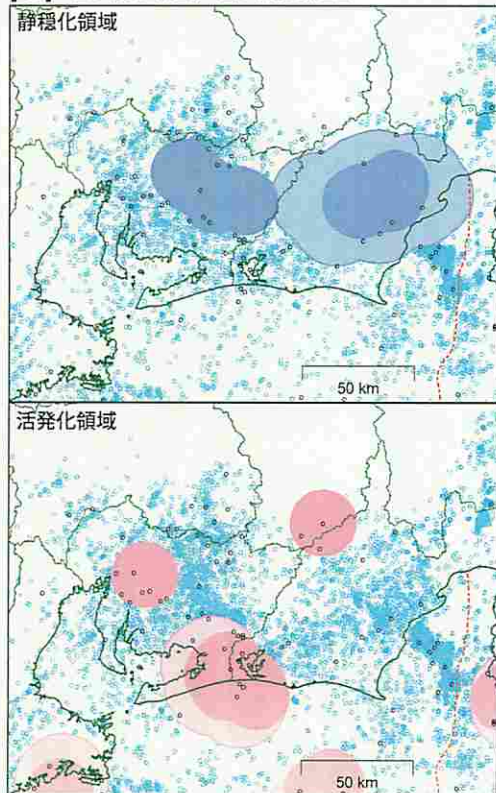
[1] 2014/10/26--2015/01/23



[2] 2015/01/24--2015/04/23

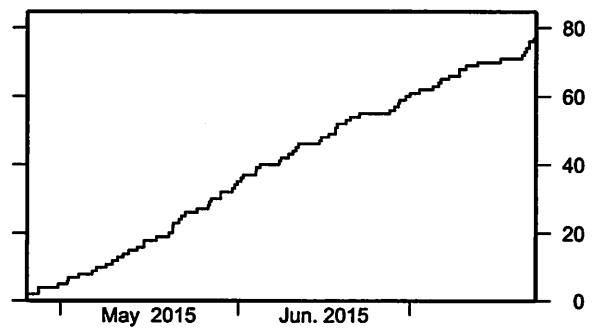
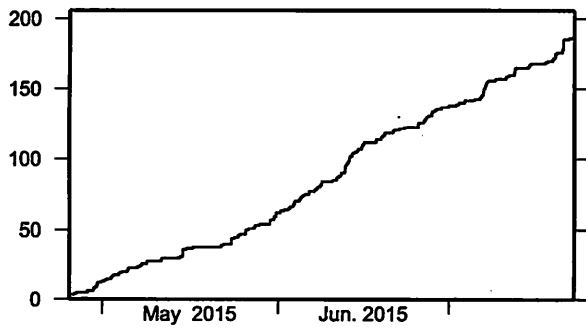
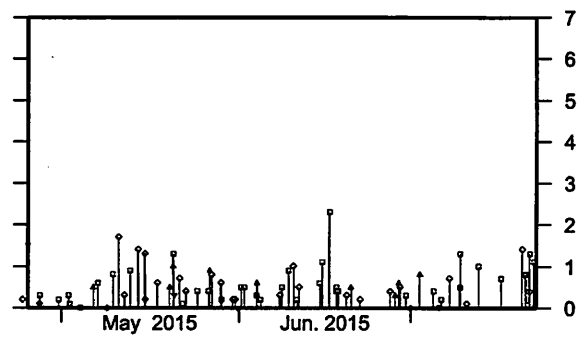
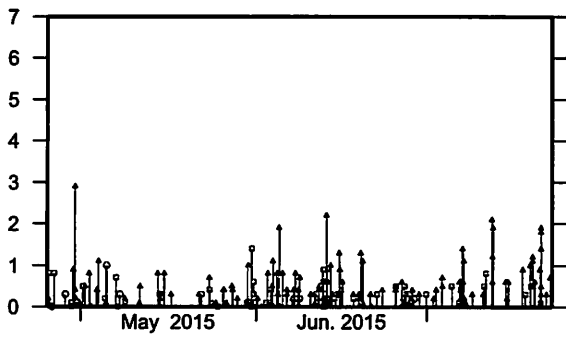
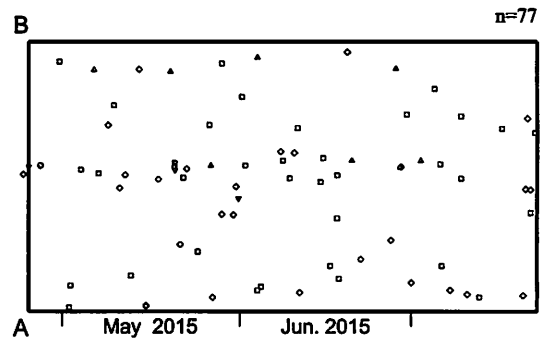
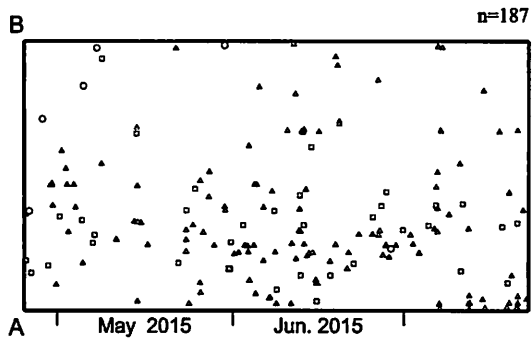
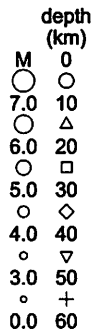
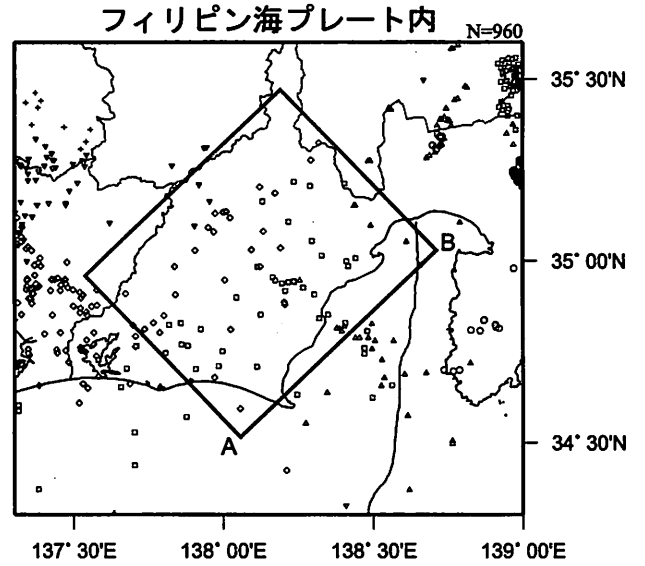
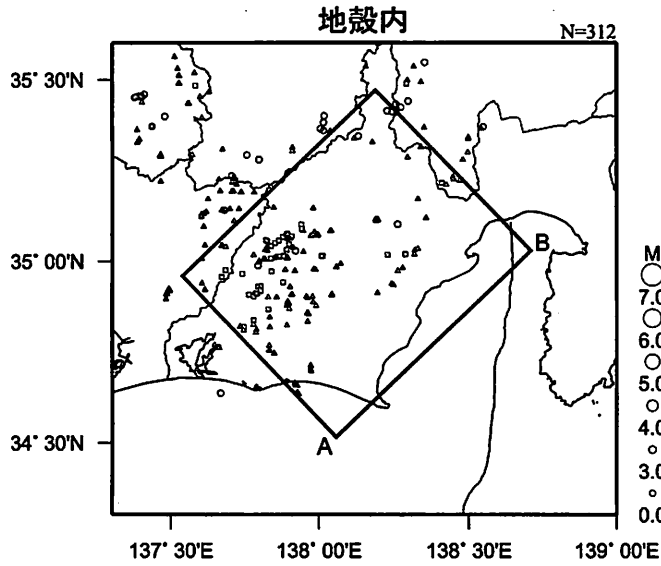


[3] 2015/04/24--2015/07/22

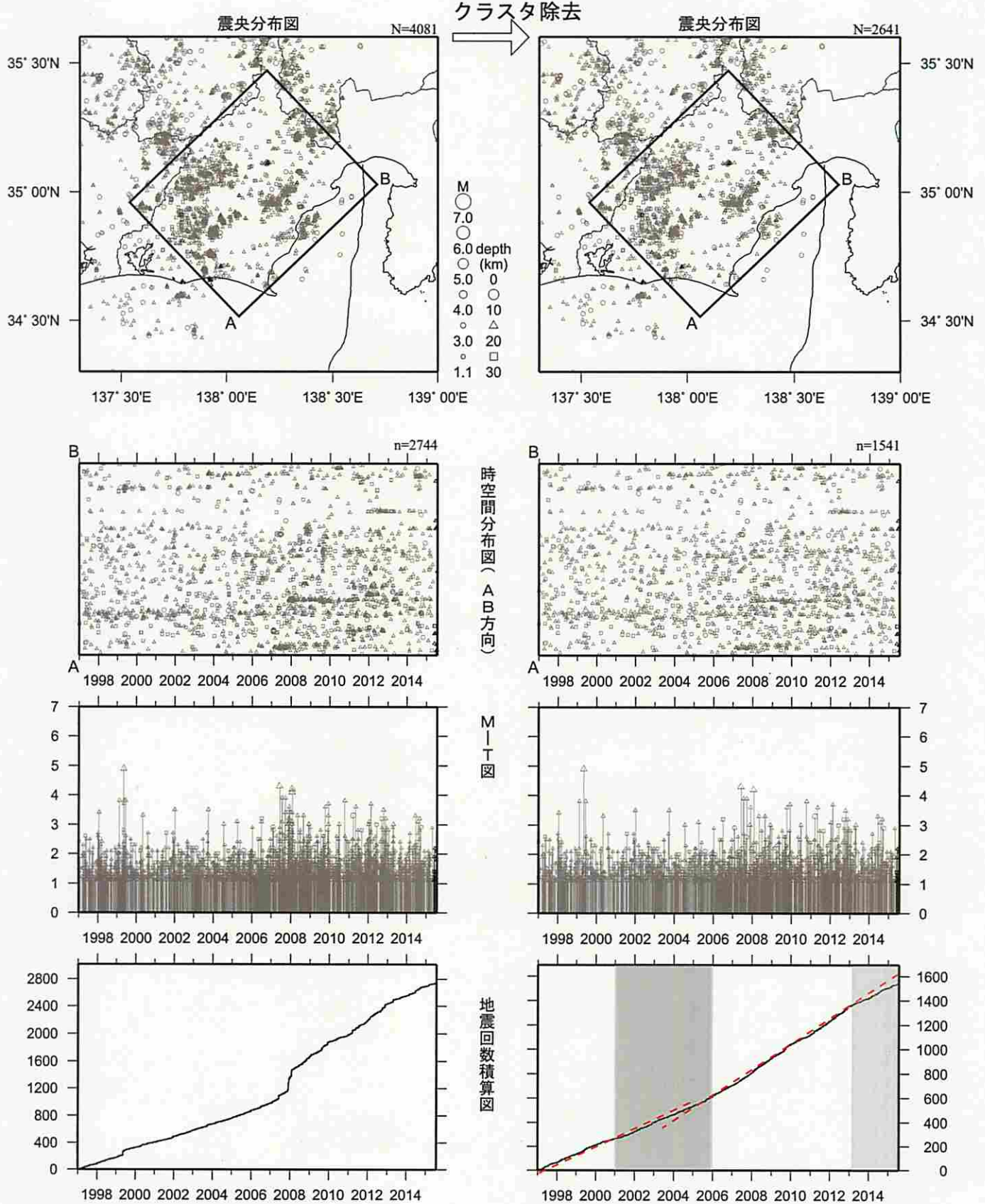


静岡県中西部 (最近90日)

2015/4/24~2015/7/22 M ≥ 0.0 0 ≤ 深さ(km) ≤ 60



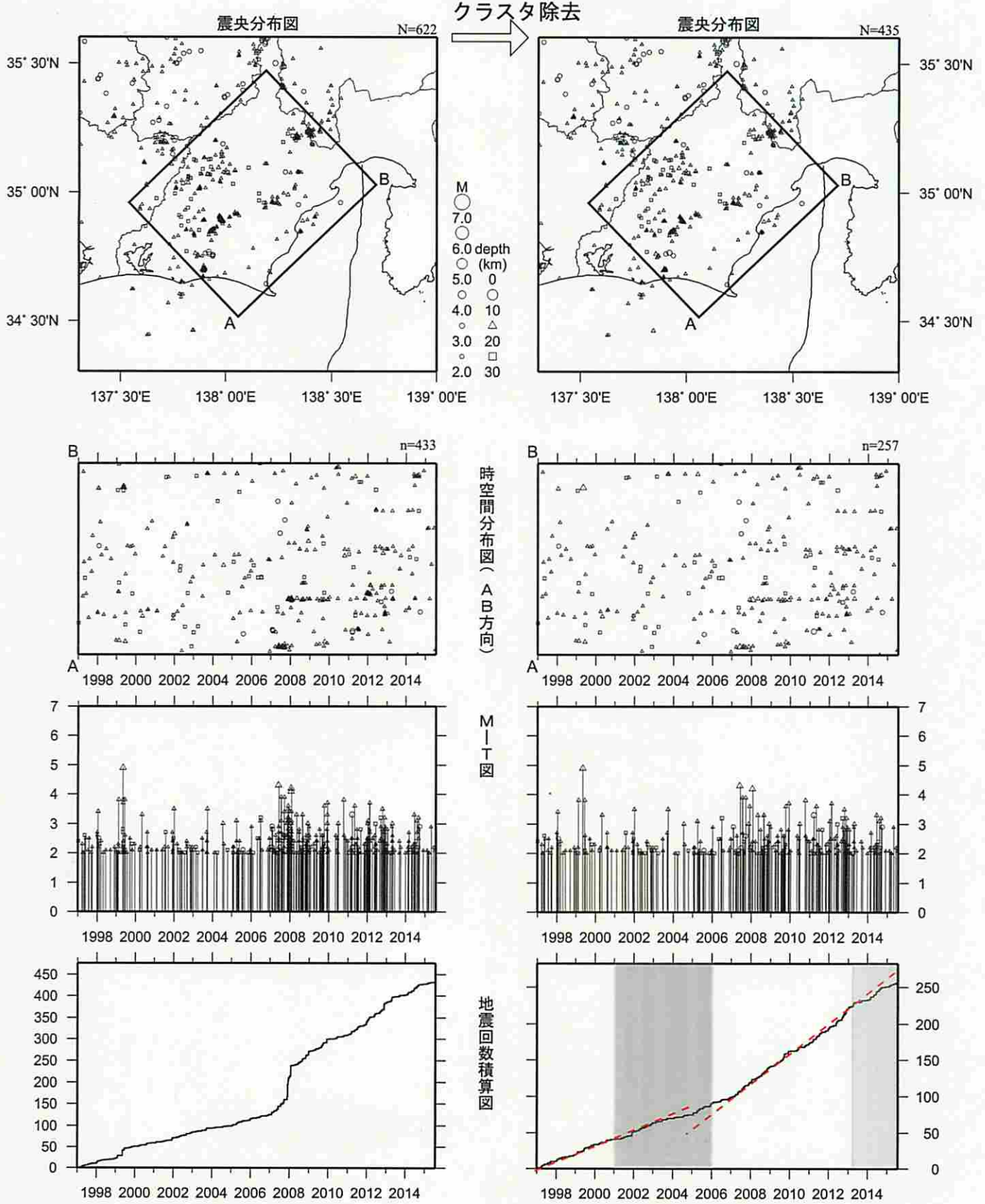
静岡県中西部（地殻内）
1997/1/1~2015/7/22 M ≥ 1.1



クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）を見ると、長期的ゆっくりすべり発生の時期（右下図濃い網掛け領域）に対応して地震活動が変化している。

また、2013年に入ってから、再び活動が低調になってきており、今回の長期的ゆっくりすべり発生の可能性が示唆されている期間と概ね対応する。

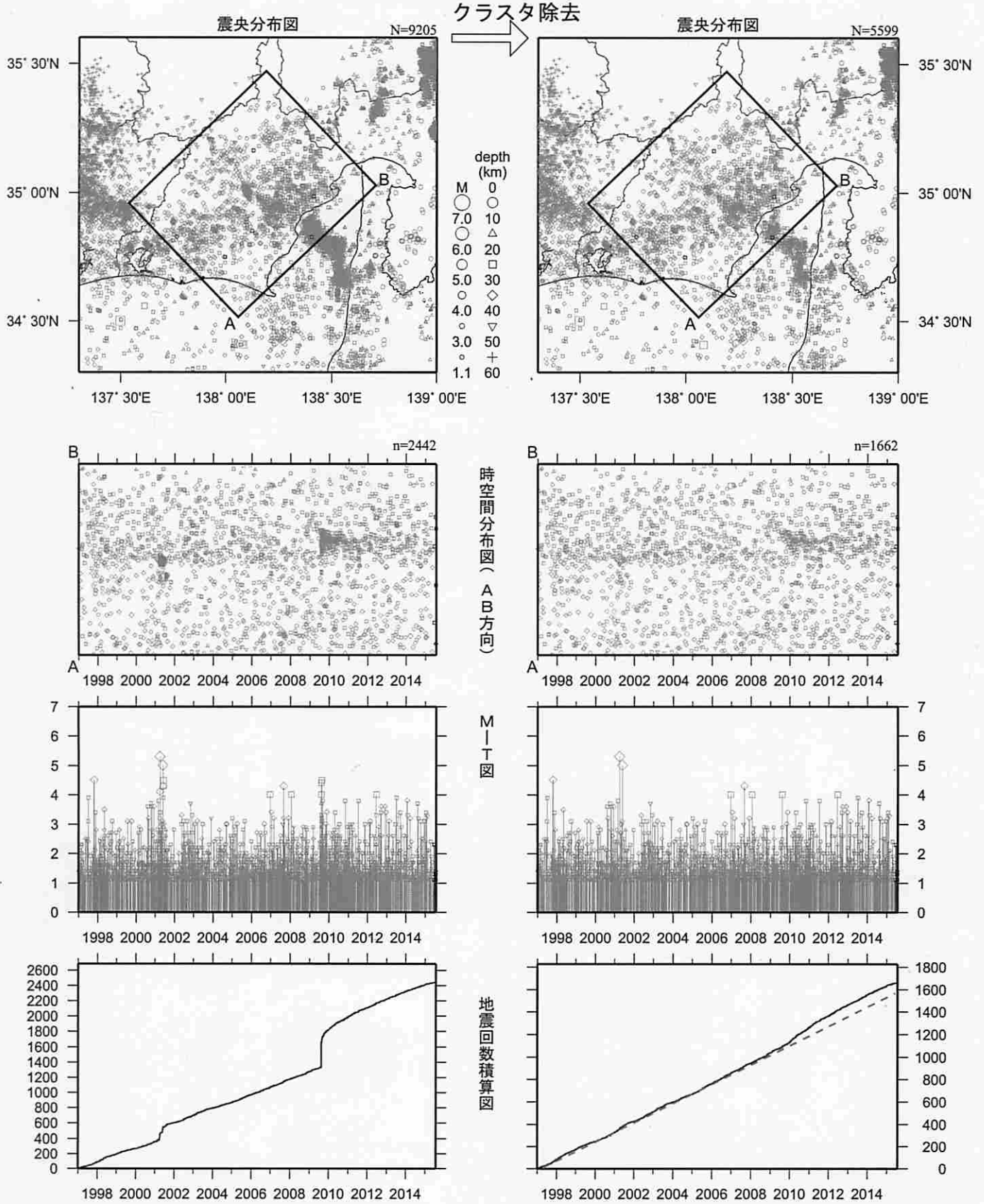
静岡県中西部（地殻内）
1997/1/1~2015/7/22 M \geq 2.0



クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）を見ると、M1.1以上と同じように概ね長期的ゆっくりすべりの開始時期（右下図濃い網掛け領域）に対応して地震活動が低下しているものの、再び地震活動が変化する時期は、すこし遅れて2007年頃から活発となっている。

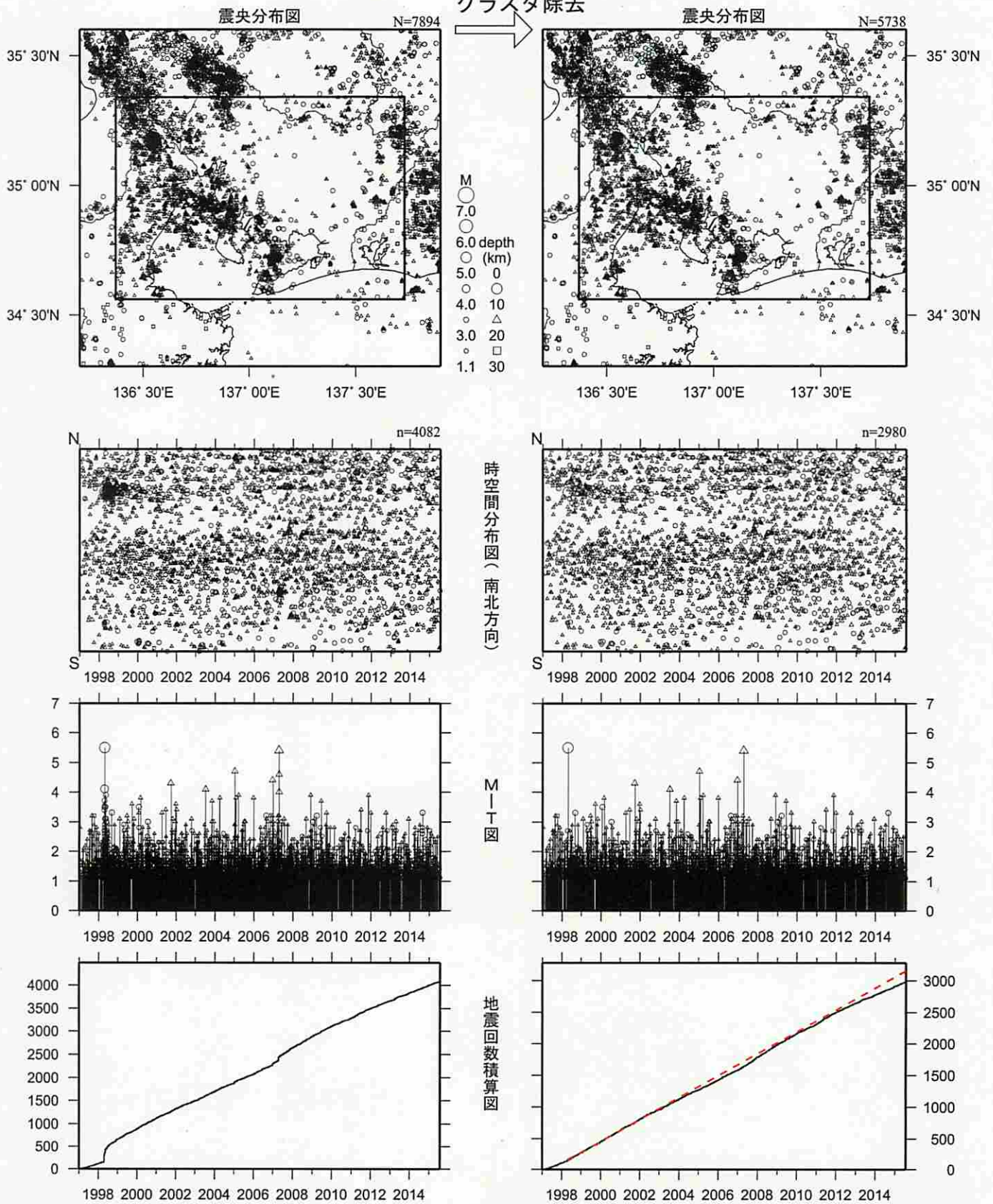
静岡県中西部（フィリピン海プレート内）

1997/1/1~2015/7/22 M \geq 1.1



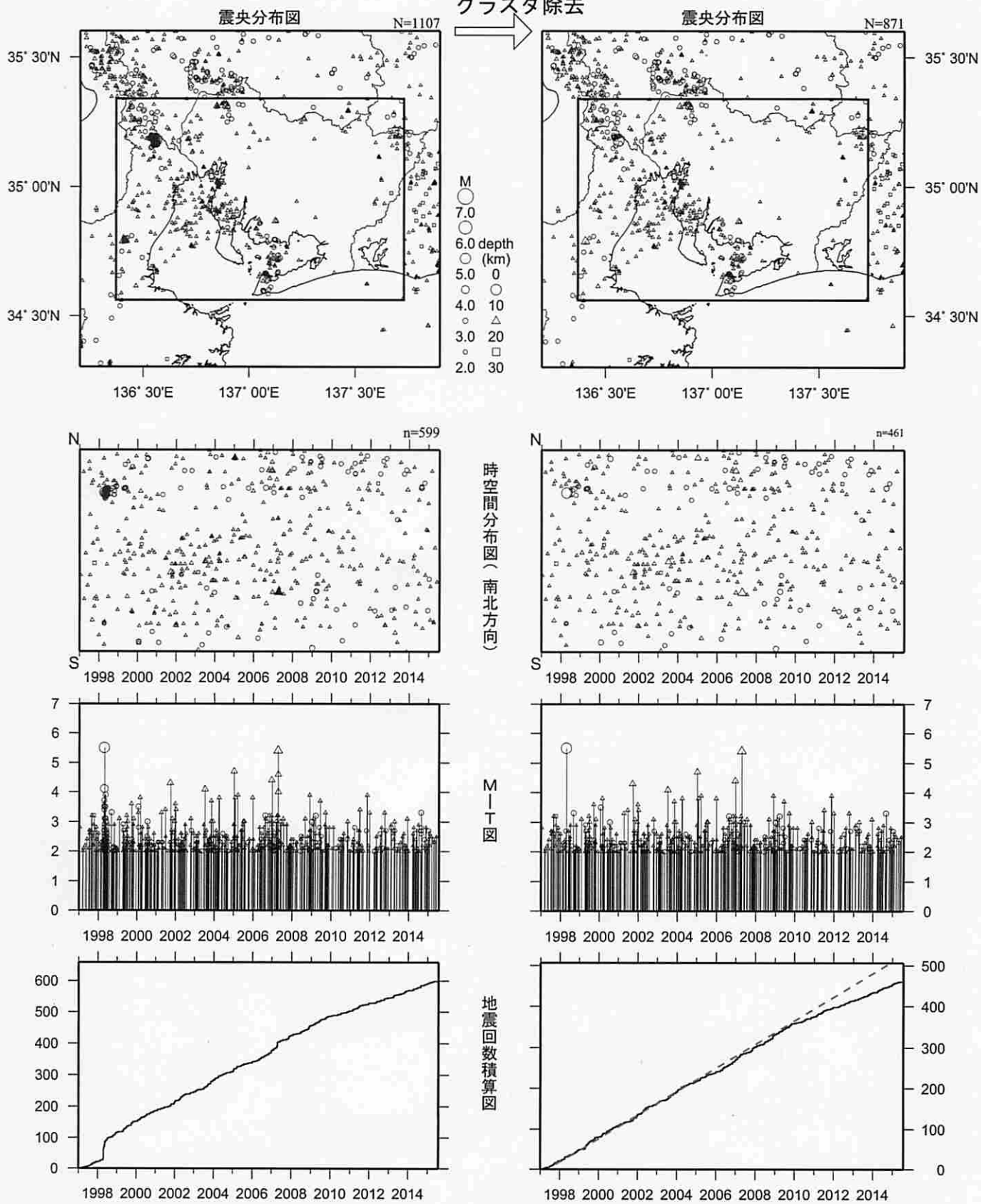
2009年末から2011年初めまで、地震活動指数はやや高い状態を示しており、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からも同様な傾向が見られていた。これは2009年8月11日に発生した駿河湾の地震(M6.5)の余震活動が適切にデクラスタできていないためである。現在の地震活動指数は低下する傾向で推移している。

愛知県 (地殻内)
1997/1/1~2015/7/22 M ≥ 1.1



地震活動指数は2013年以降やや少ない状態を示しており、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)も、2013年以降はやや低調で推移している。

愛知県 (地殻内)
1997/ 1/ 1~2015/ 7/22 M ≥ 2.0

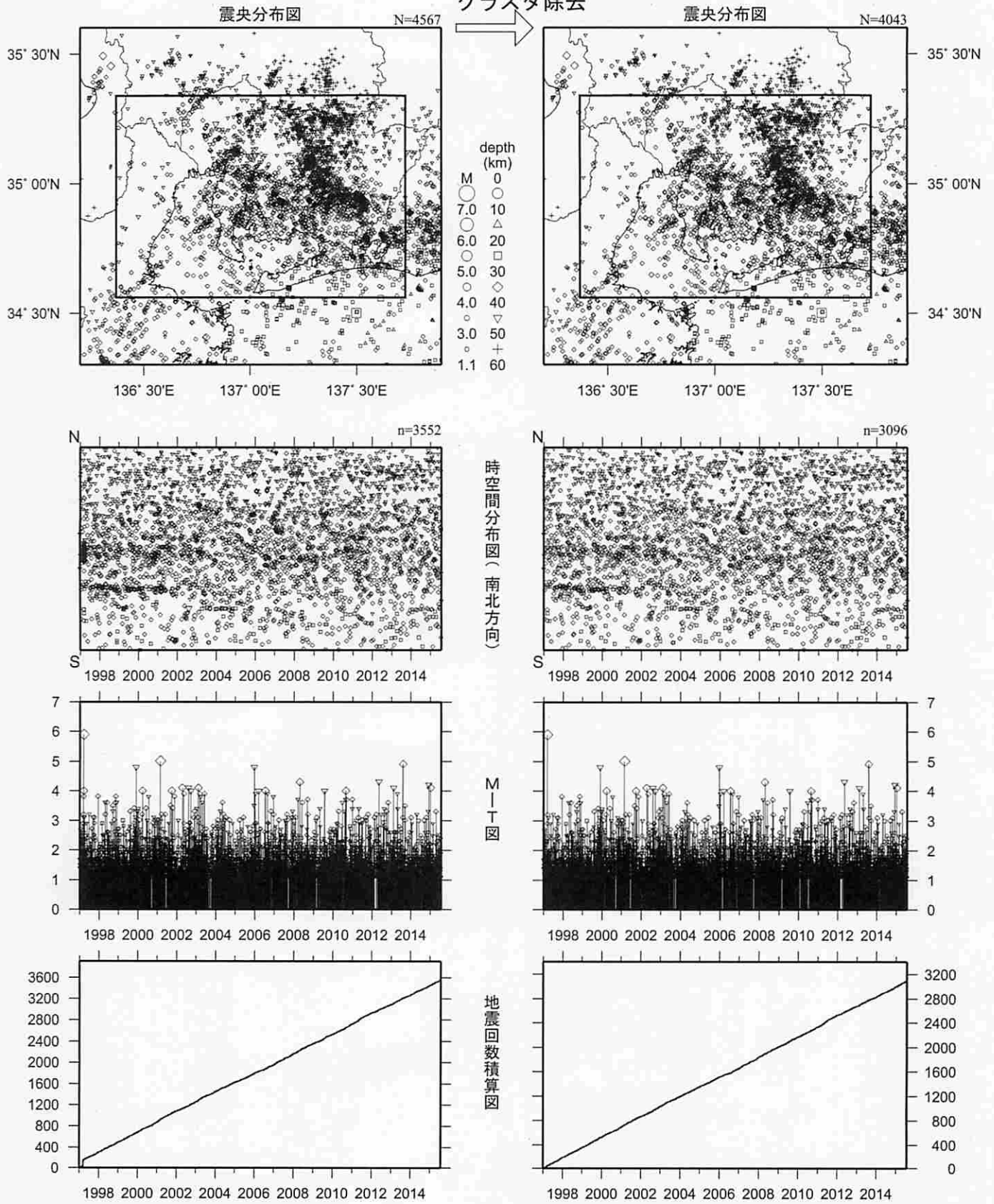


クラスタ除去後のM2.0以上の地震回数積算図(右下図)を見ると、地震活動が2009年終わり頃からそれ以前に比べてやや少ない状態で推移しているように見える。

愛知県 (フィリピン海プレート内)

1997/1/1~2015/7/22 M ≥ 1.1

クラスタ除去

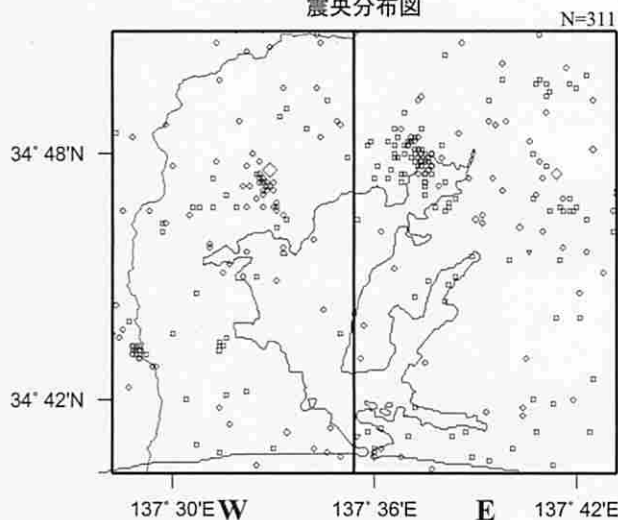


クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)に、特段の変化は見られない。

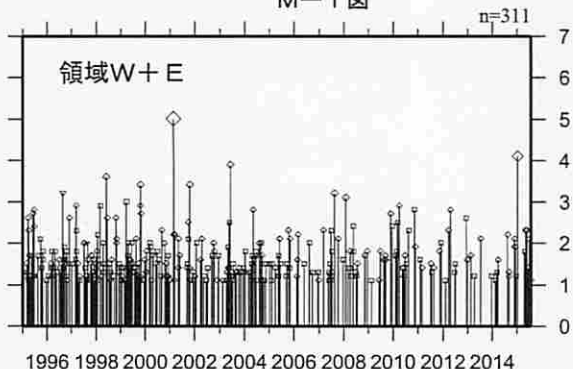
浜名湖周辺（フィリピン海プレート内）

1995/1/1~2015/7/22 M \geq 1.1 * クラスタ除去したデータ

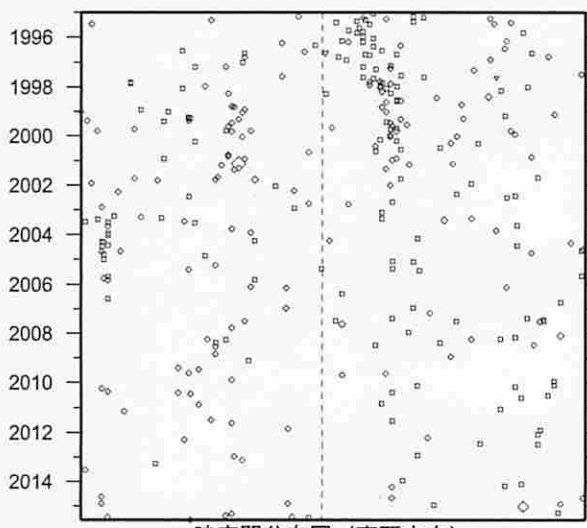
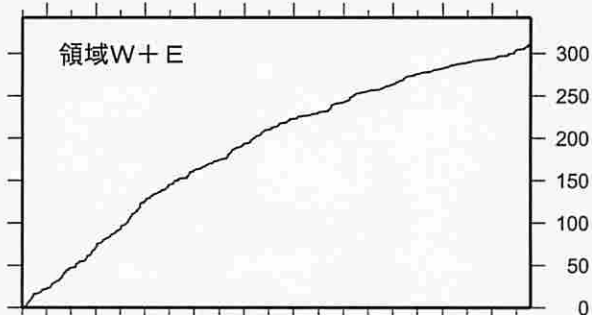
震央分布図



M-T図

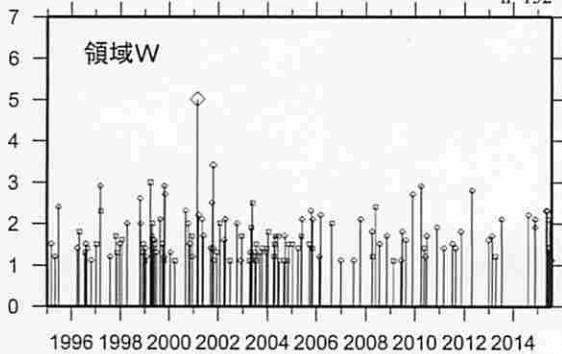


地震回数積算図



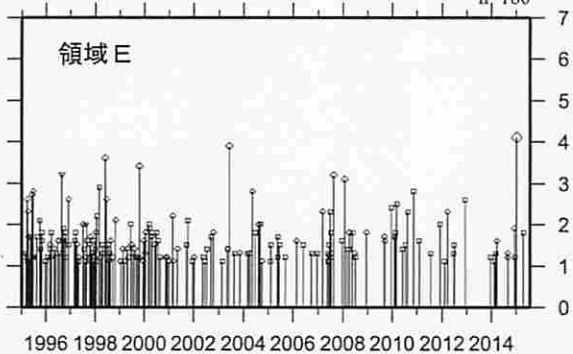
時空間分布図 (東西方向)

n=132



1996 1998 2000 2002 2004 2006 2008 2010 2012 2014

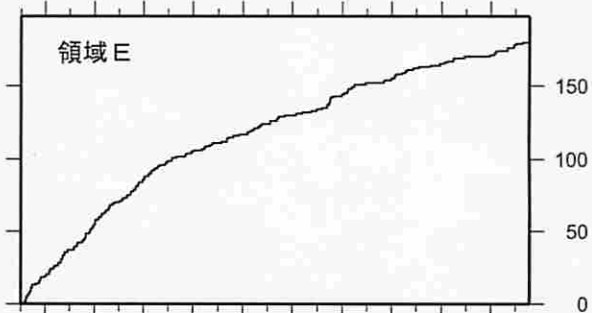
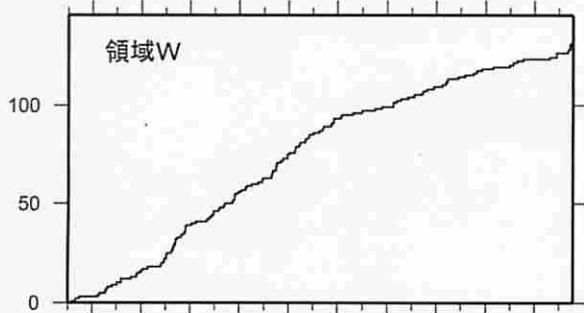
n=180



1996 1998 2000 2002 2004 2006 2008 2010 2012 2014

M-T図

地震回数積算図



[東側] 地震回数積算図 (右下図) を見ると、地震活動は2000年以降低調。

[西側] 地震回数積算図 (左下図) を見ると、2006年以降低調。

駿河湾

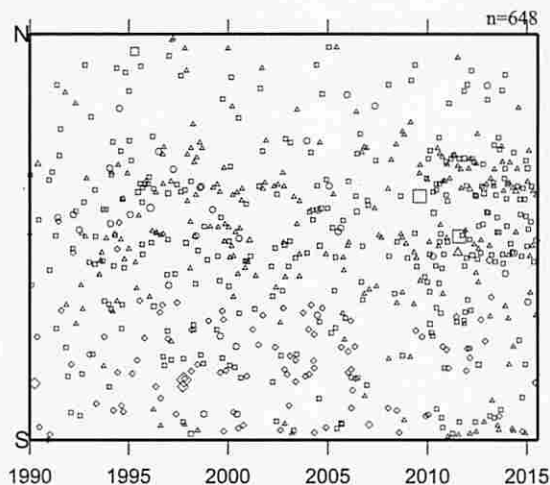
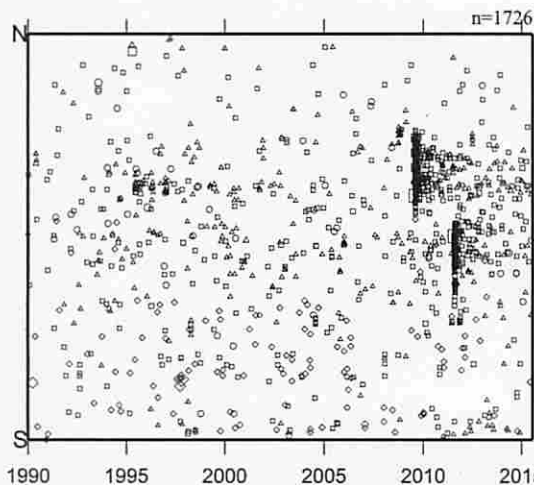
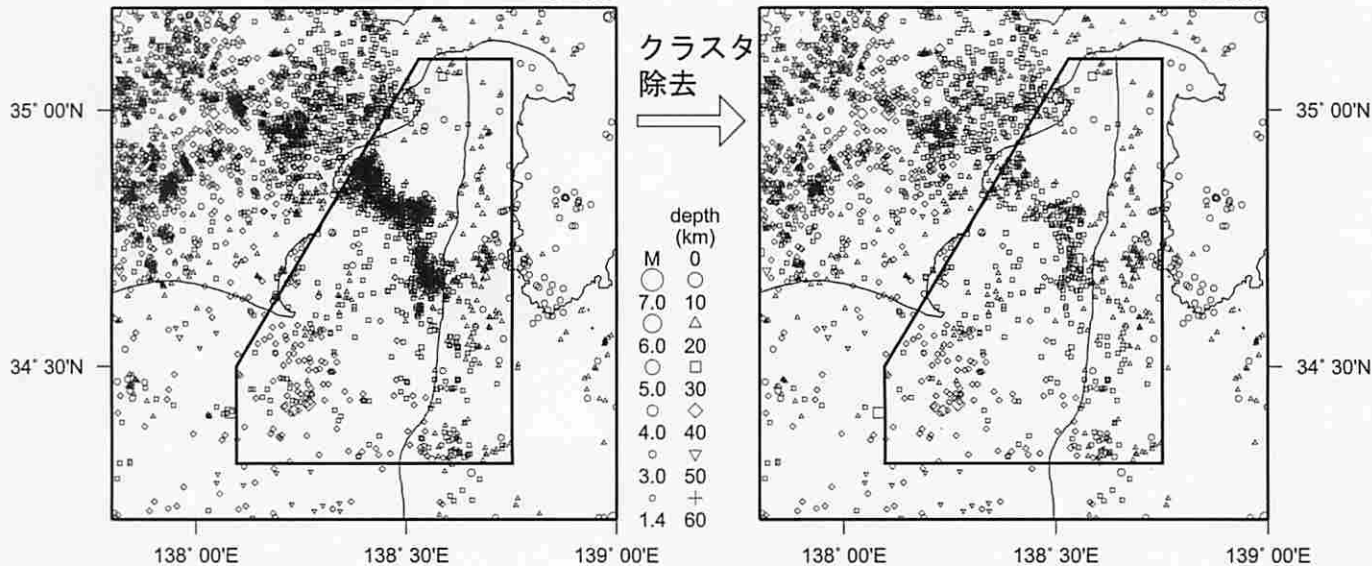
1990/1/1~2015/7/22 M ≥ 1.4

震央分布図

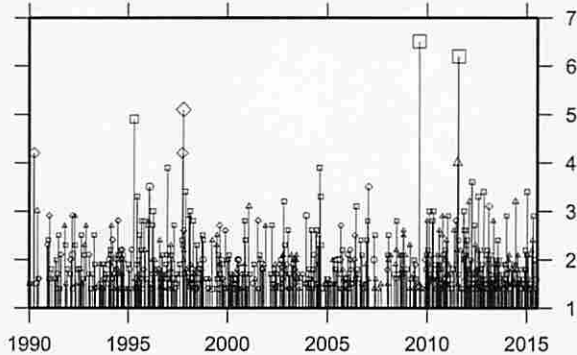
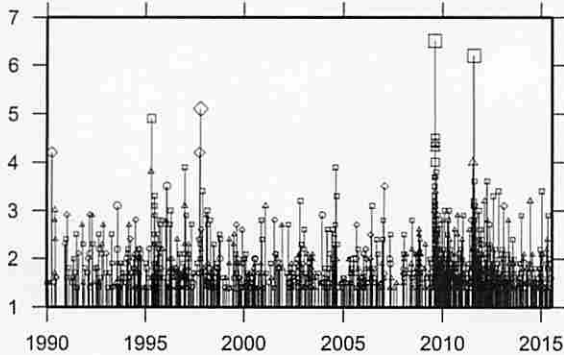
N=4529

震央分布図

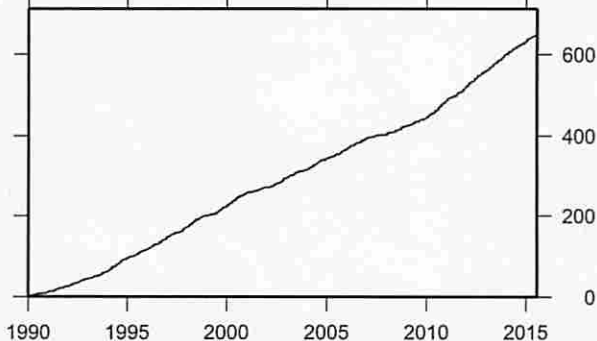
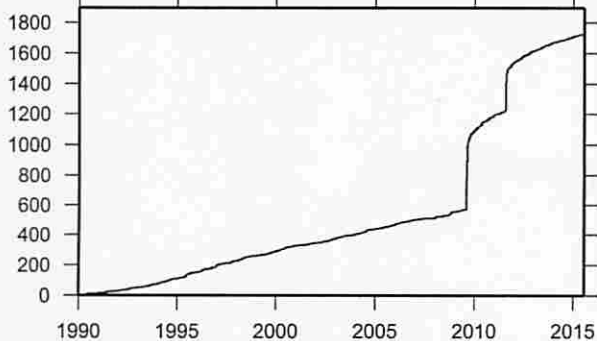
N=2253



時空間分布図 (南北方向)



M-I-T図



地震回数積算図

2010年頃から地震活動指数はやや高い状態を示しており、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からも同様の傾向が見られる。これは、2009年8月の駿河湾の地震(M6.5)と、2011年8月の駿河湾の地震(M6.2)余震活動が適切にデクラスタされていないためである。

駿河湾

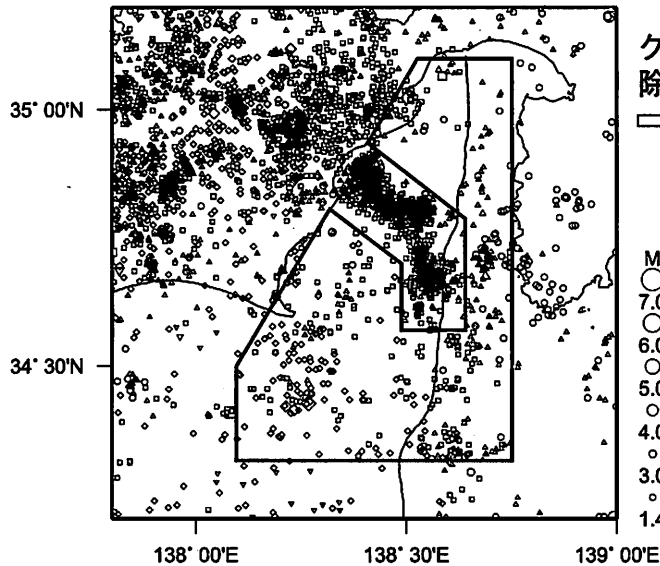
1990/1/1~2015/7/22 M ≥ 1.4

震央分布図

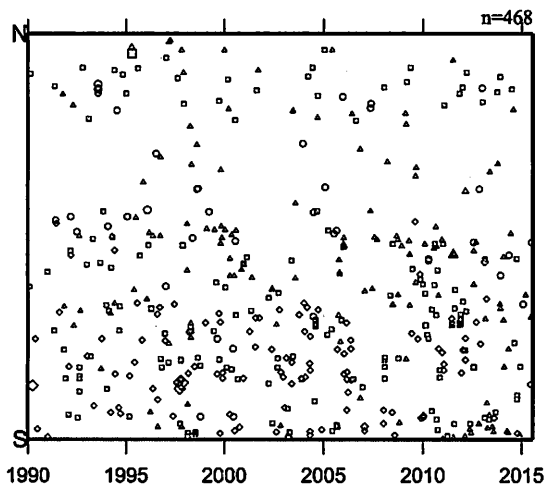
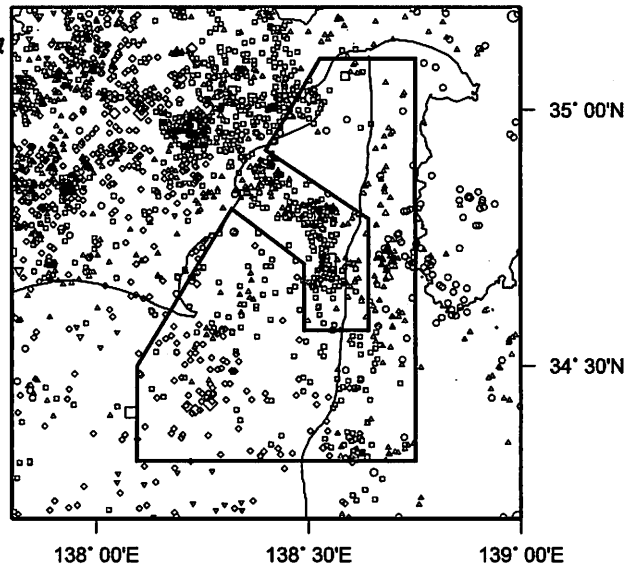
N=4529

震央分布図

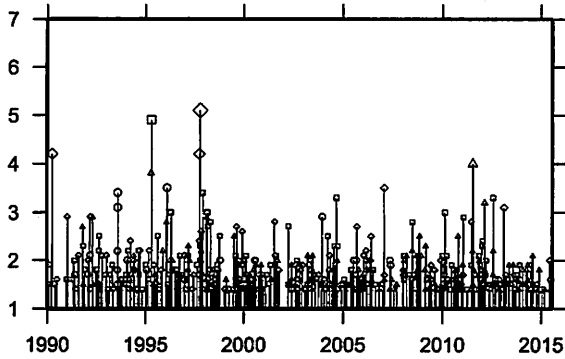
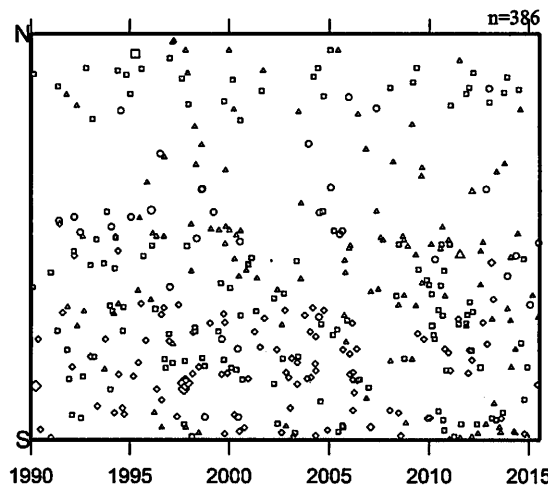
N=2253



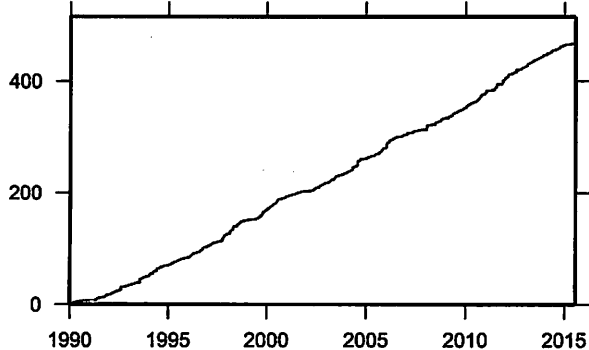
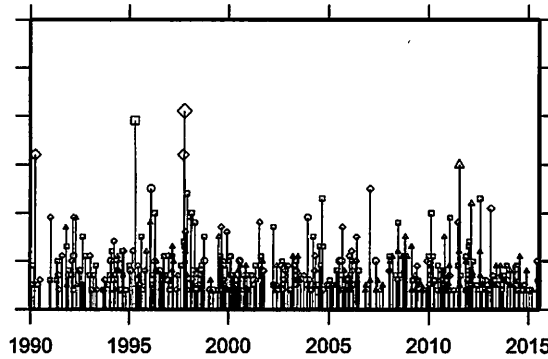
クラスタ除去
→



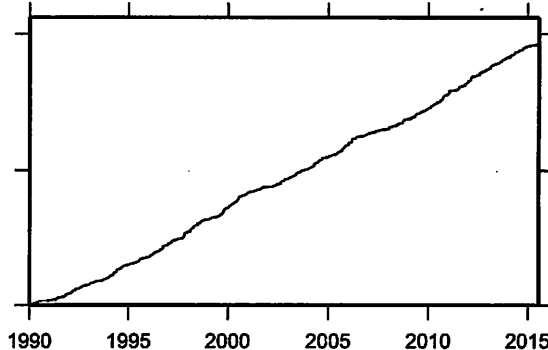
時空間分布図(南北方向)



地震活動経過図(規模別)



地震回数積算図

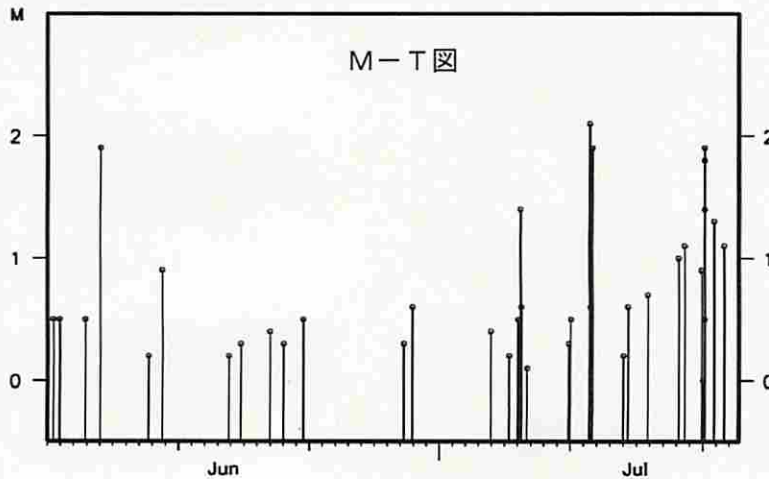
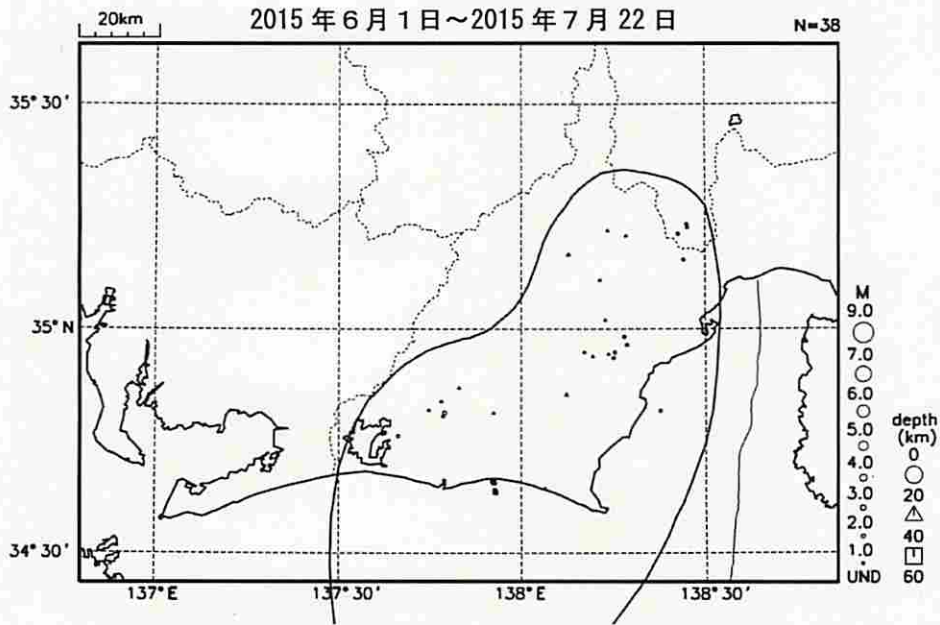


2009年8月の駿河湾の地震(M6.5)と、2011年8月の駿河湾の地震(M6.2)の余震活動域を除外した。

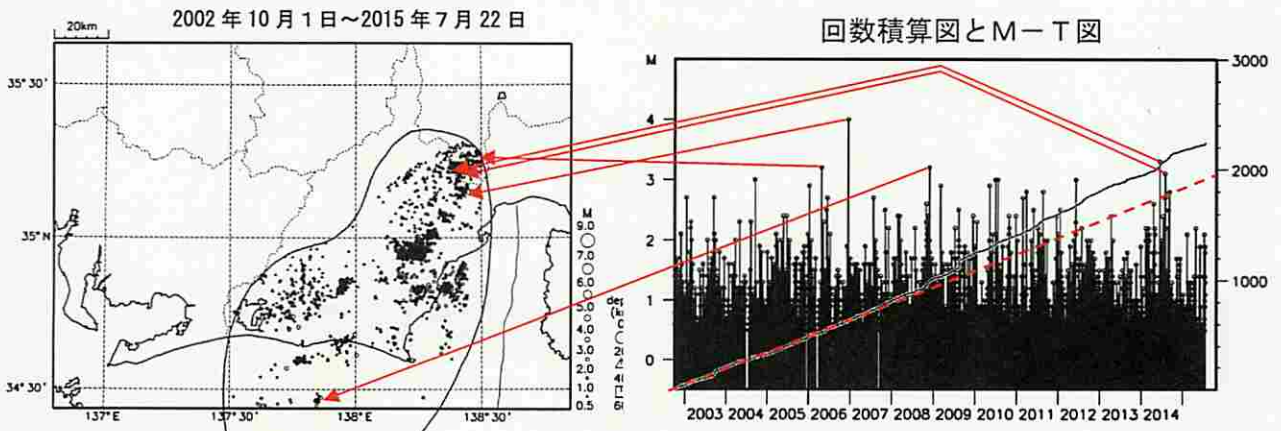
プレート境界とその周辺の地震活動(最近の活動状況)

(Hirose et al. (2008)によるフィリピン海プレート上面深さの±3kmの地震を抽出)

プレート境界とその周辺の地震の震央分布 (最近約1ヶ月半、Mすべて)



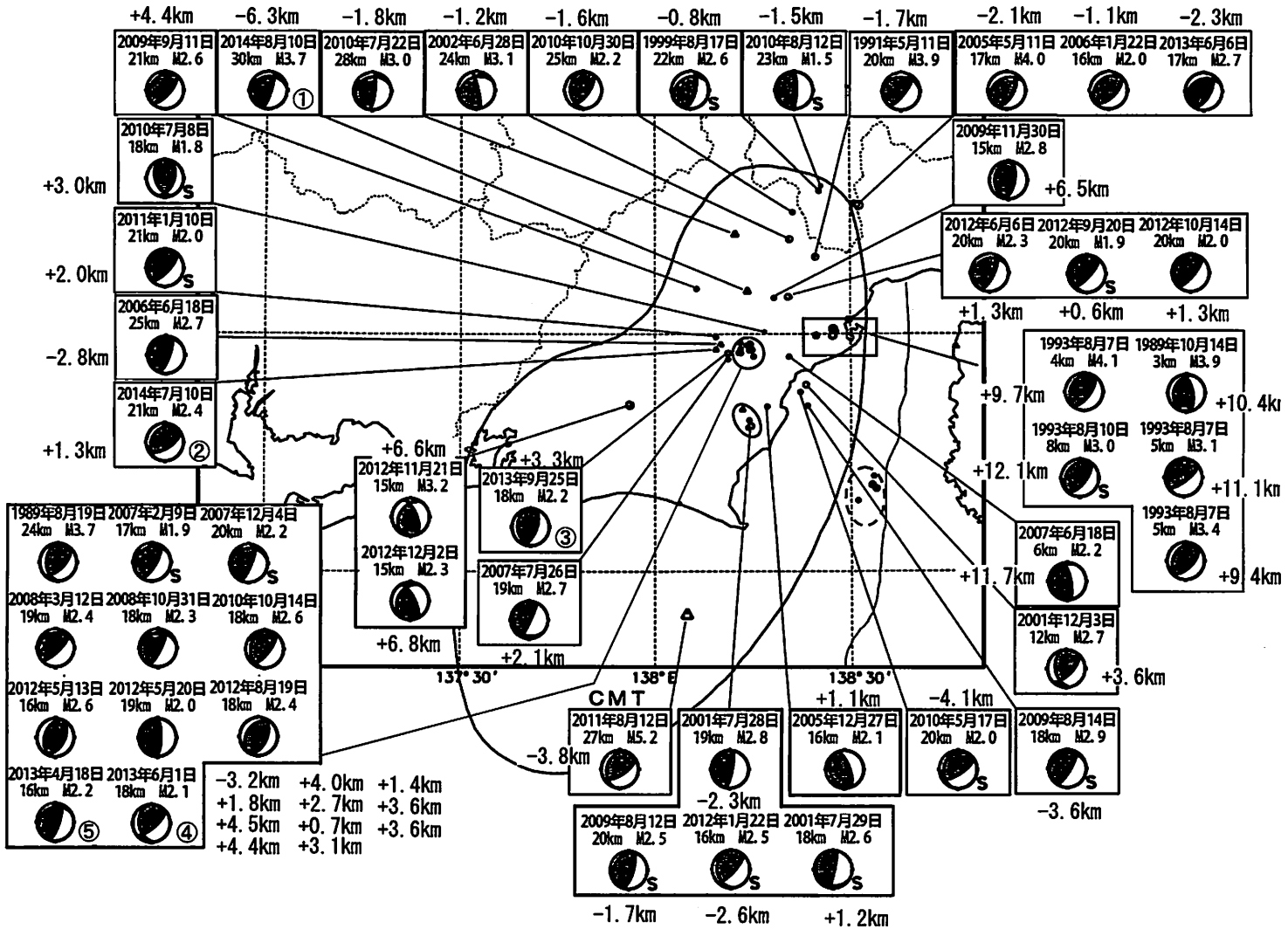
プレート境界とその周辺の地震の震央分布 (2002年10月以降、M≥0.5)



2002年10月以降 (M≥0.5) で見ると、東海地域のプレート境界とその周辺の地震活動は、2007年中頃あたりからやや活発に見える。なお、2009年8月11日以降は、駿河湾の地震(M6.5)の余震活動の一部を抽出している。M3を超える地震については、その震央を矢印で示しているが、これらの地震の発震機構解は想定東海地震のものとは類似の型ではない。

想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震

1987年9月1日～2015年7月22日



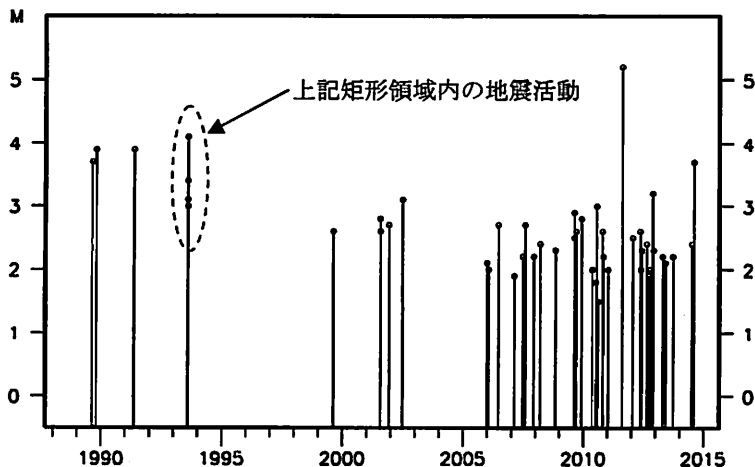
吹き出しの傍に書かれた値は、Hirose et al. (2008)によるプレート境界からの鉛直方向の距離。+はプレート境界より浅く、-は深いことを示す。

最近発生した5つの地震については、丸数字で順番を示す。

想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震を抽出した。抽出条件は、P軸の傾斜角が45度以下、かつP軸の方位角が65度以上145度以下、かつT軸の傾斜角が45度以上、かつN軸の傾斜角が30度以下とした。

プレート境界で発生したと疑われる地震の他、明らかに地殻内またはフィリピン海プレート内で発生したと推定される地震も含まれている。また、2009年までに発生した地震については、Nakamura et al. (2008)の3次元速度構造で震源とメカニズム解を再精査し、いくつかの地震は候補から削除されている。点線楕円で囲まれた地震は、2011年8月1日に発生したM6.2の地震の余震で、フィリピン海プレート内の地震である。

なお、吹き出し図中、震源球右下隣りにSの表示があるものは、発震機構解に十分な精度がない。



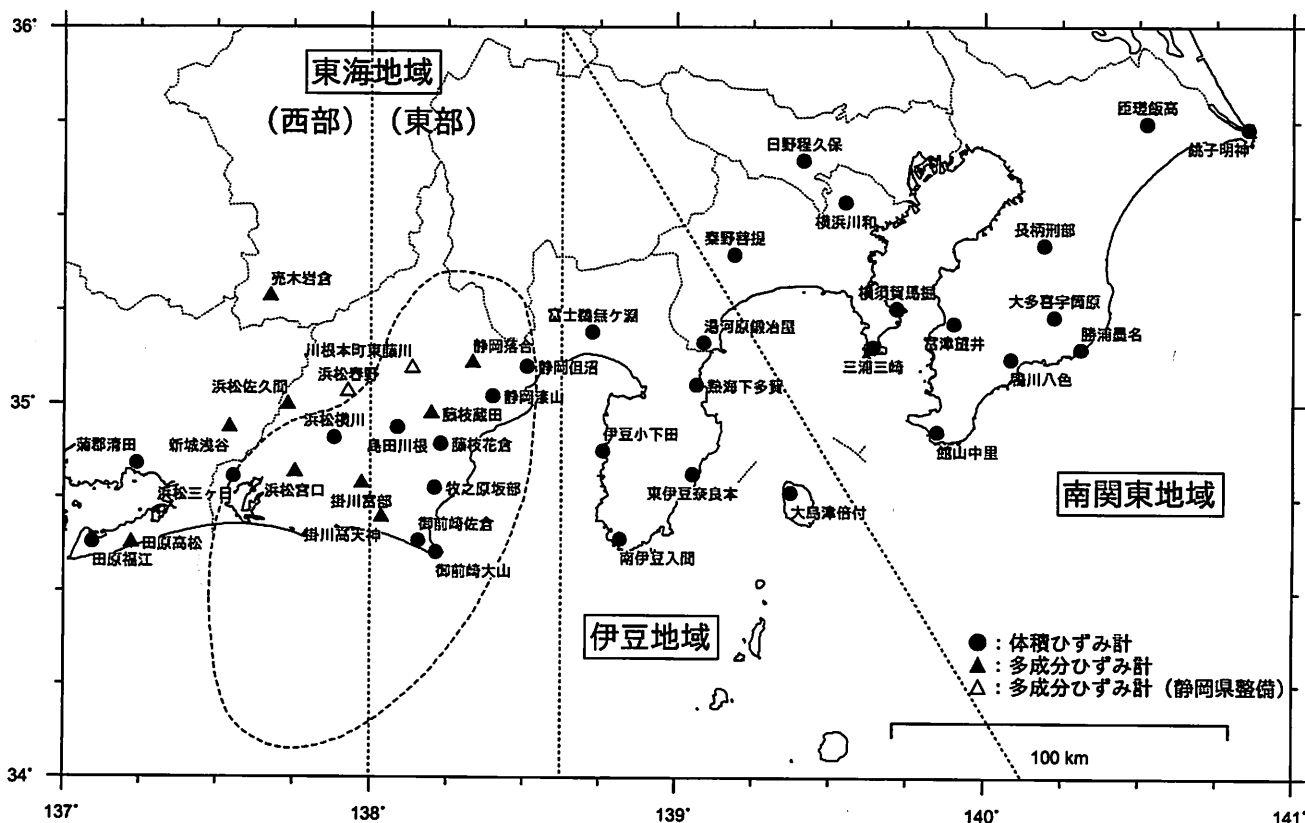
上記イベントの、想定震源域内におけるM-T図。

ひずみ計による観測結果 (2015年01月01日～2015年07月23日)

短期的ゆっくりすべりに起因すると見られる次の地殻変動がひずみ計で観測された。

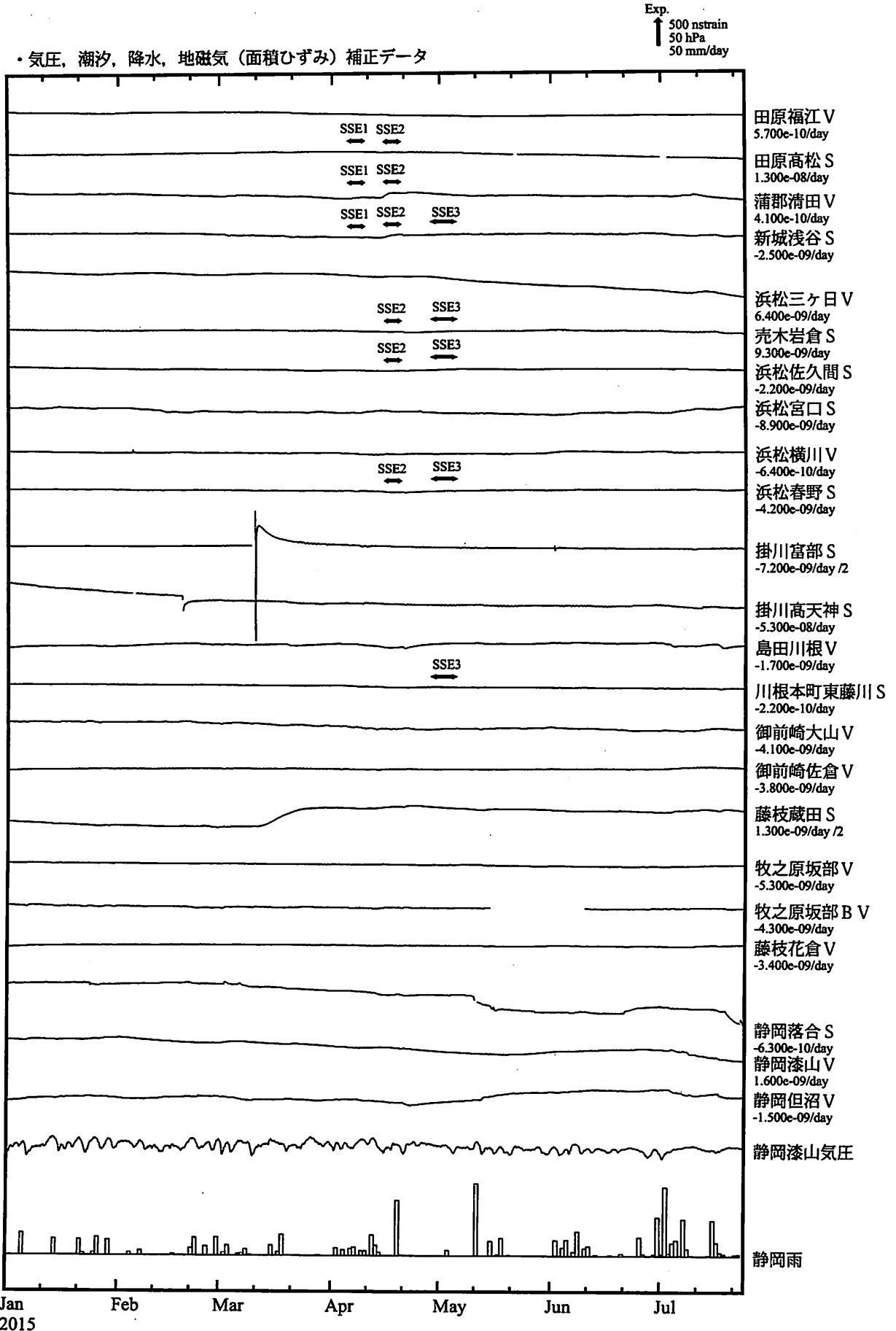
- SSE1 : 2015年04月04日から08日にかけて観測された。(第348回判定会資料参照)
- SSE2 : 2015年04月14日から18日にかけて観測された。(第348回判定会資料参照)
- SSE3 : 2015年04月26日から05月02日にかけて観測された。(第349回判定会資料参照)

ひずみ計の配置図



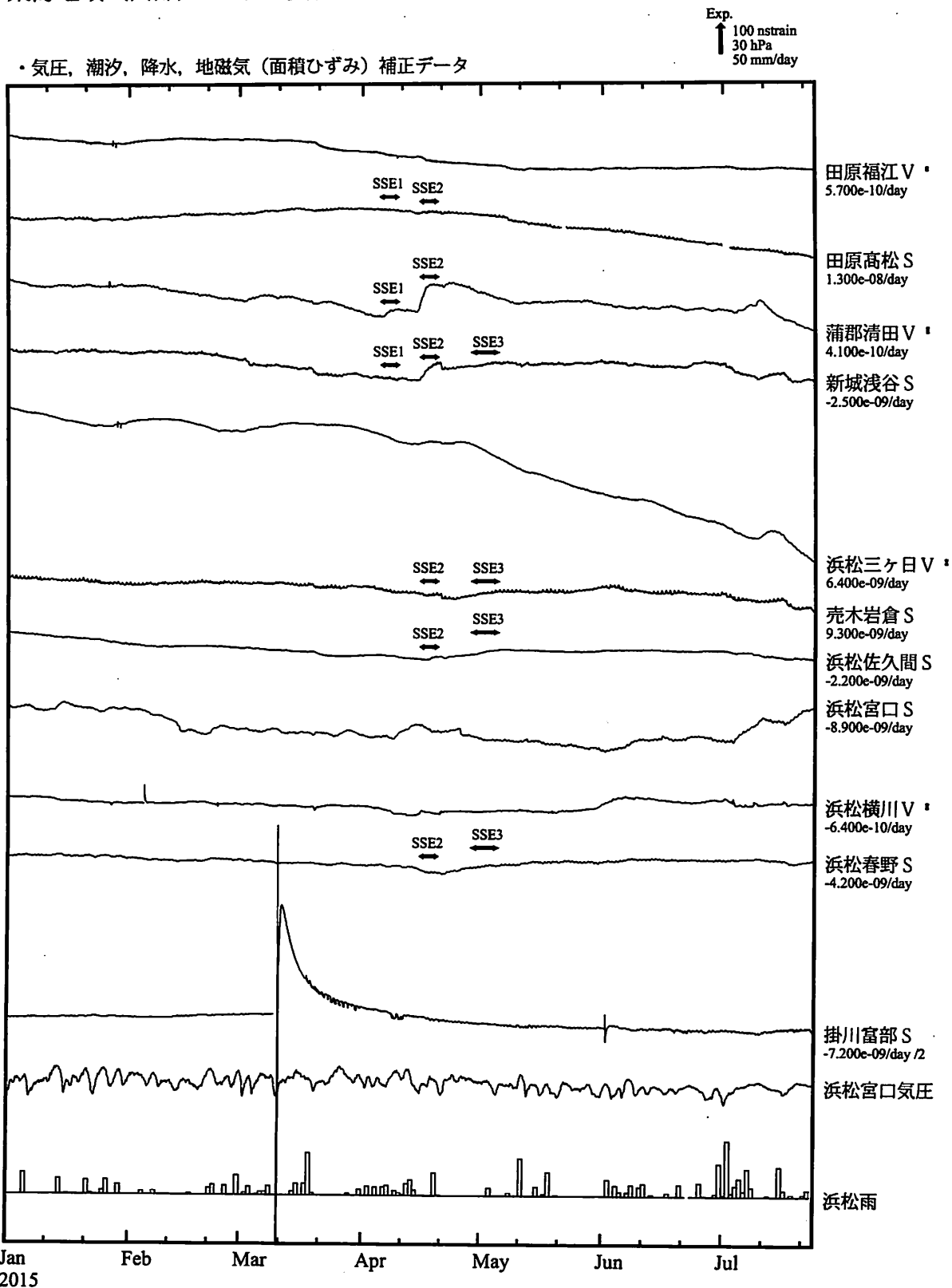
※観測点名の記号Vは体積ひずみを、Sは多成分ひずみ計で観測した線ひずみより計算した面積ひずみを示す。
 ※観測点名、観測成分名右側の縦棒は、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。
 ※多成分ひずみ計成分名の()内は測定方位、[]内は面積ひずみ計算に用いた成分を示す。
 ※多成分ひずみ計の最大剪断ひずみ、面積ひずみ及び主軸方向は、広域のひずみに換算して算出している。

東海地域 ひずみ変化 時間値



※田原高松、新城浅谷、売木岩倉、掛川高天神、藤枝蔵田、静岡落合は、降水に伴うひずみ変化を補正していない。
 ※田原福江は、地下水の波み上げに伴うひずみ変化を補正している。

東海地域（西部） ひずみ変化 時間値

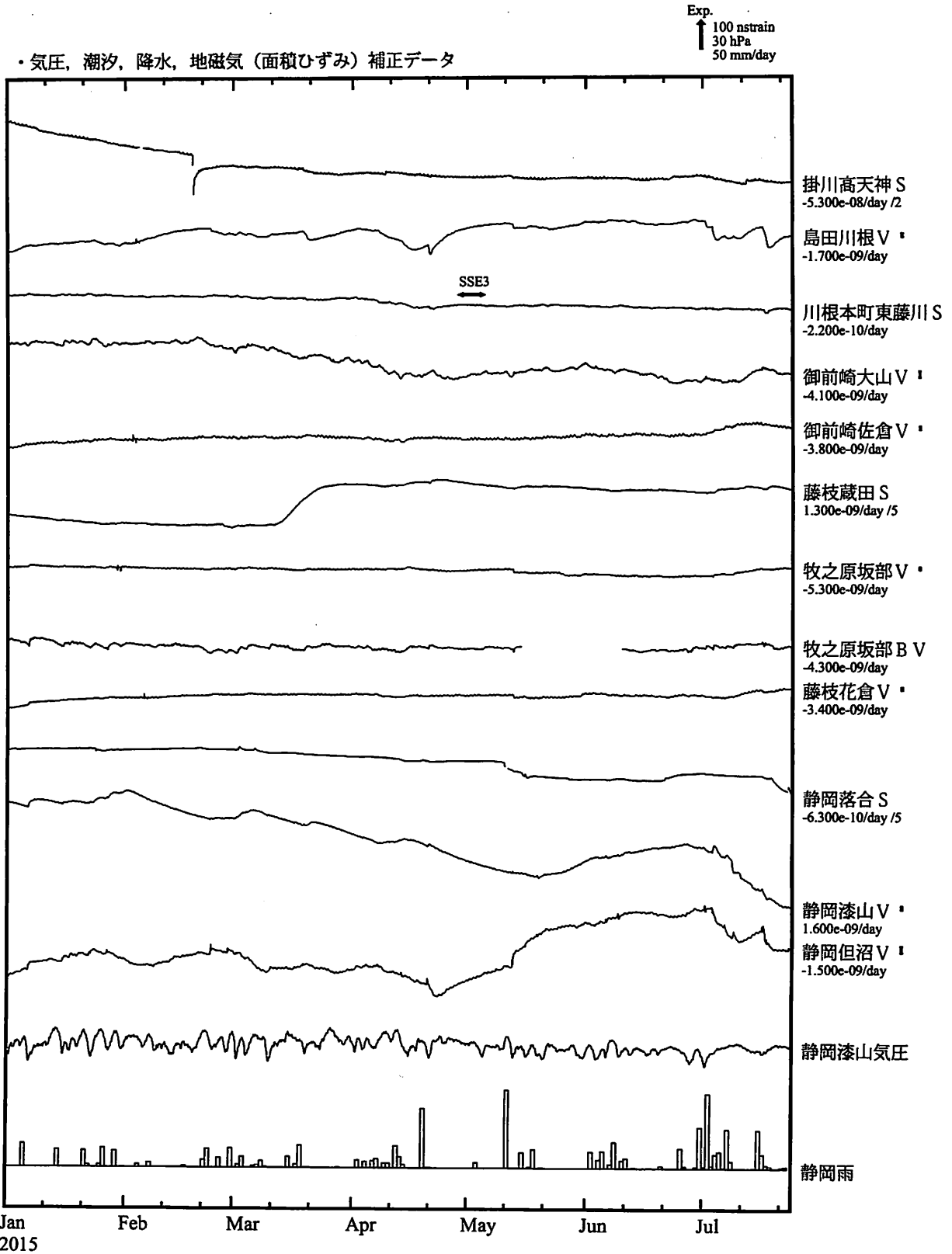


※田原高松、新城浅谷、売木岩倉は、降水に伴うひずみ変化を補正していない。
※田原福江は、地下水の汲み上げに伴うひずみ変化を補正している。

SSE1 : 短期的ゆっくりすべり 2015.04.04-2015.04.08
SSE2 : 短期的ゆっくりすべり 2015.04.14-2015.04.18
SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2015.04.26-2015.05.02

C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

東海地域（東部） ひずみ変化 時間値



※掛川高天神、藤枝蔵田、静岡落合は、降水に伴うひずみ変化を補正していない。

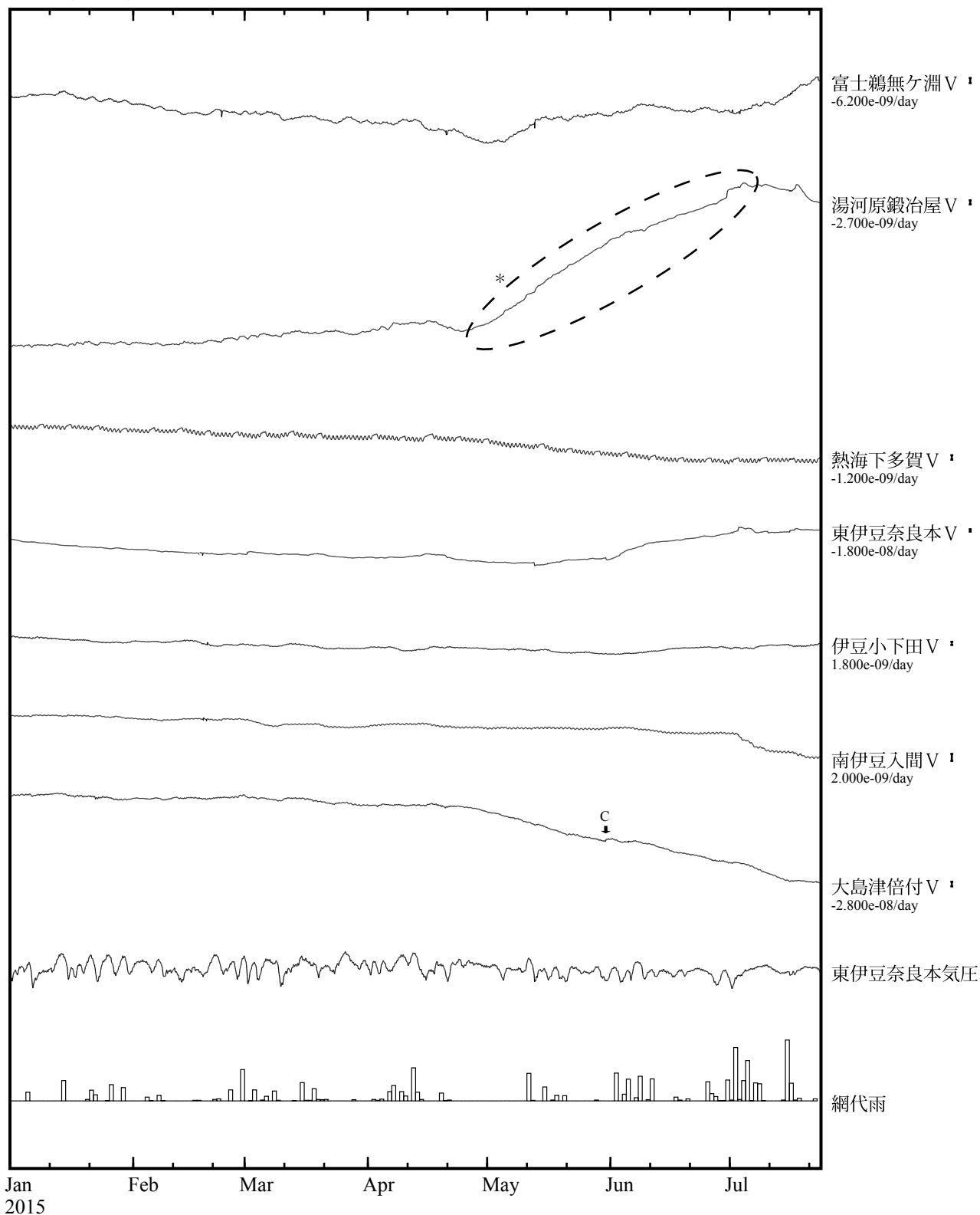
SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2015.04.26-2015.05.02

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

伊豆地域 ひずみ変化 時間値

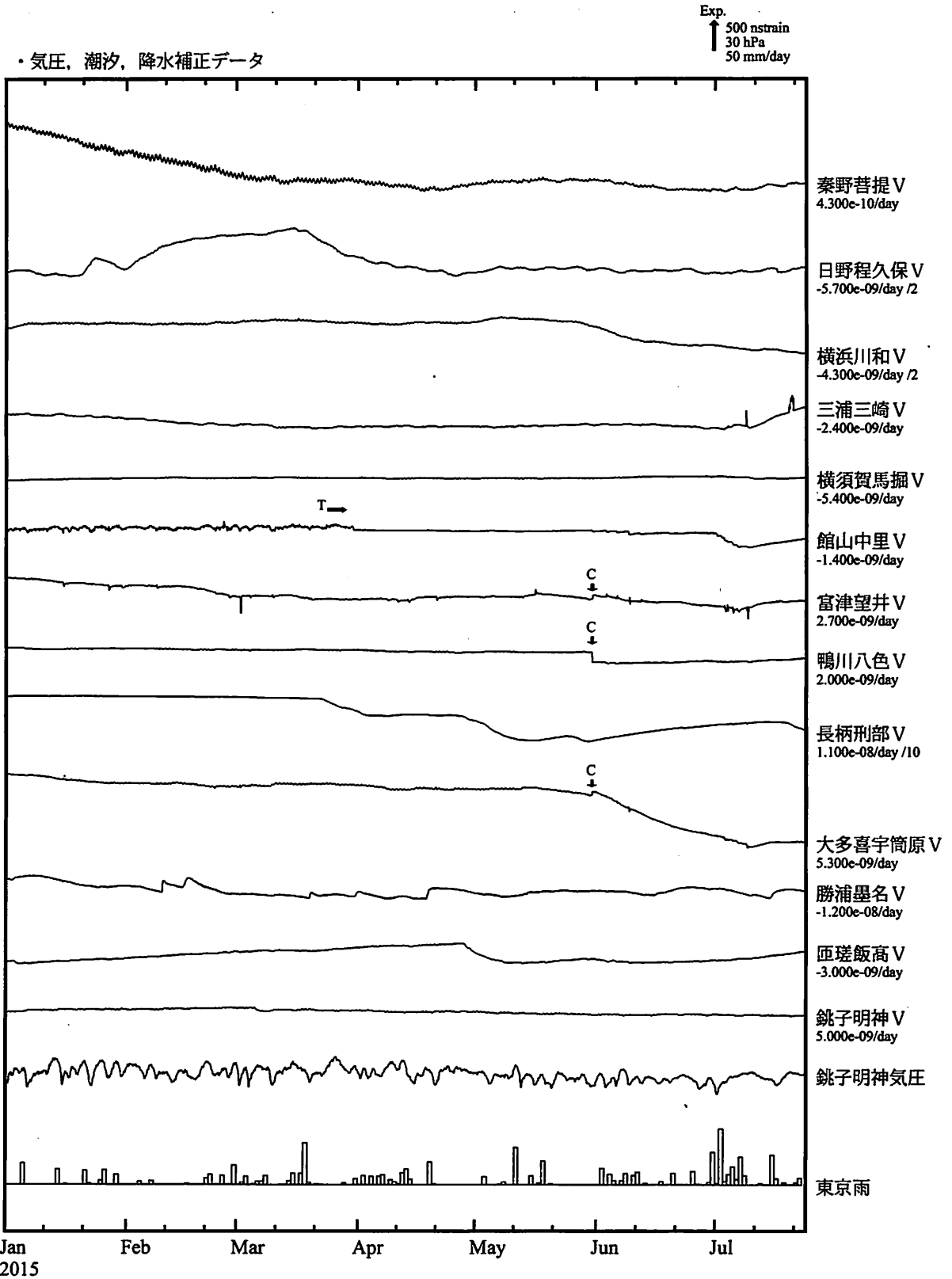
・気圧, 潮汐, 降水補正データ

Exp.
 ↑ 200 nstrain
 30 hPa
 50 mm/day



- * : 箱根山の火山活動に伴う変化
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

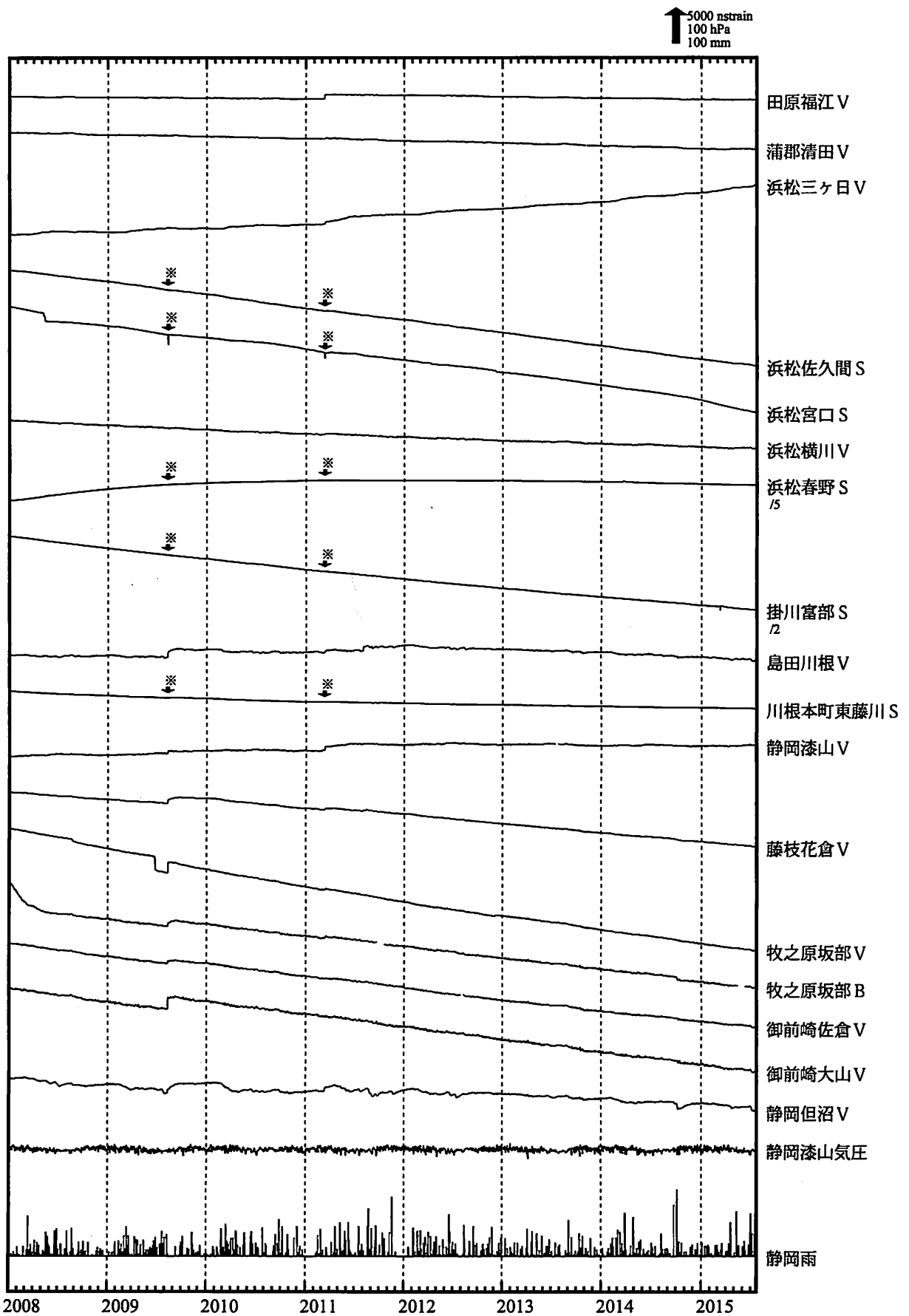
南関東地域 ひずみ変化 時間値



・特記事情なし

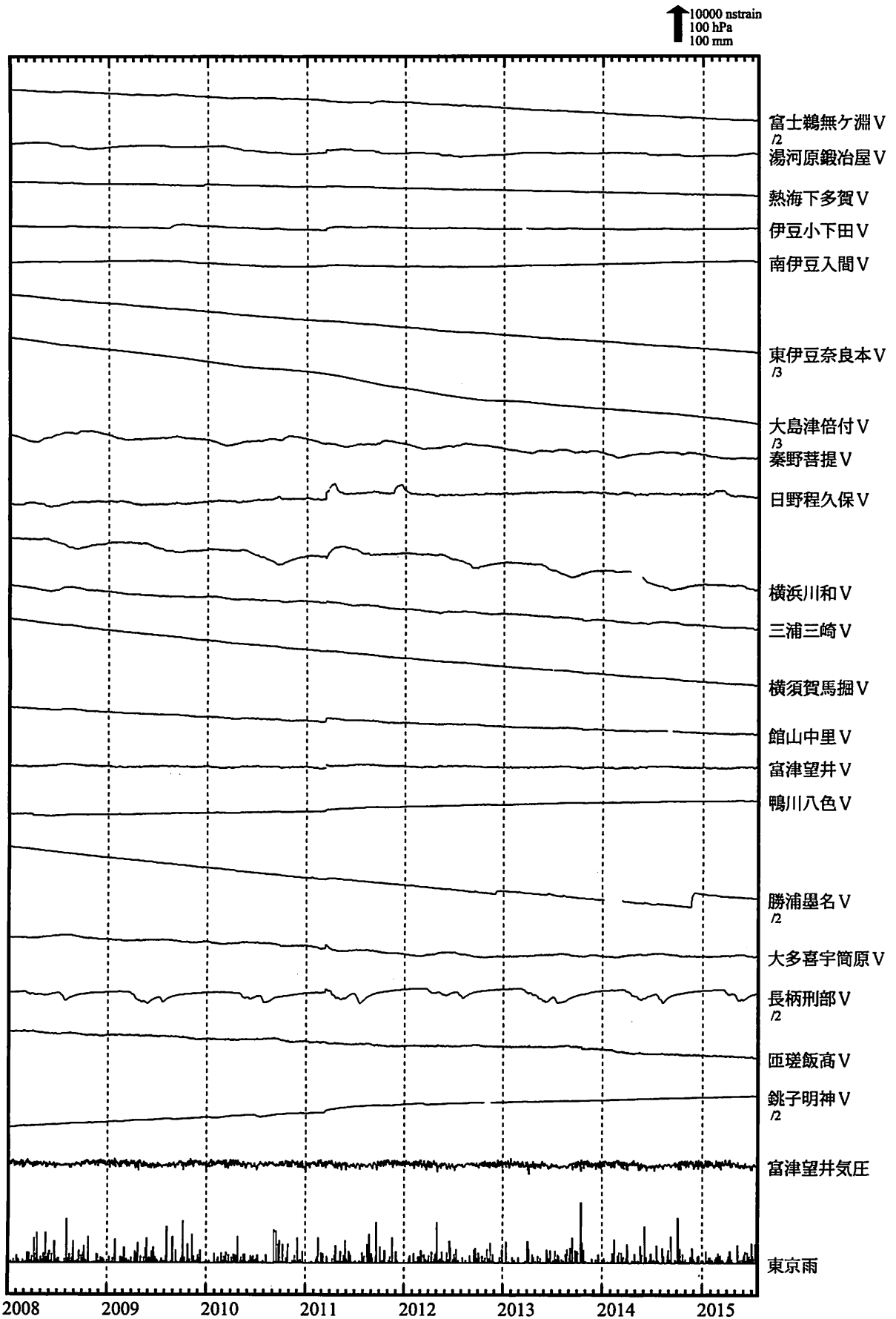
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

東海地域 ひずみ変化 日平均値



※面積ひずみは、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

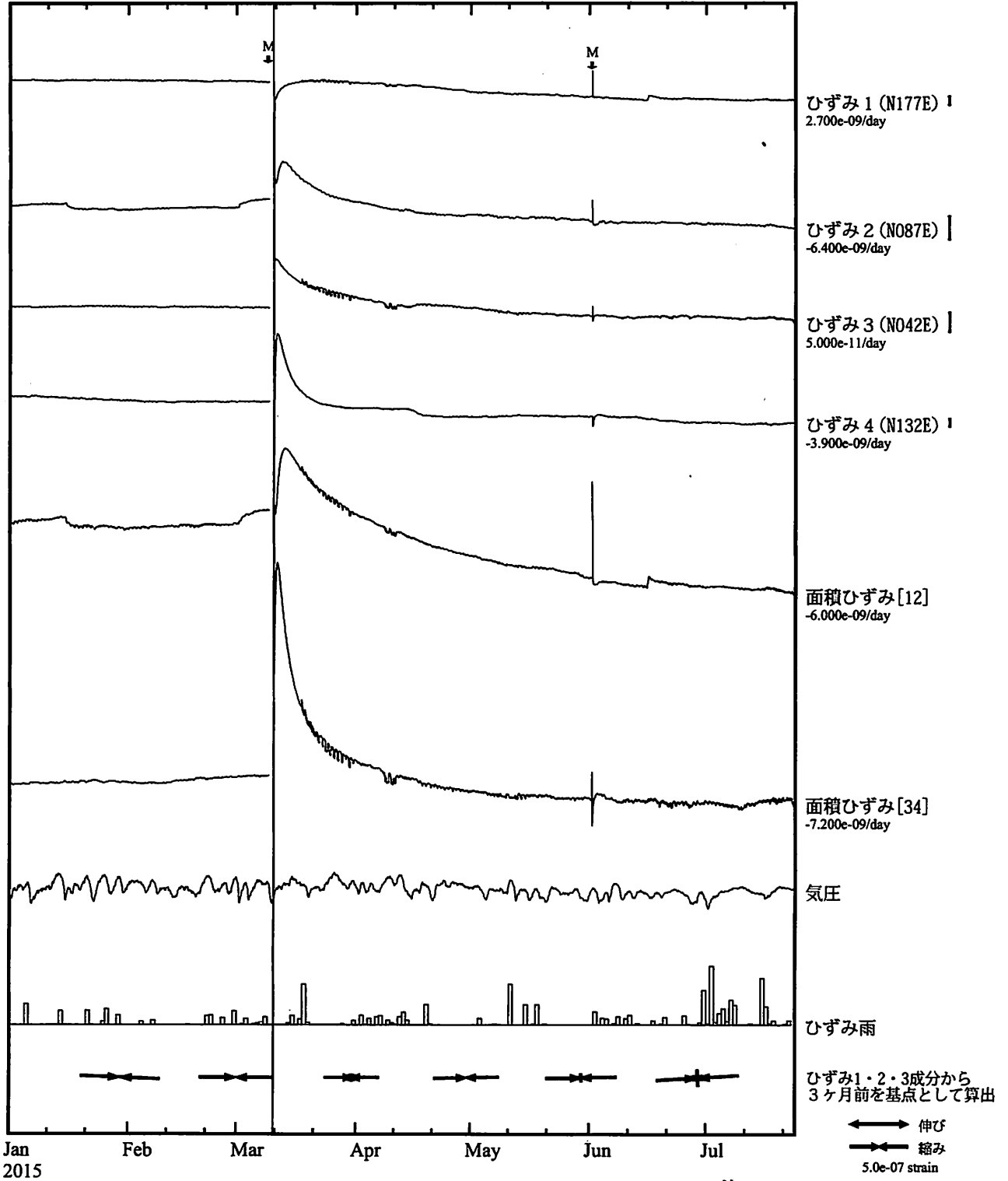
伊豆・南関東地域 ひずみ変化 日平均値



掛川富部 (かがわとんべ) ひずみ変化 時間値

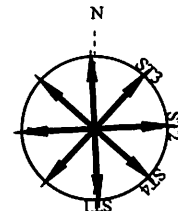
・気圧、潮汐、降水、地磁気補正データ

Exp.
 ↑ 100 nstrain
 30 hPa
 50 mm/day



・特記事情なし

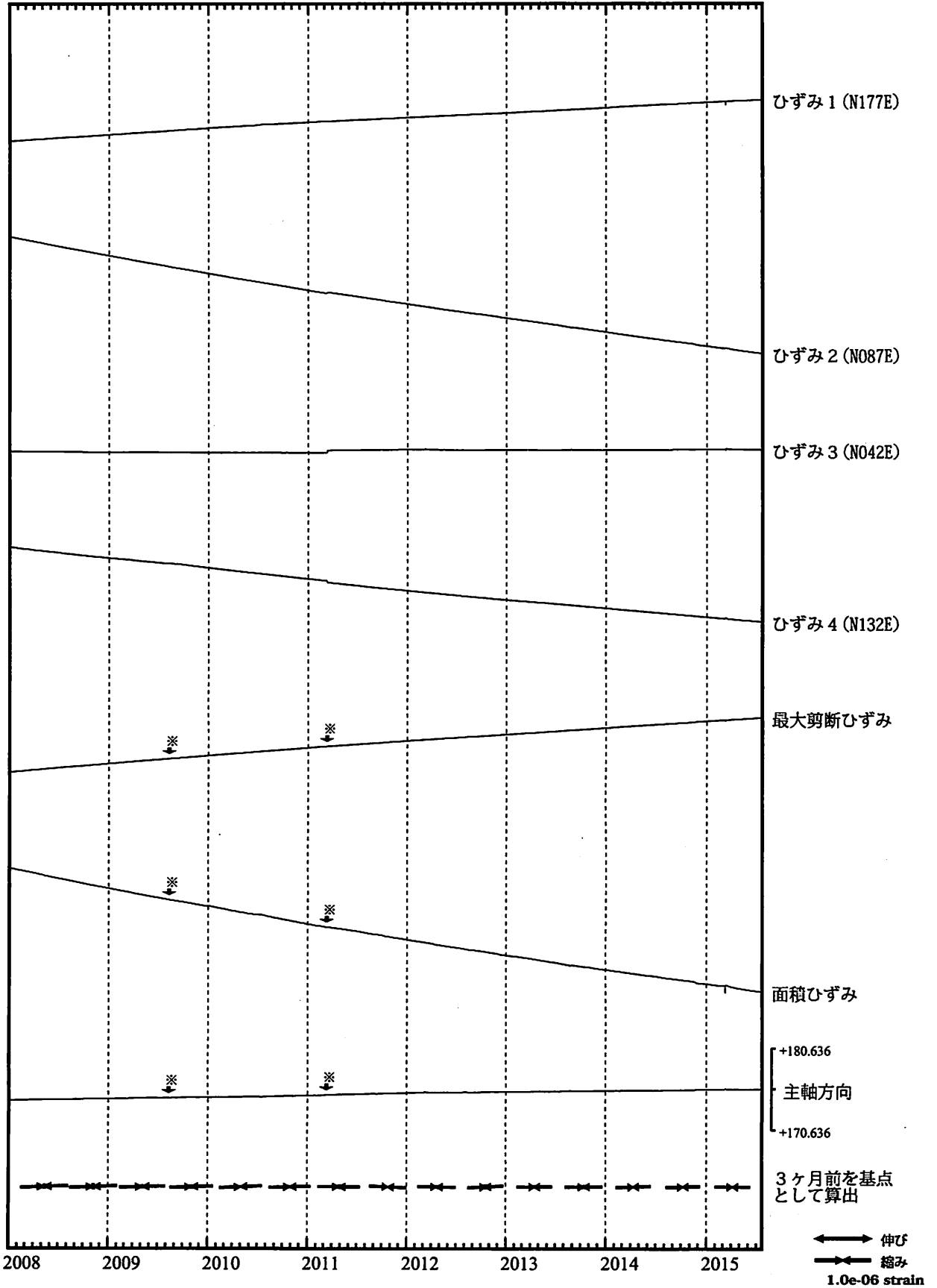
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害



掛川富部 ひずみ変化 日値

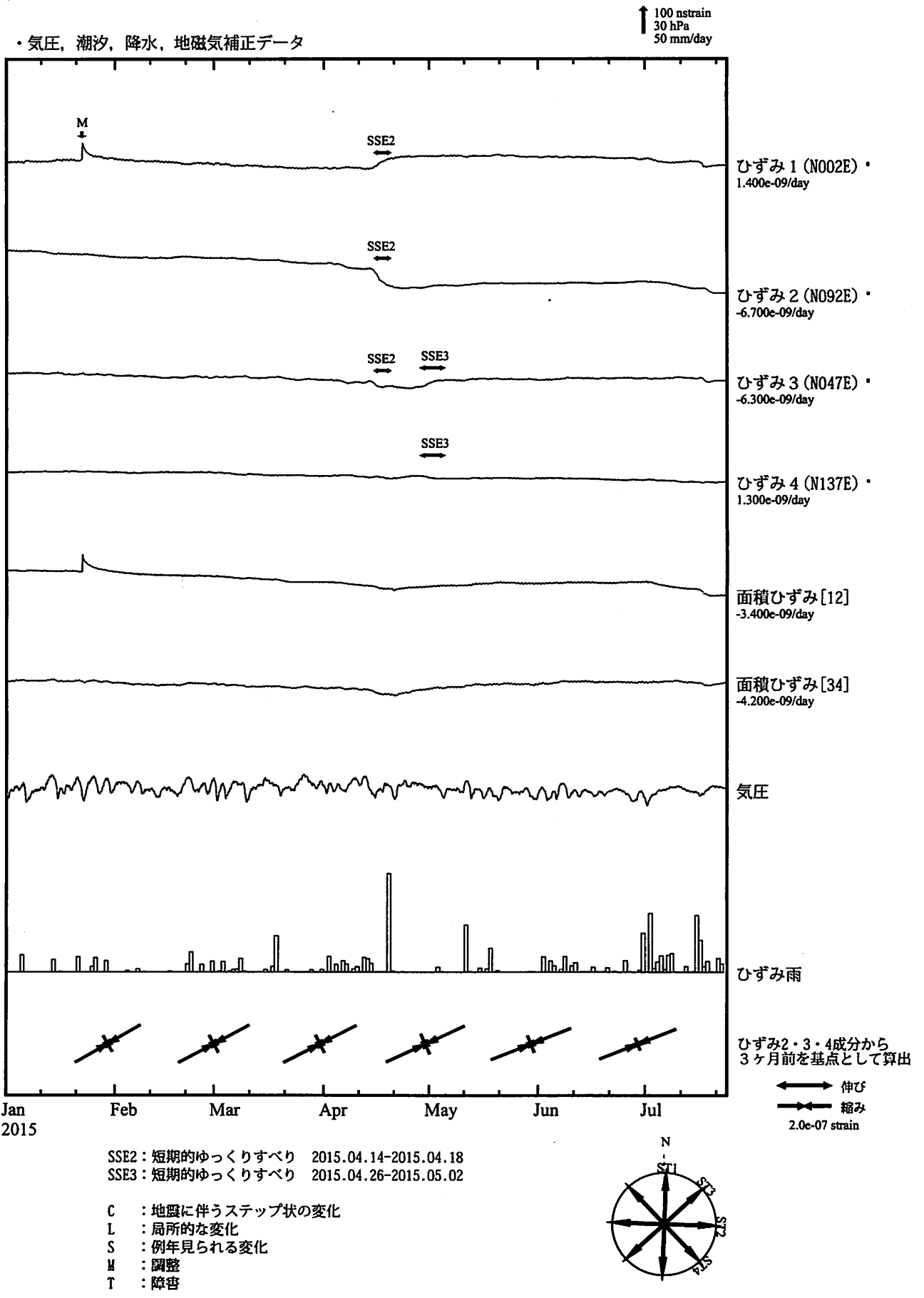
・最大剪断ひずみ、面積ひずみ及び主軸方向は
ひずみ1, 2, 3の各方向成分から1999年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain



※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

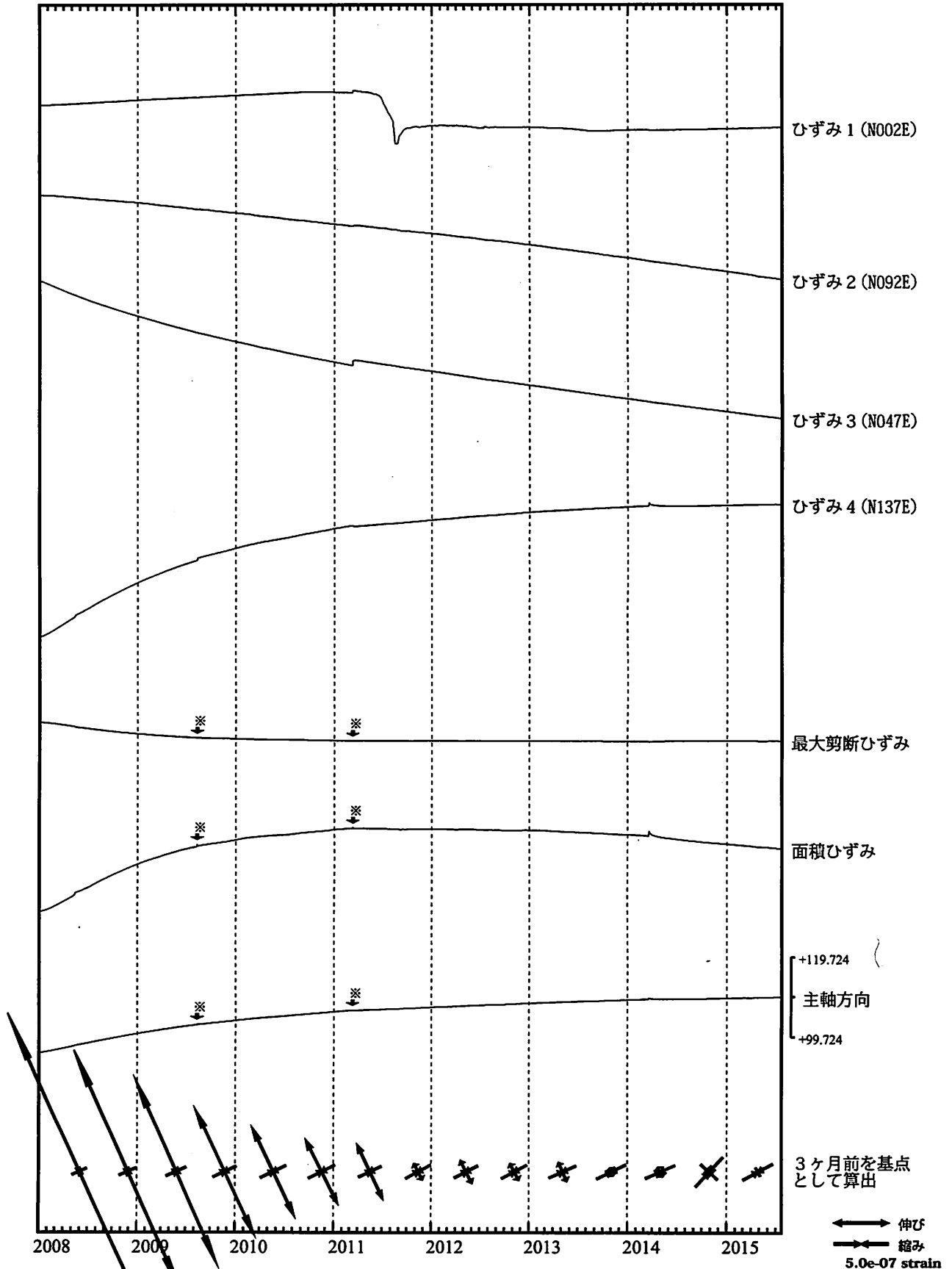
浜松春野（はまつはるの） ひずみ変化 時間値



浜松春野 ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみ及び主軸方向は
ひずみ2, 3, 4の各方向成分から2003年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain

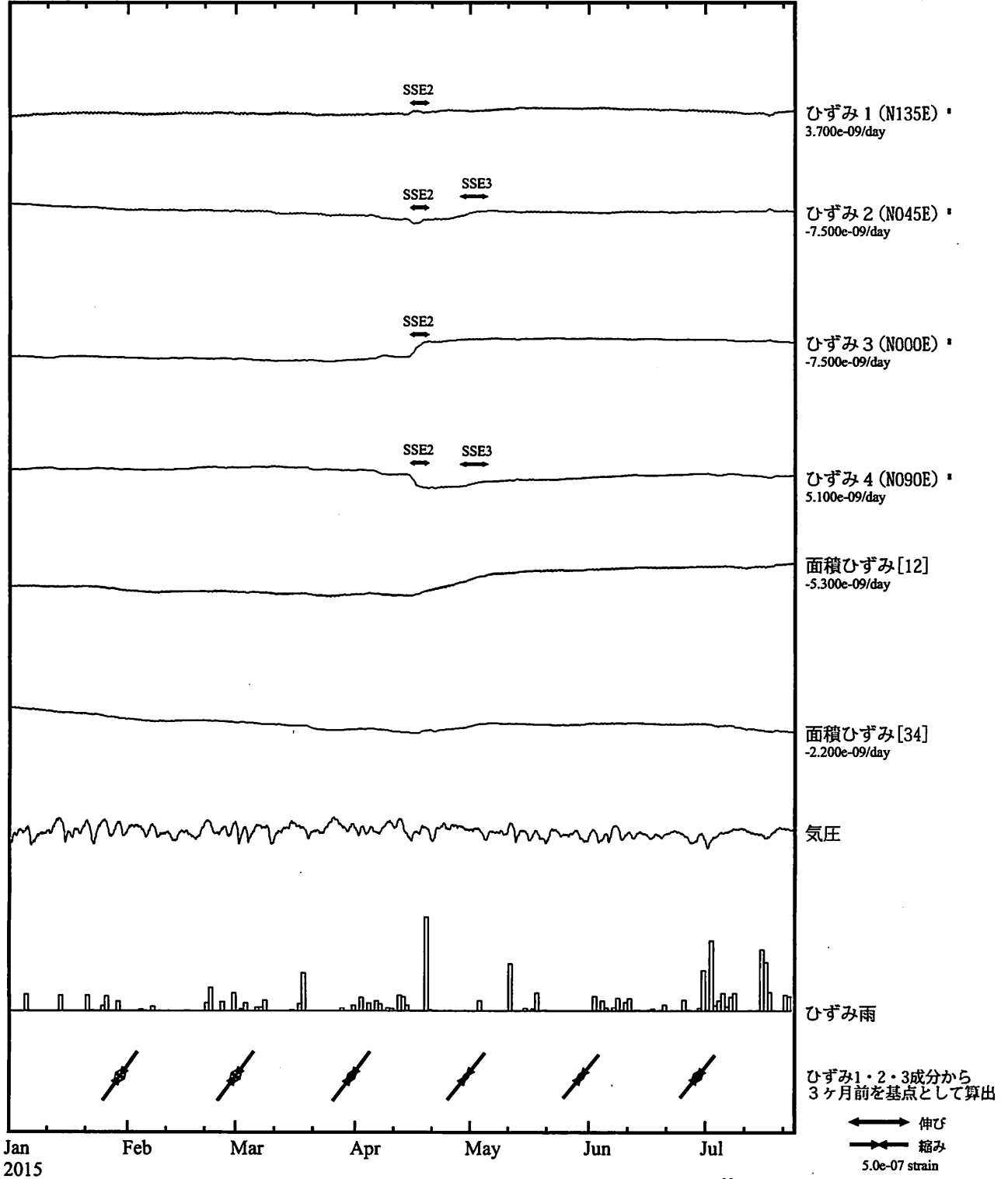


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

浜松佐久間（はまつさくま） ひずみ変化 時間値

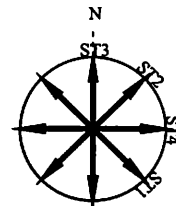
・気圧, 潮汐, 降水, 地磁気補正データ

Exp.
↑ 100 nstrain
30 hPa
50 mm/day



SSE2 : 短期的ゆっくりすべり 2015.04.14-2015.04.18
SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2015.04.26-2015.05.02

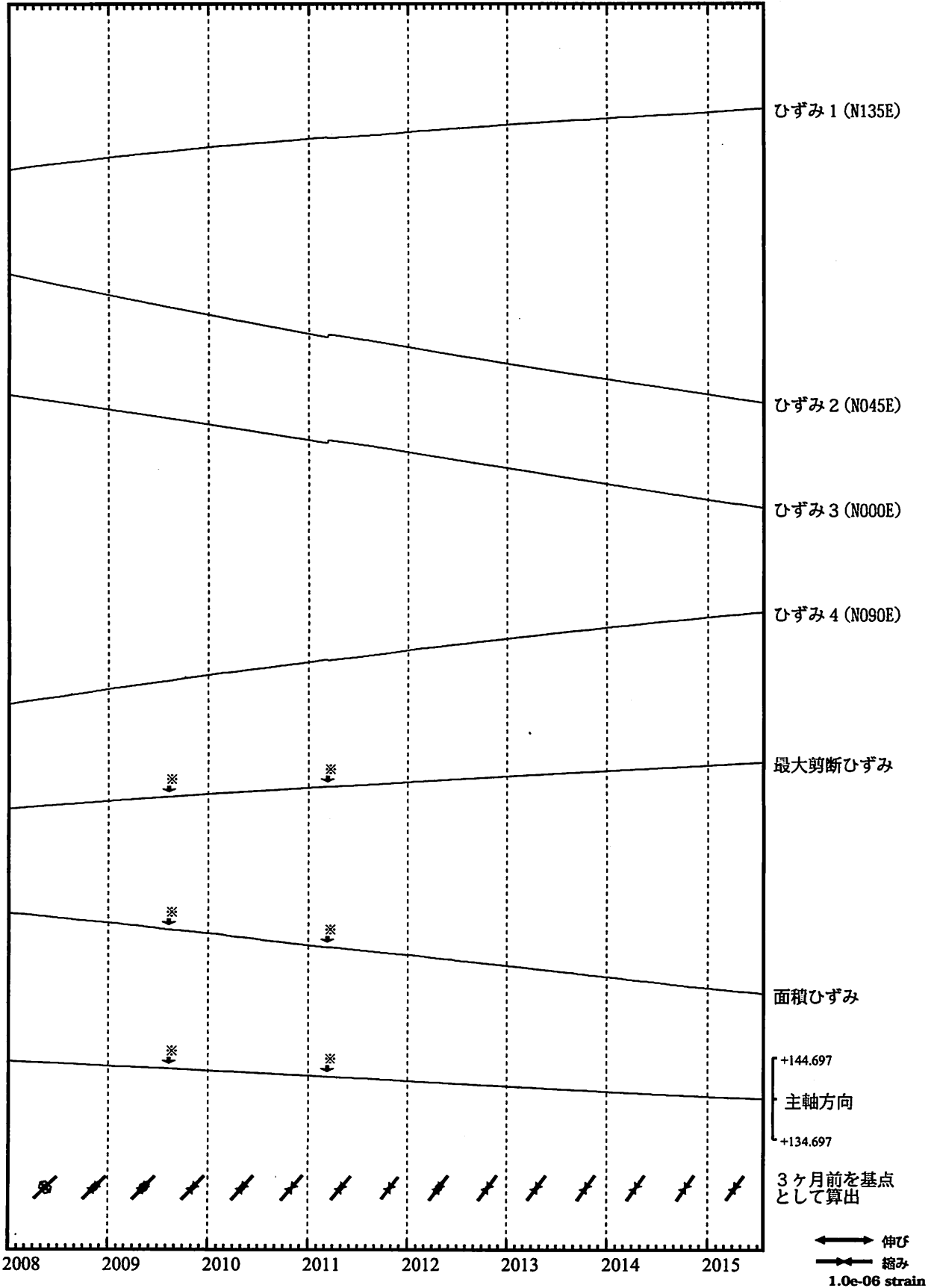
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害



浜松佐久間 ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみ及び主軸方向は
ひずみ1, 2, 3の各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain

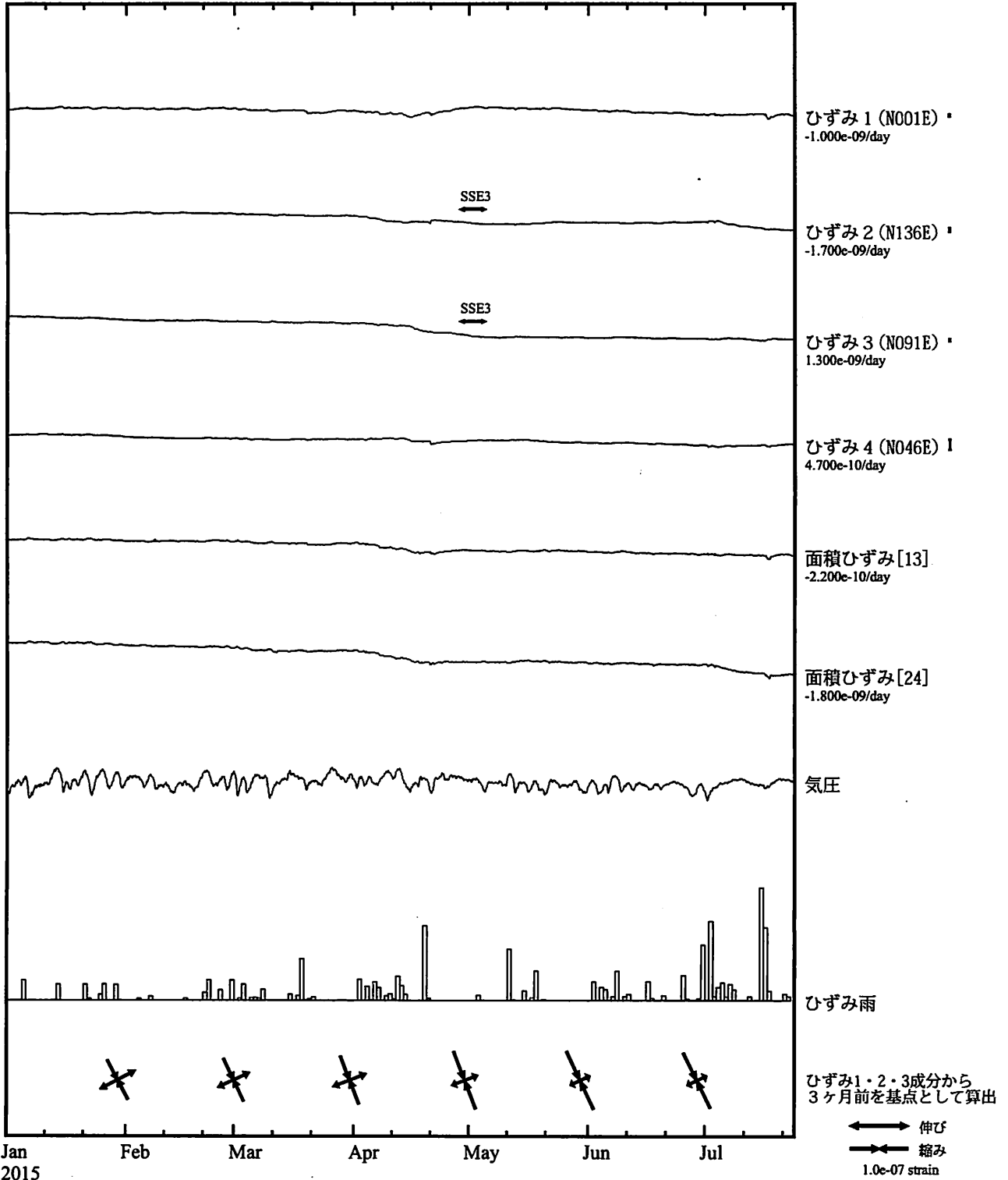


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

川根本町東藤川（かねほんちょうひがしふじかわ） ひずみ変化 時間値

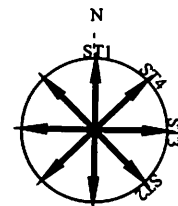
・気圧, 潮汐, 降水, 地磁気補正データ

Exp.
↑ 100 nstrain
30 hPa
50 mm/day



SSE3: 短期的ゆっくりすべり 2015.04.26-2015.05.02

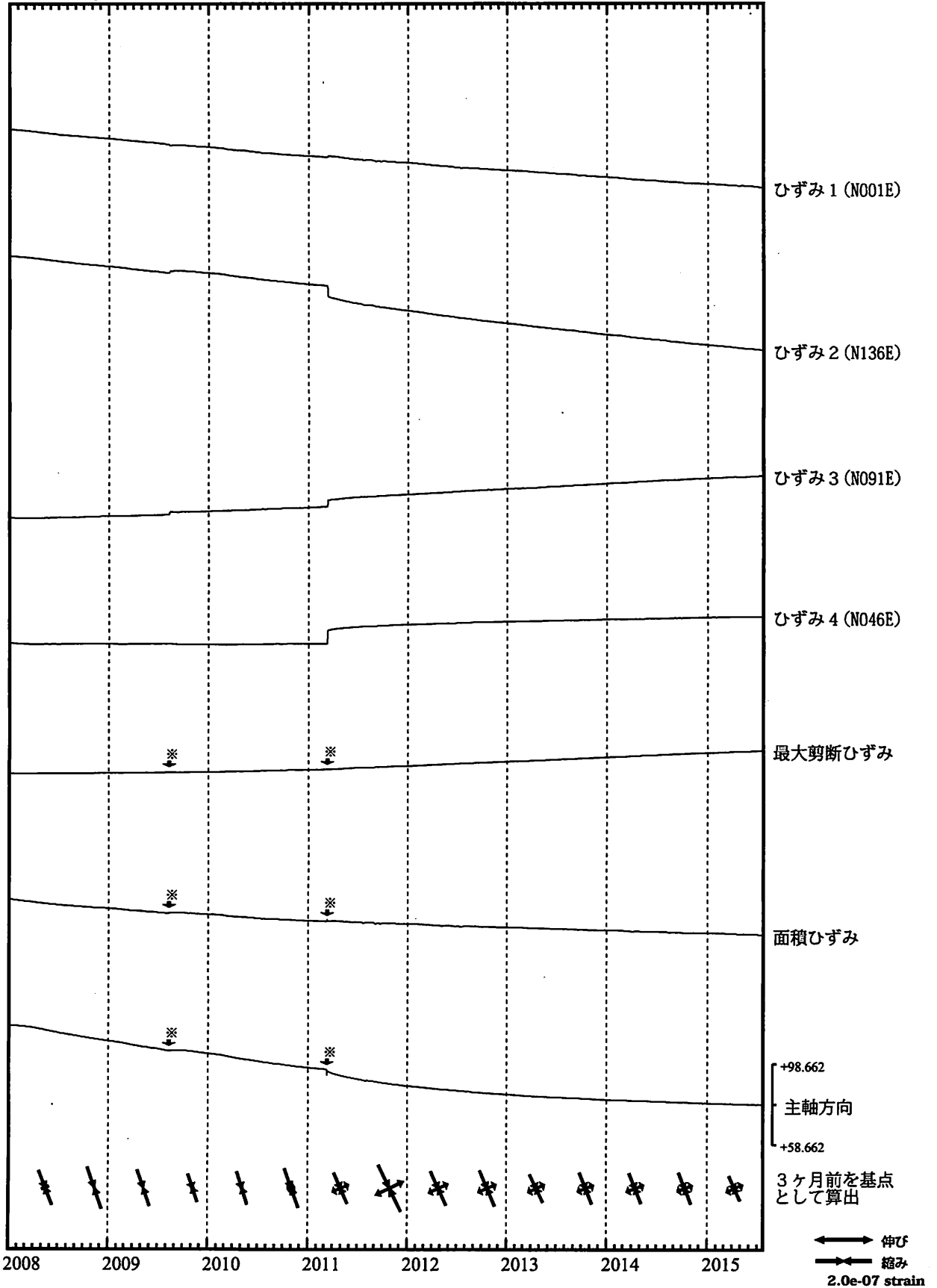
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害



川根本町東藤川 ひずみ変化 日値

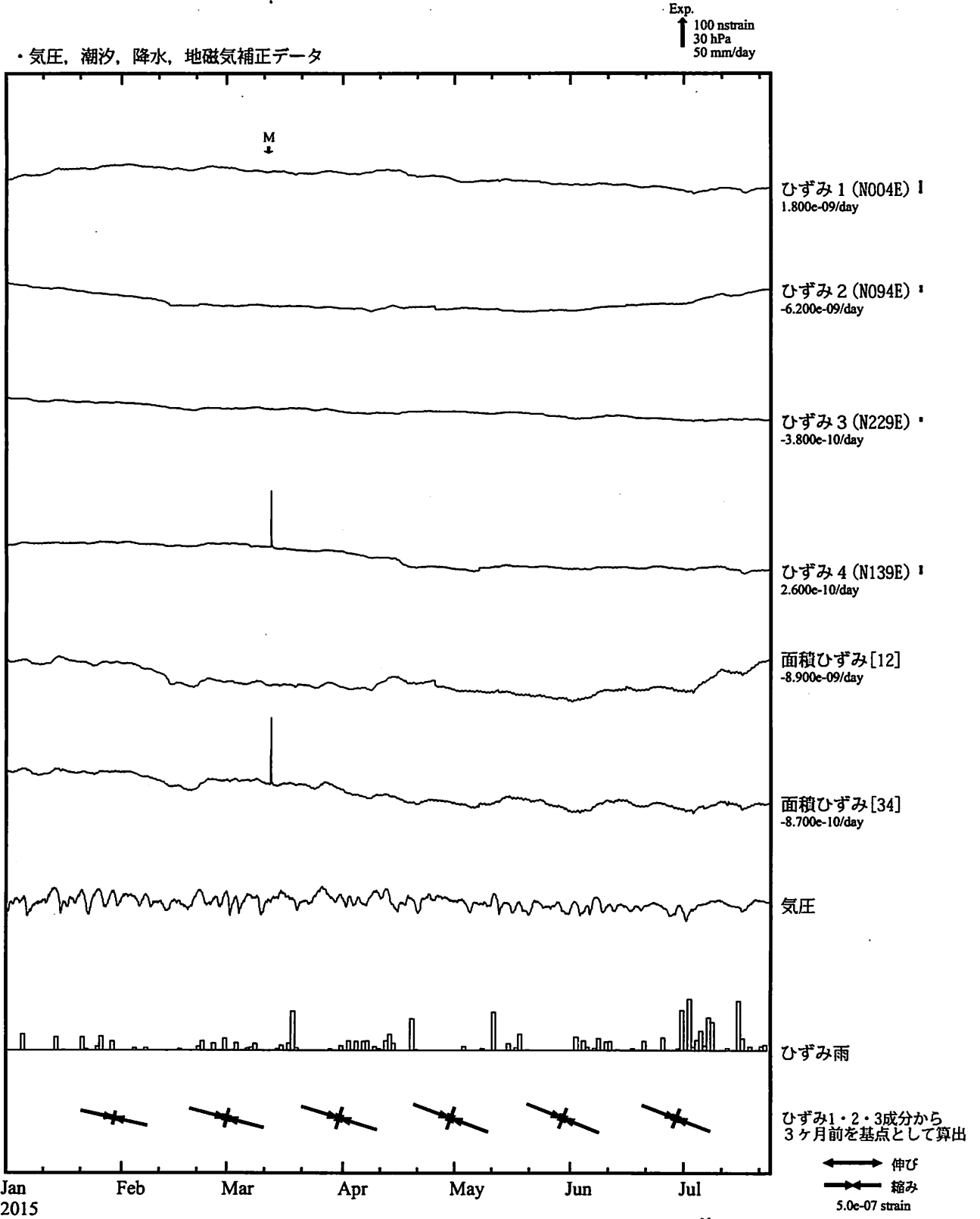
・最大剪断ひずみ、面積ひずみ及び主軸方向は
ひずみ1, 2, 3の各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 2000 nstrain



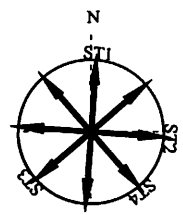
※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

浜松宮口（はまつみやぐち） ひずみ変化 時間値



Jan 2015

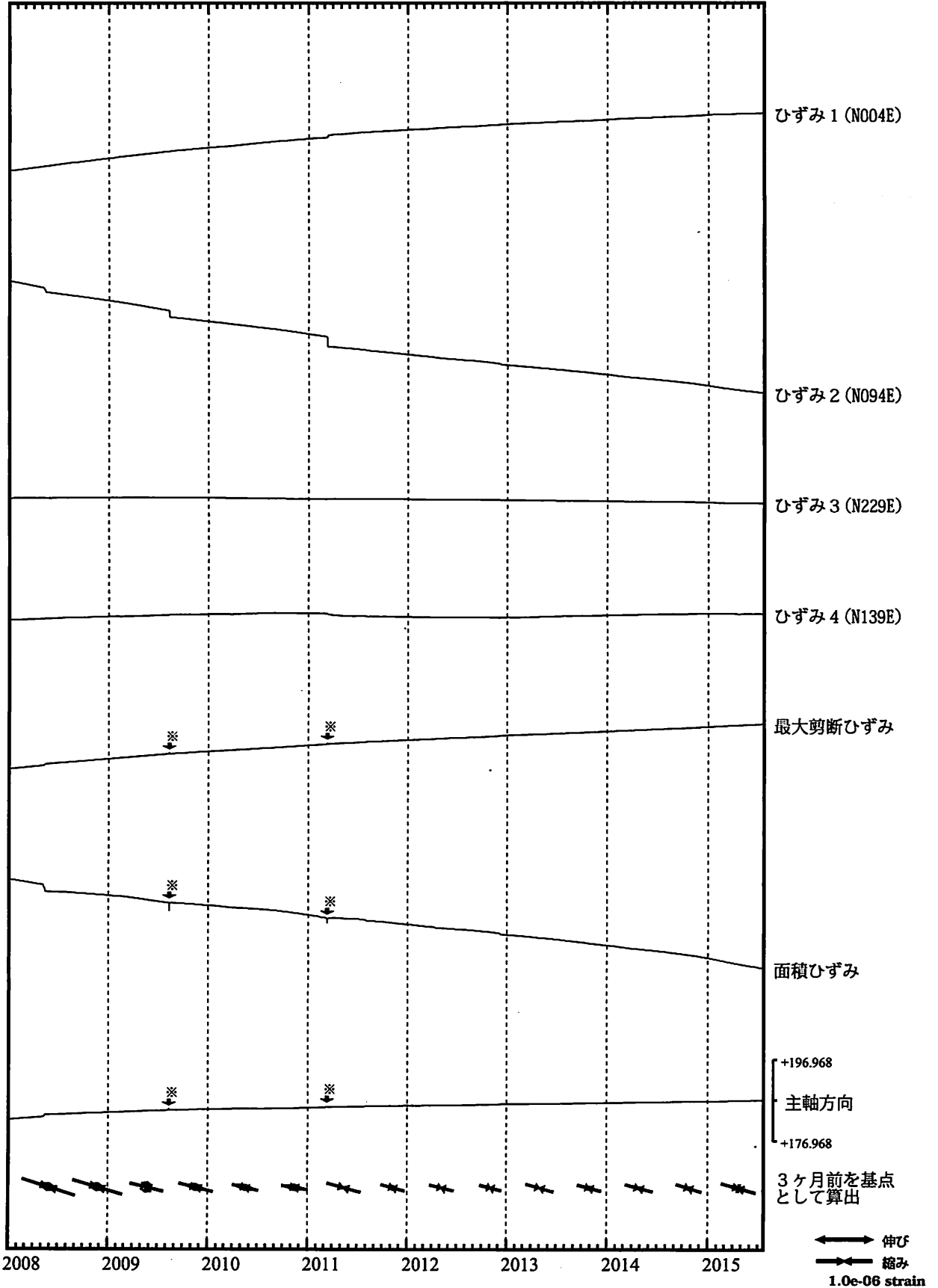
- ・特記事情なし
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害



浜松宮口 ひずみ変化 日値

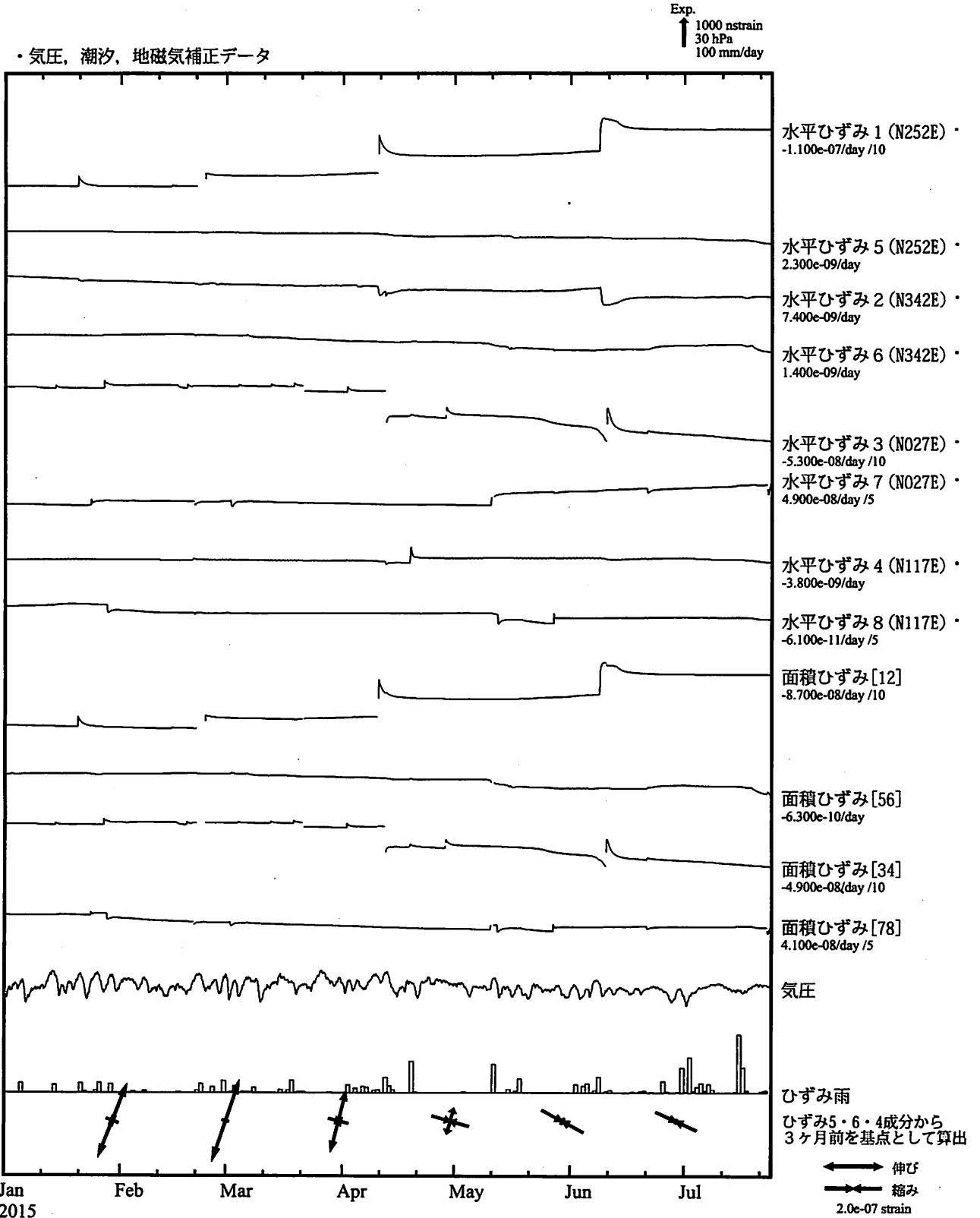
・最大剪断ひずみ、面積ひずみ及び主軸方向は
ひずみ1, 2, 3の各方向成分から2002年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain



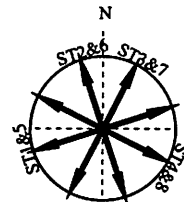
※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

静岡落合（しずおかおちあい） ひずみ変化 時間値



・特記事情なし

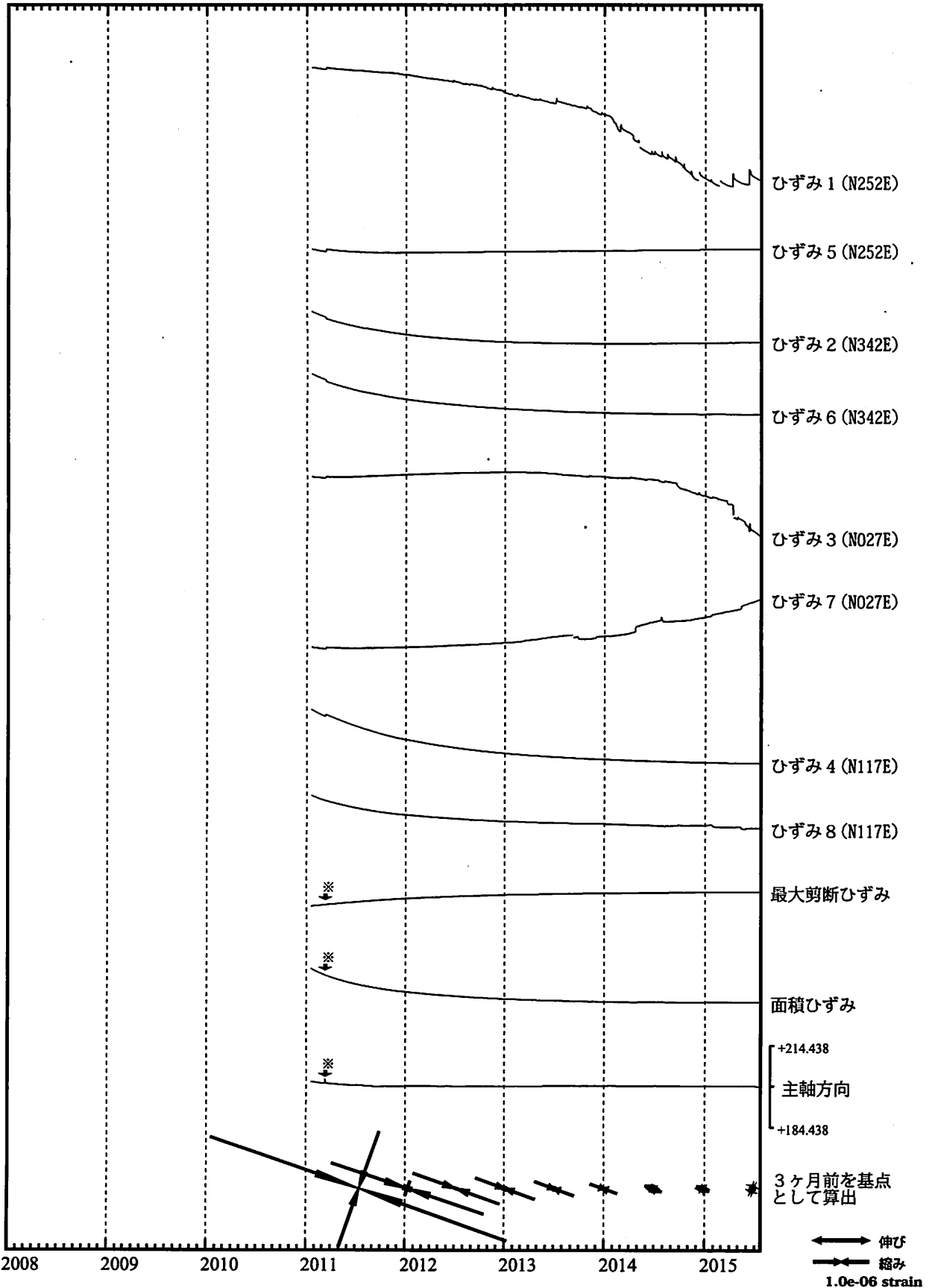
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害



静岡落合 ひずみ変化 日値

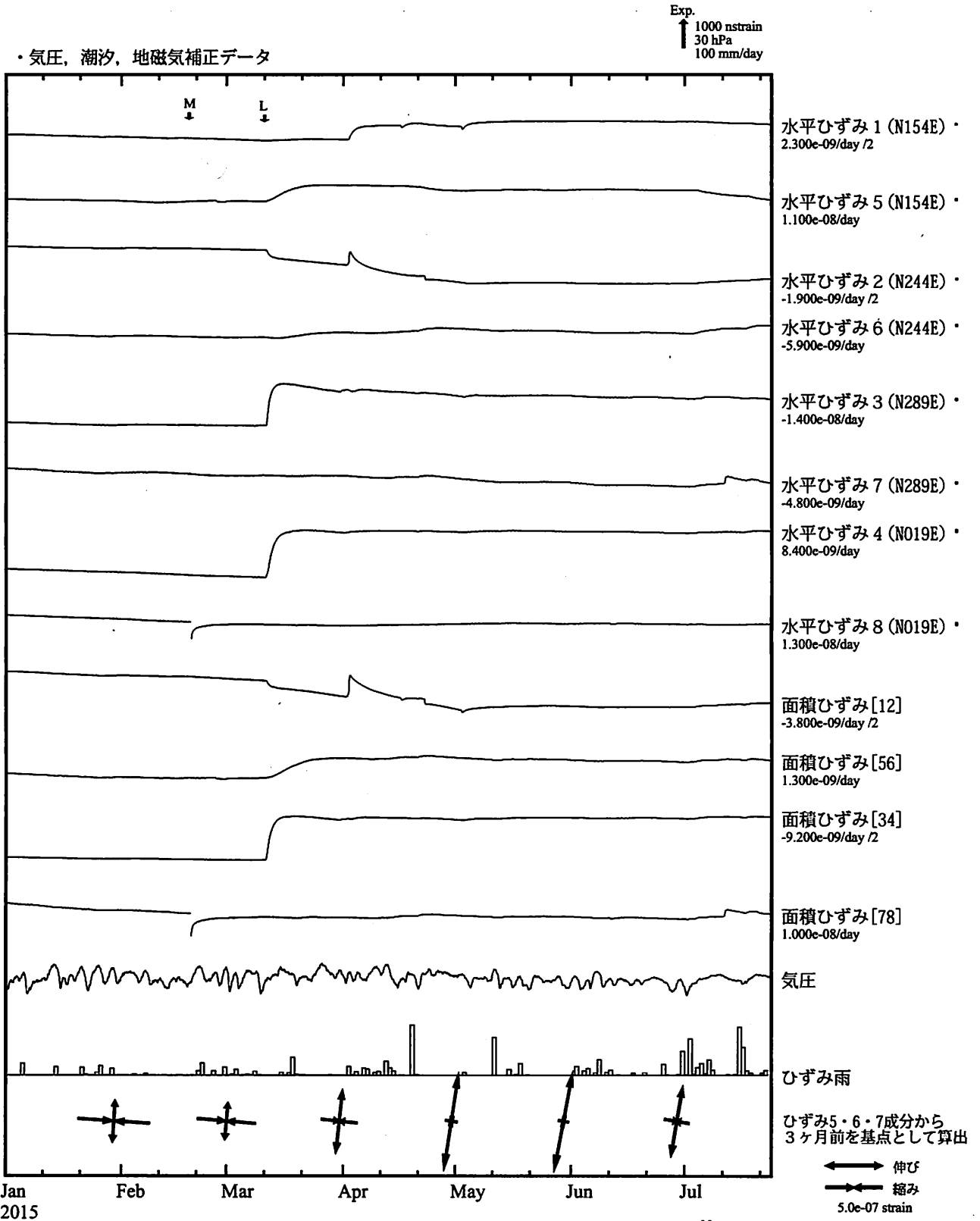
・最大剪断ひずみ、面積ひずみ及び主軸方向は
ひずみ5, 6, 4の各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

Exp.
↑ 20000 nstrain

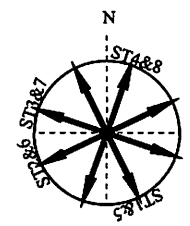


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

藤枝蔵田 (ふじえだくらた) ひずみ変化 時間値



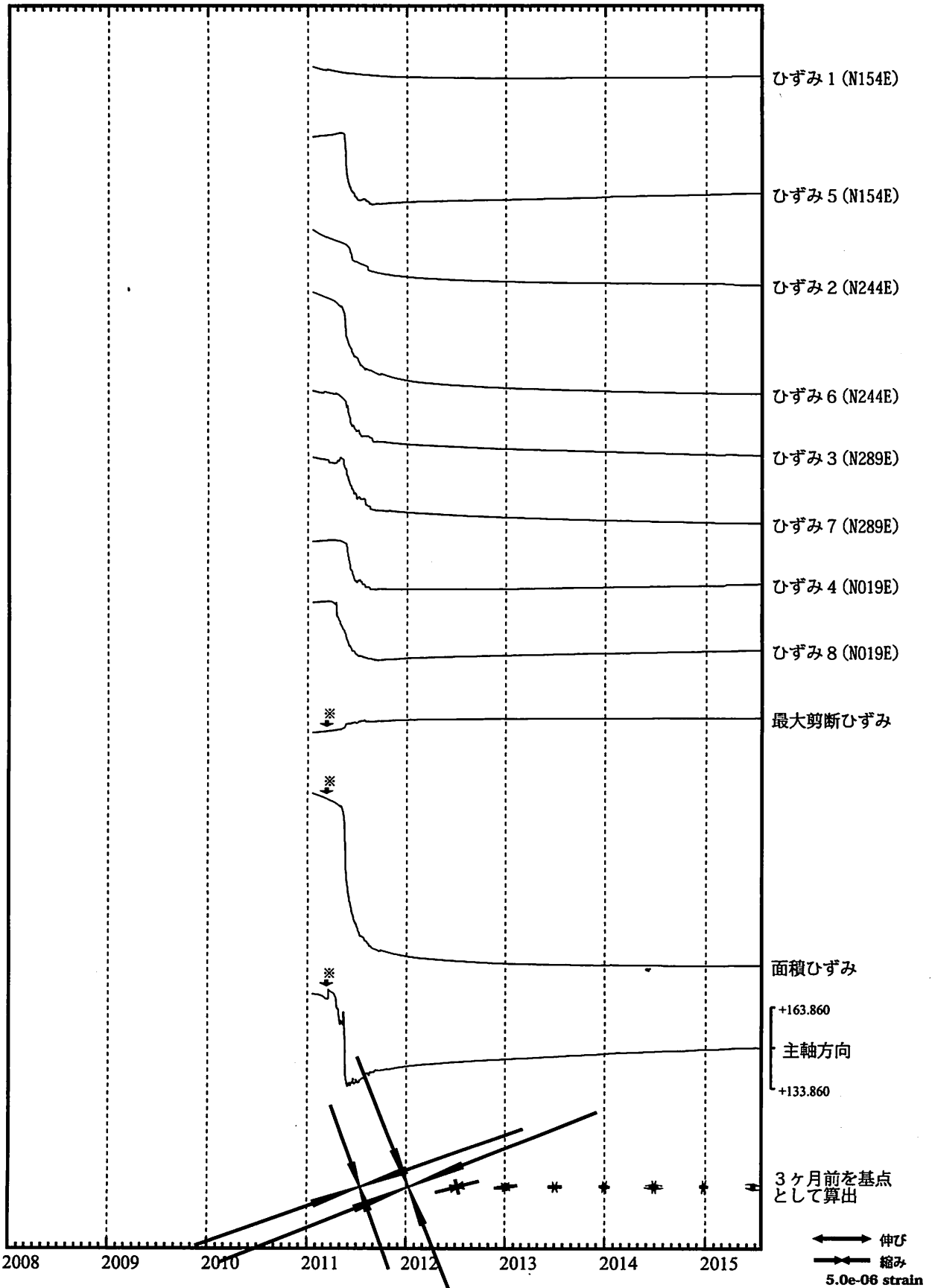
- ・特記事情なし
- C : 地震に伴うステップ状の変化
 - L : 局所的な変化
 - S : 例年見られる変化
 - M : 調整
 - T : 障害



藤枝蔵田 ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみ及び主軸方向は
ひずみ5, 6, 7の各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

Exp.
↑ 50000 nstrain

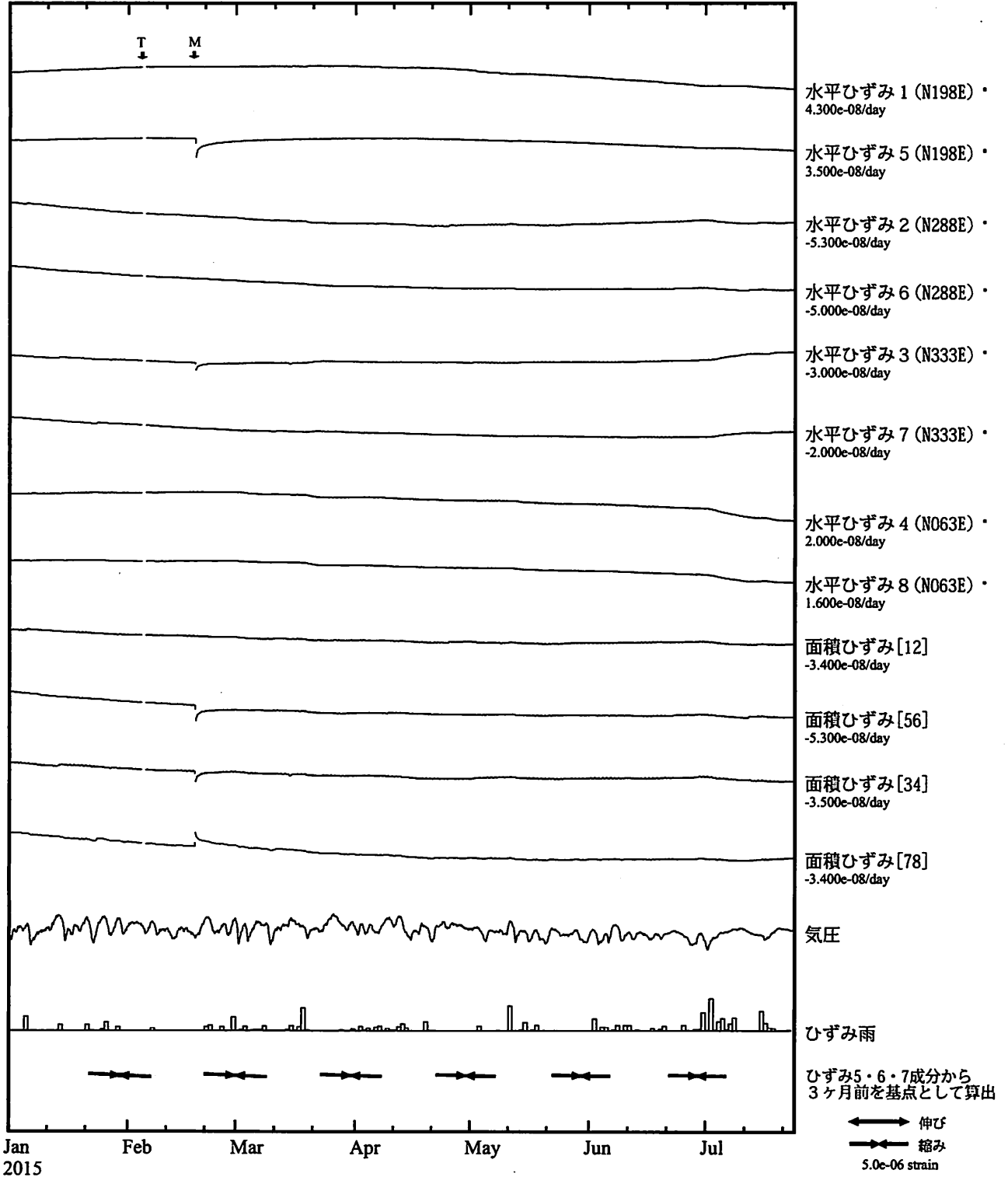


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

掛川高天神 (かけがわたかてんじん) ひずみ変化 時間値

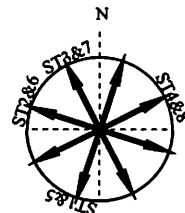
・気圧, 潮汐, 地磁気補正データ

Exp.
↑ 500 nstrain
30 hPa
100 mm/day



・特記事情なし

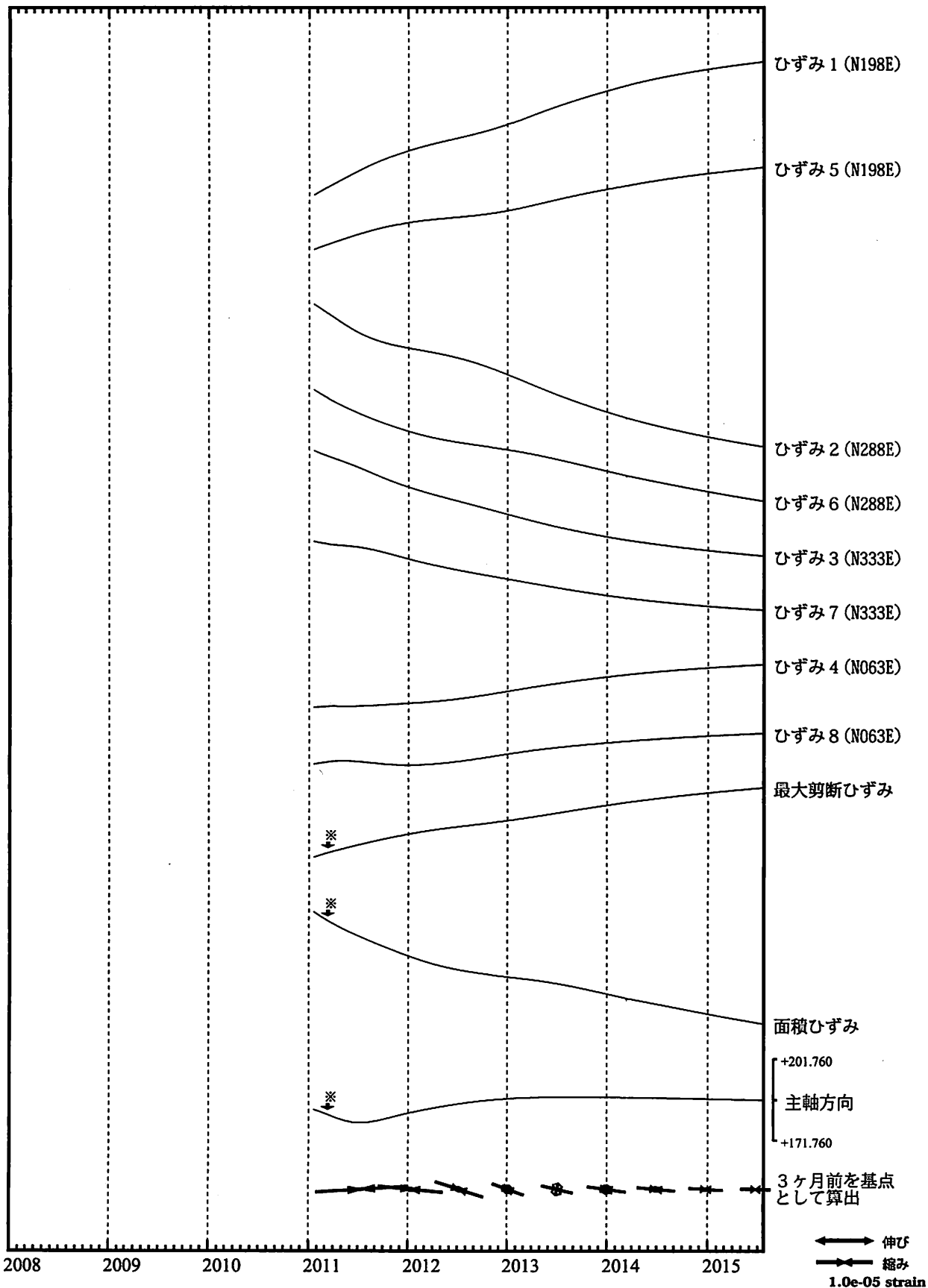
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害



掛川高天神 ひずみ変化 日値

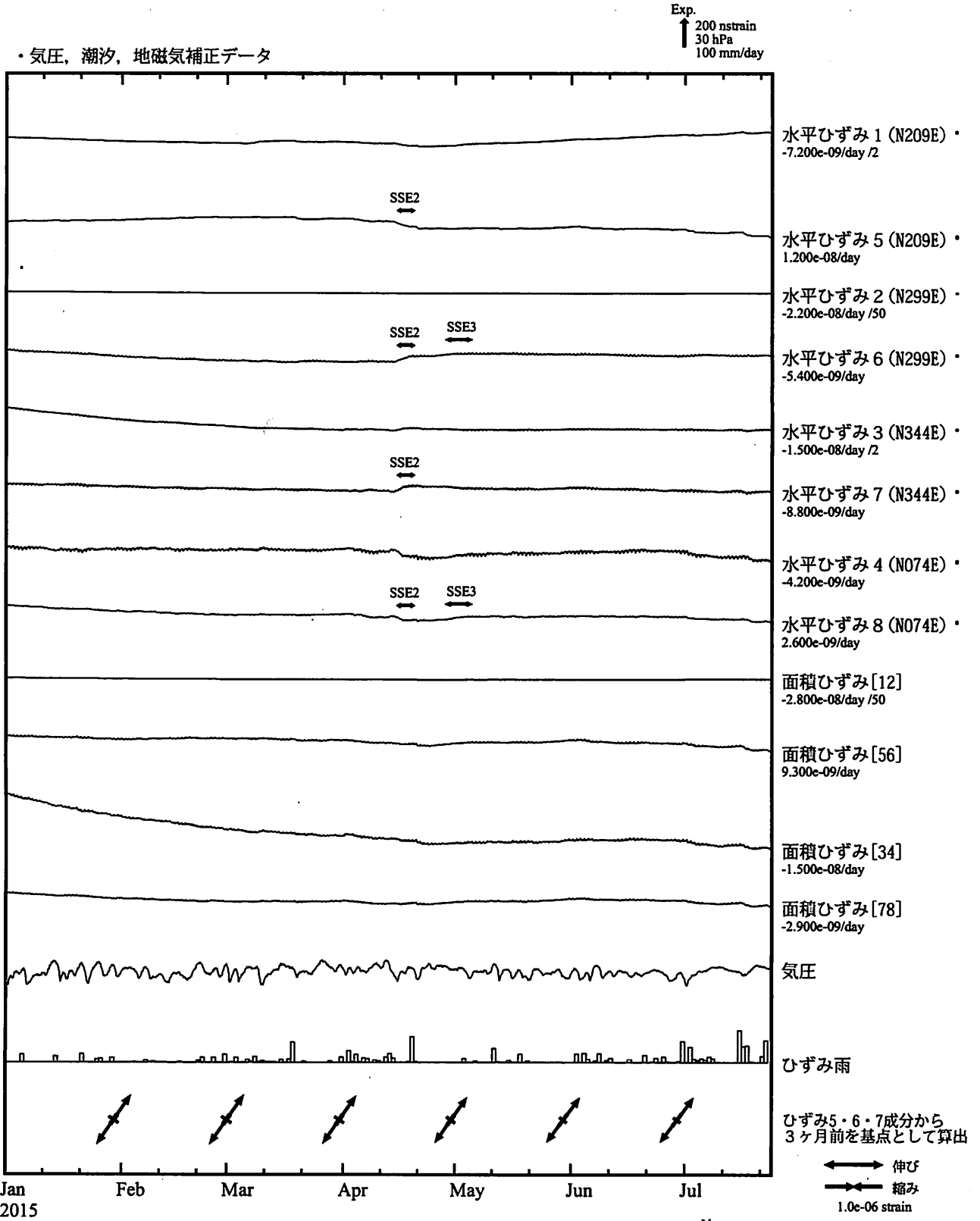
・最大剪断ひずみ、面積ひずみ及び主軸方向は
ひずみ5, 6, 7の各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

Exp.
↑ 30000 nstrain



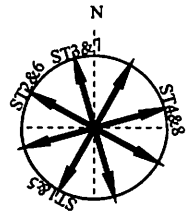
※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

売木岩倉 (うるぎいわくら) ひずみ変化 時間値



SSE2 : 短期的ゆっくりすべり 2015.04.14-2015.04.18
SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2015.04.26-2015.05.02

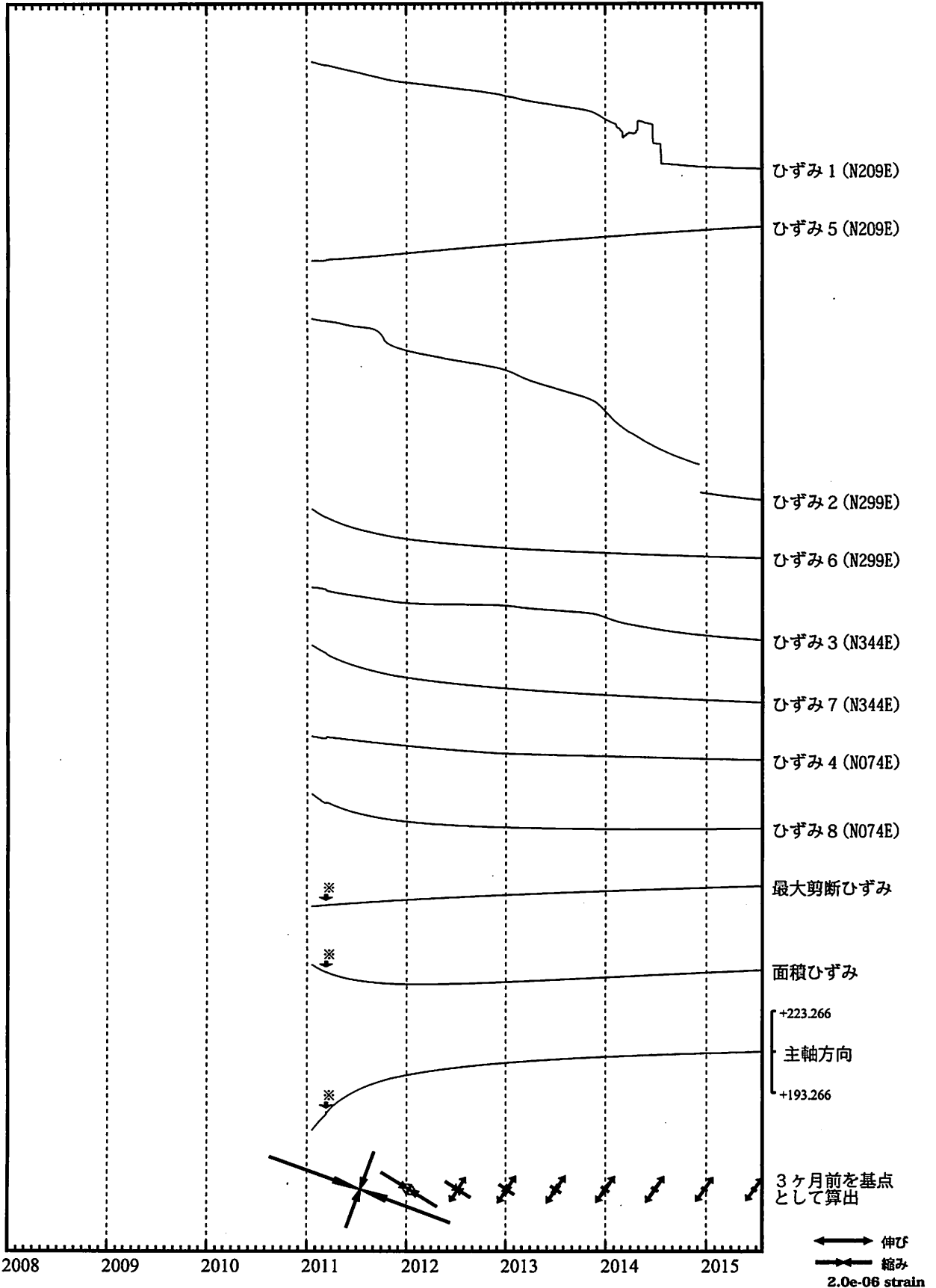
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害



売木岩倉 ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみ及び主軸方向は
ひずみ5, 6, 7の各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

Exp.
↑ 20000 nstrain

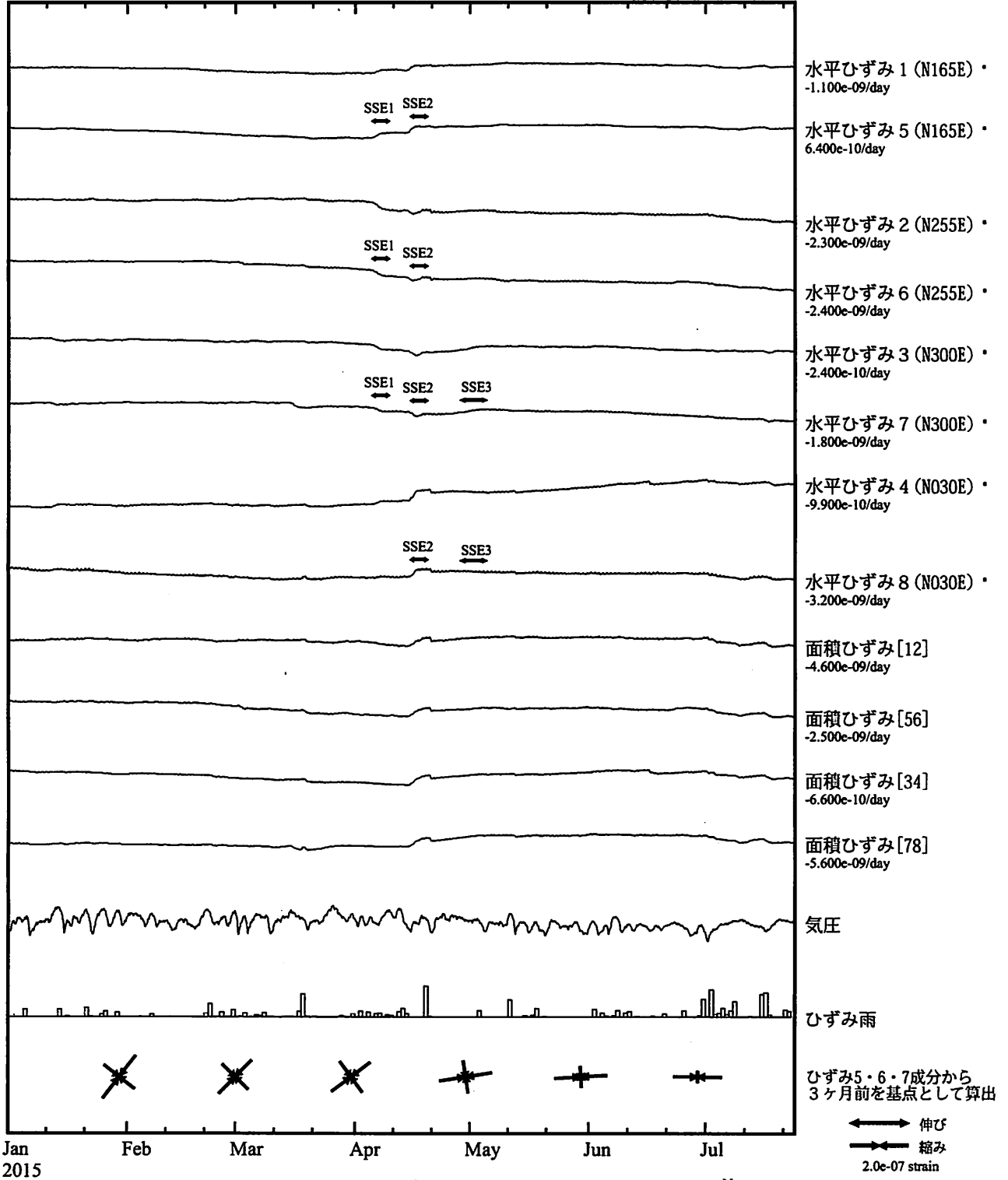


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

新城浅谷 (しんしろあさや) ひずみ変化 時間値

・気圧, 潮汐, 地磁気補正データ

Exp.
↑ 200 nstrain
30 hPa
100 mm/day



SSE1 : 短期的ゆっくりすべり 2015.04.04-2015.04.08
SSE2 : 短期的ゆっくりすべり 2015.04.14-2015.04.18
SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2015.04.26-2015.05.02

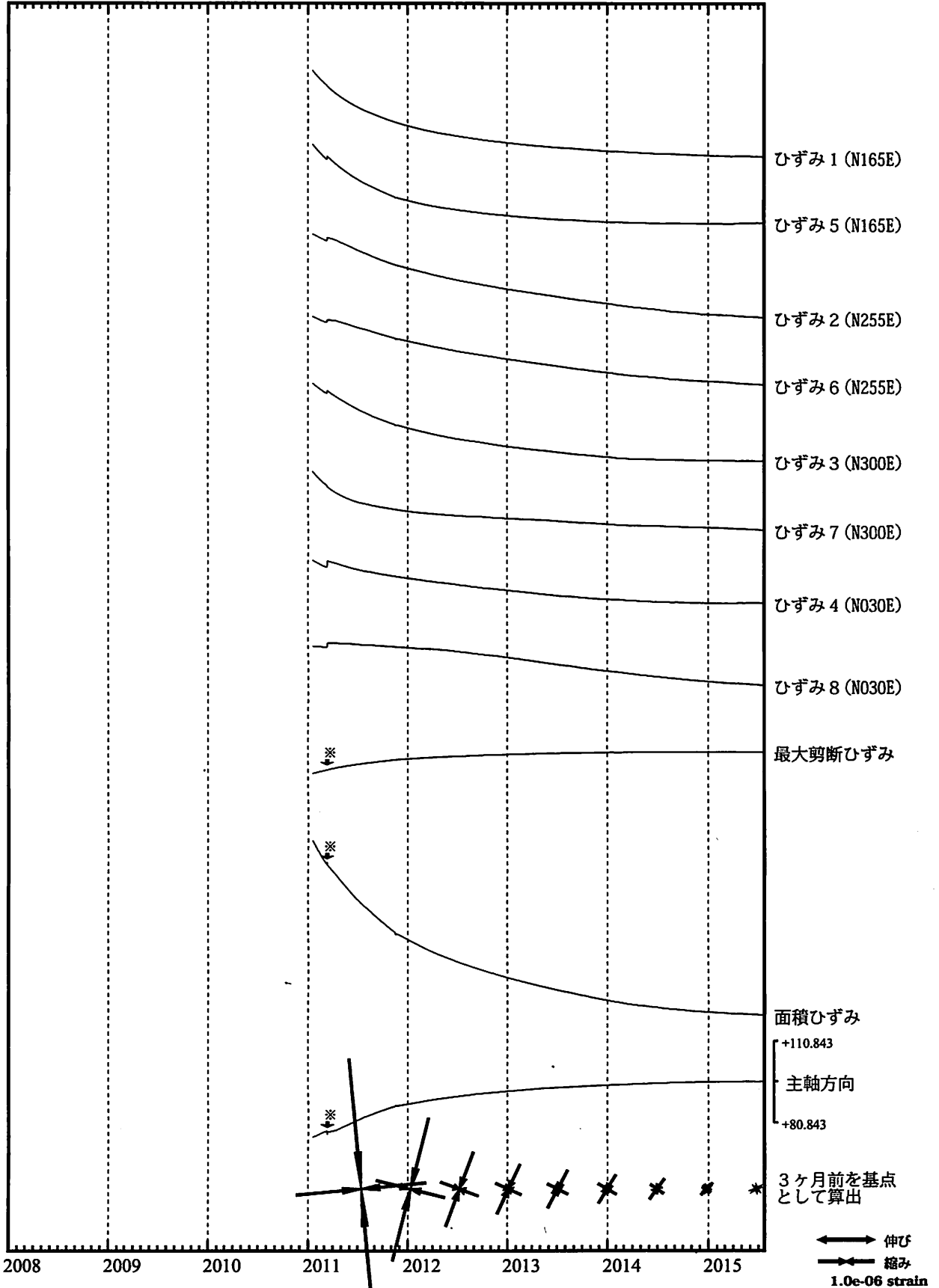
C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害



新城浅谷 ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみ及び主軸方向は
ひずみ5, 6, 7の各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain

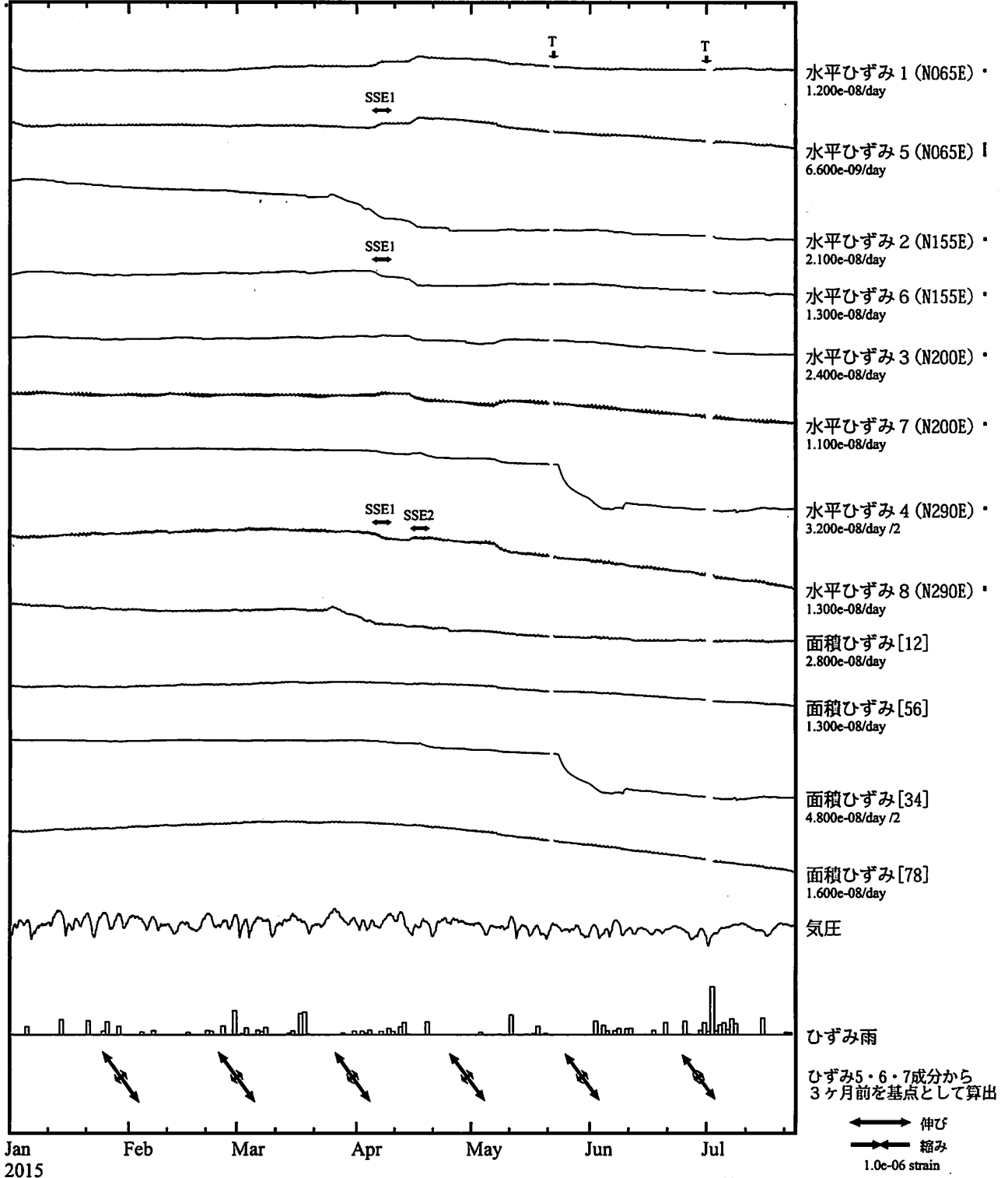


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

田原高松 (たはらたかまつ) ひずみ変化 時間値

・気圧、潮汐、地磁気補正データ

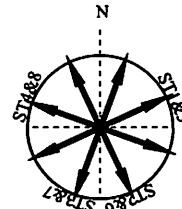
Exp.
↑ 200 nstrain
30 hPa
50 mm/day



Jan 2015

SSE1 : 短期的ゆっくりすべり 2015.04.04-2015.04.08
SSE2 : 短期的ゆっくりすべり 2015.04.14-2015.04.18

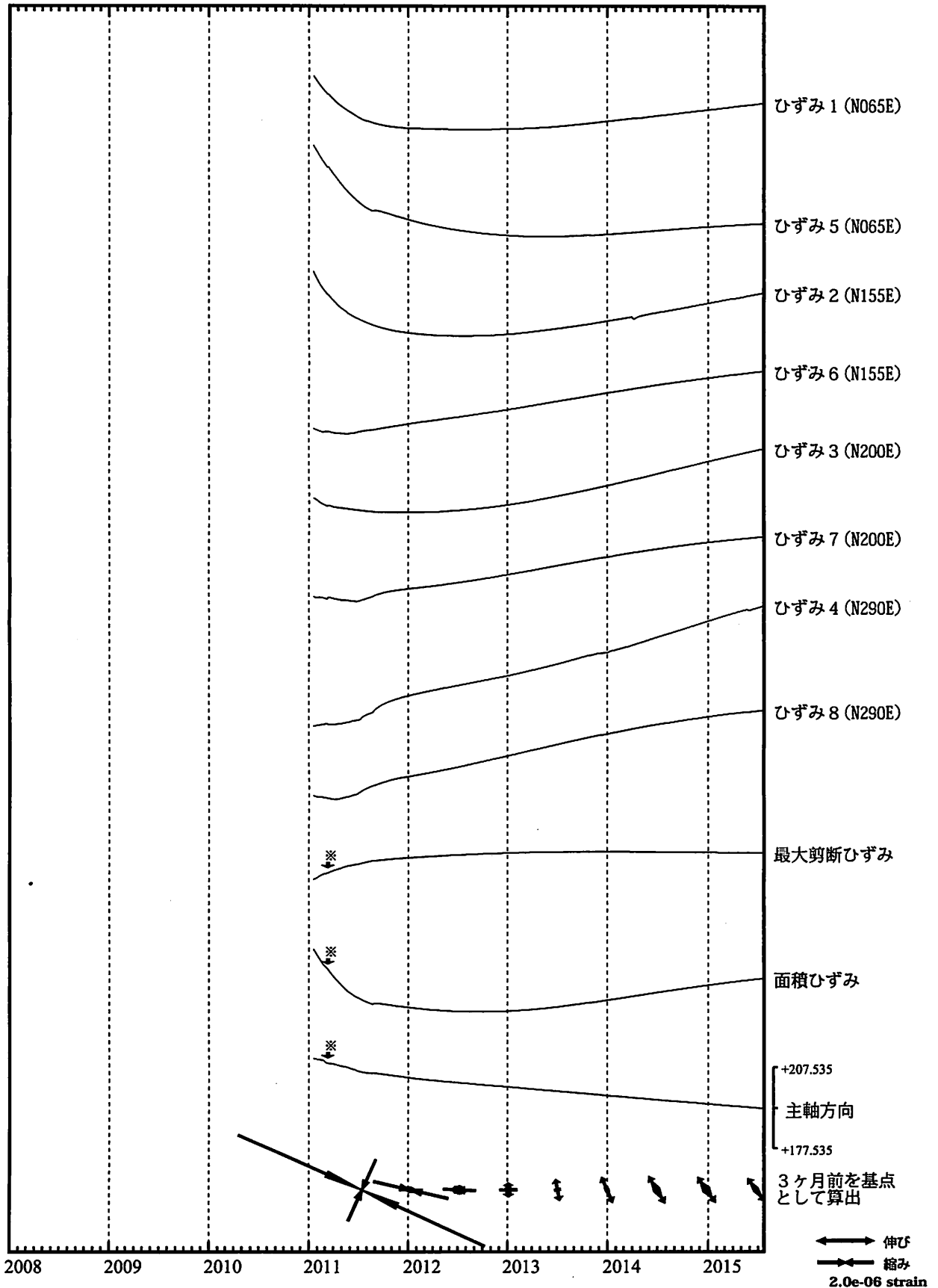
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害



田原高松 ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみ及び主軸方向は
ひずみ5, 6, 7の各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

Exp.
↑ 10000 nstrain

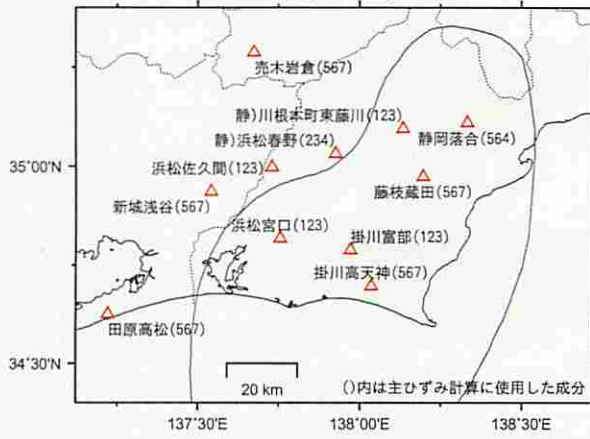


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

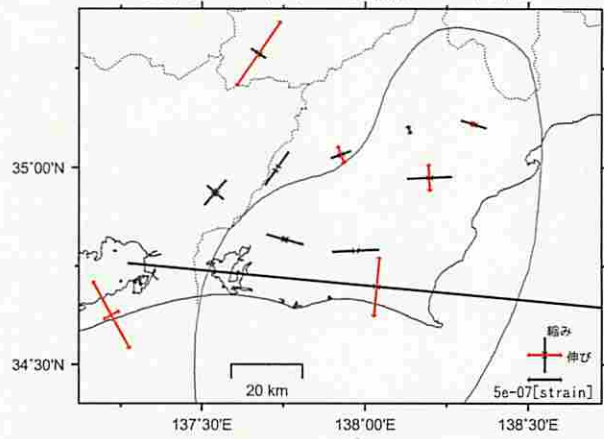
多成分ひずみ計日値による主ひずみ解析結果

(90日間の変化量から算出)

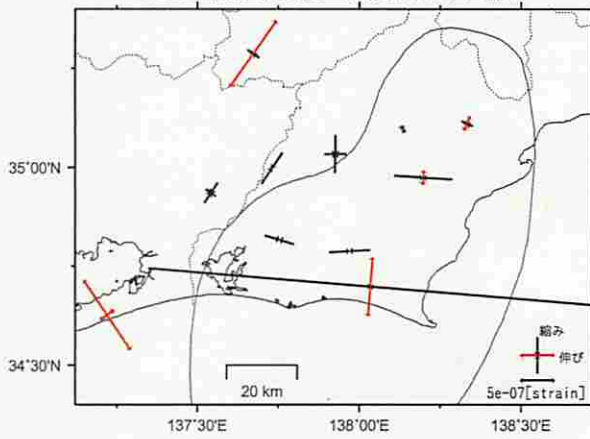
観測点配置図



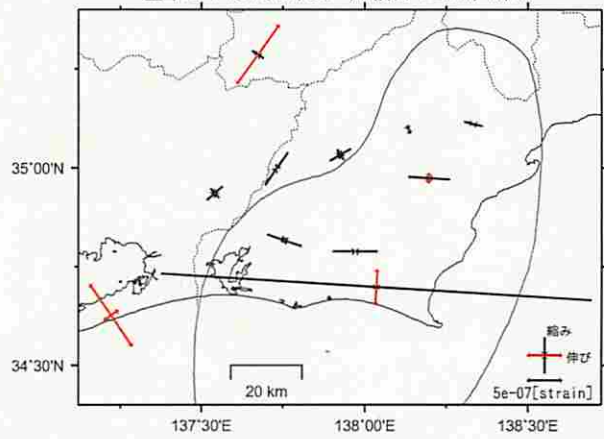
基準日: 2014/01/01 比較日: 2014/04/01



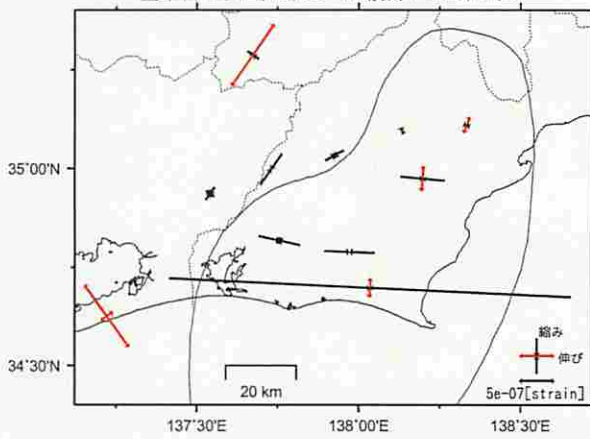
基準日: 2014/04/02 比較日: 2014/07/01



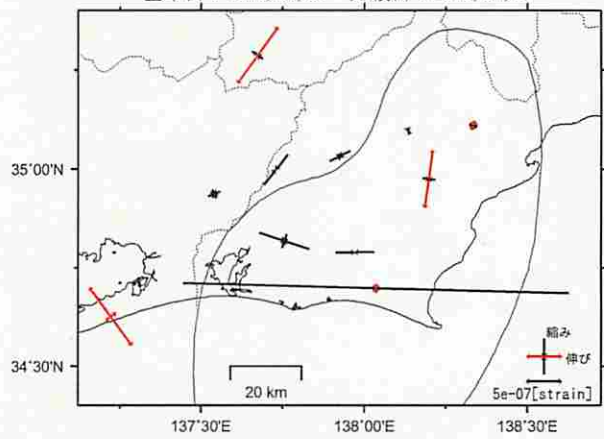
基準日: 2014/07/03 比較日: 2014/10/01



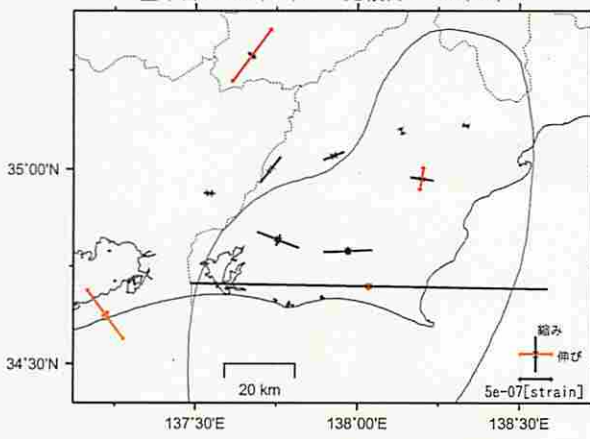
基準日: 2014/10/03 比較日: 2015/01/01



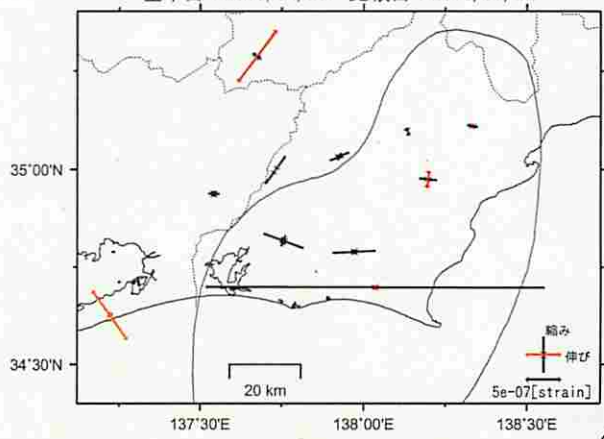
基準日: 2015/01/01 比較日: 2015/04/01



基準日: 2015/04/02 比較日: 2015/07/01



基準日: 2015/04/23 比較日: 2015/07/22

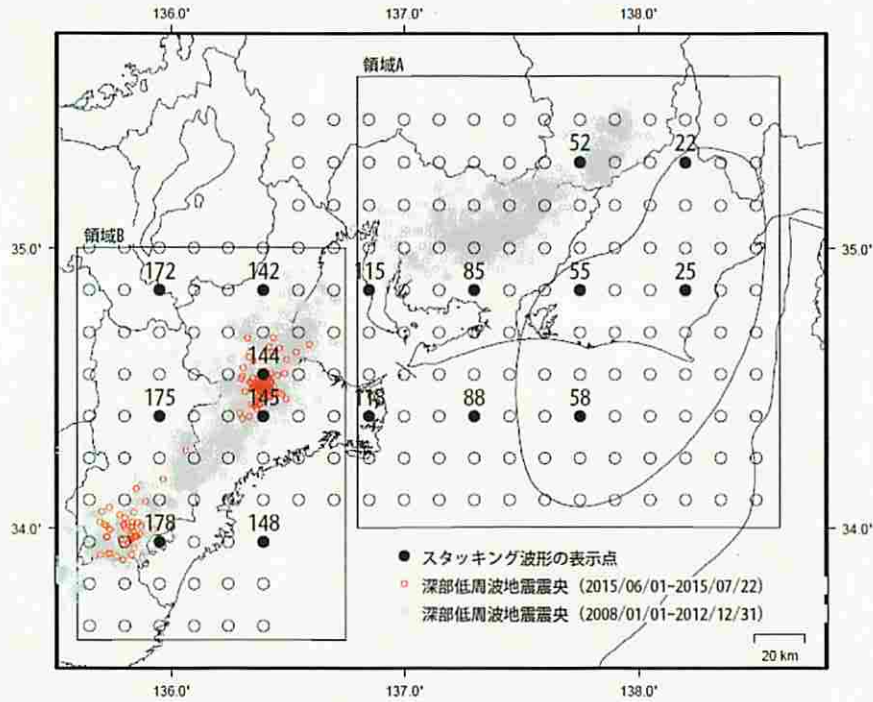


スタッキング波形によるプレート境界のすべりの監視

短期的ゆっくりすべりにともなうと推測される変化が観測された。

6月4日～7日にかけて: No.178

7月18日～22日にかけて: No.144



スタッキング波形は、上図の各監視ポイントについて、宮岡・横田(2012)の手法により、気象庁、静岡県、国立研究開発法人産業技術総合研究所のひずみ計データを基に作成している。

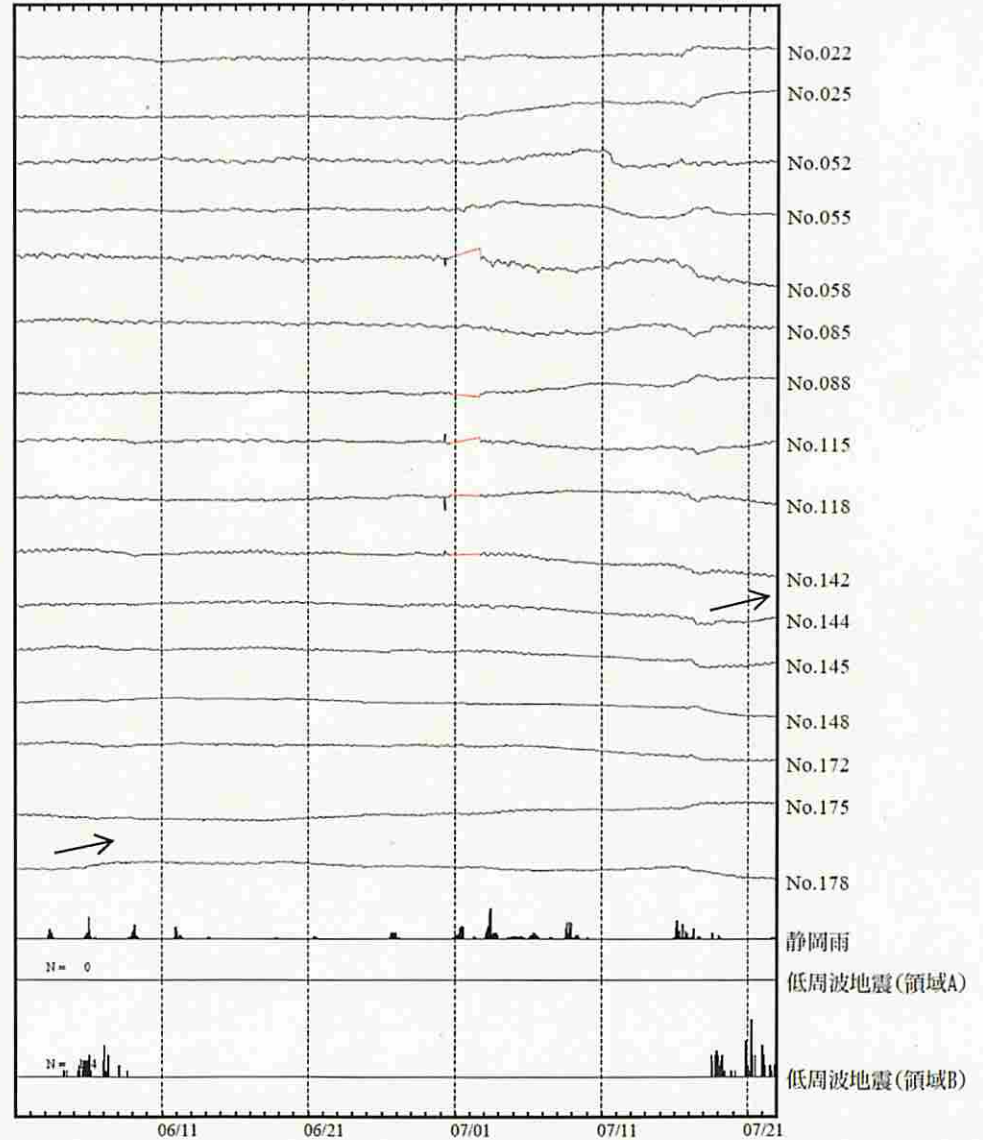
(参考文献)

宮岡一樹・横田崇(2012): 地殻変動検出のためのスタッキング手法の開発, 地震, 2, 65, 205-218.

スタッキング波形

表示期間: 2015/06/01.00:00 - 2015/07/22.23:00

↑ 3.0e-07
20 mm/day
5 回

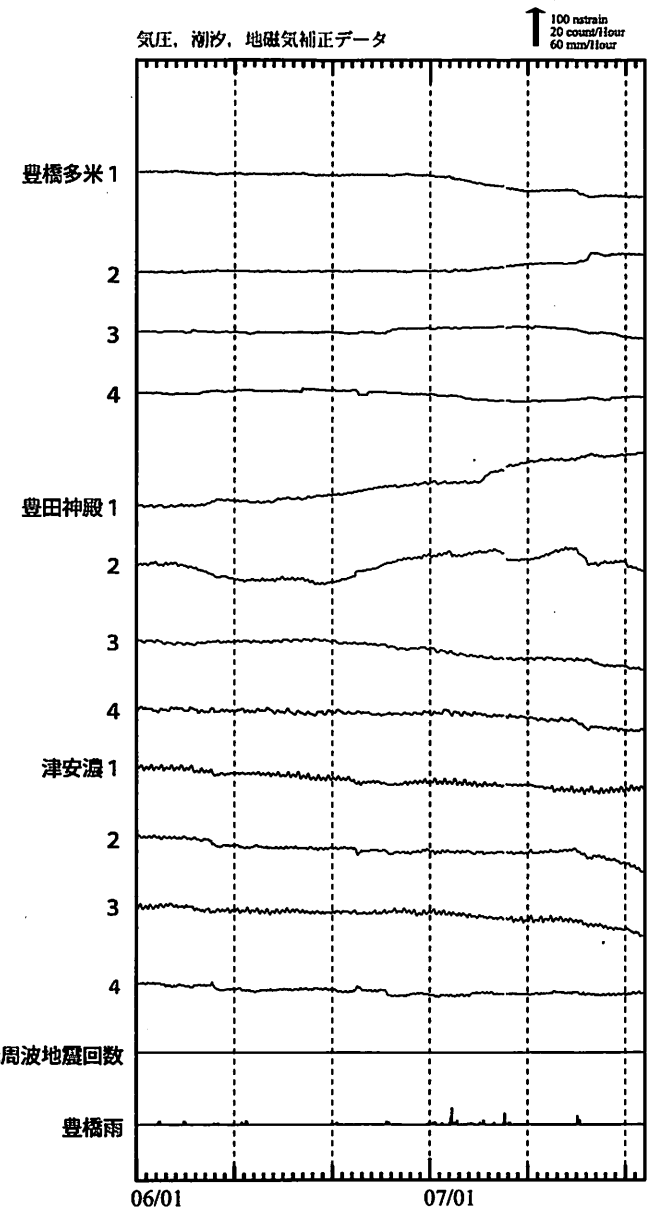
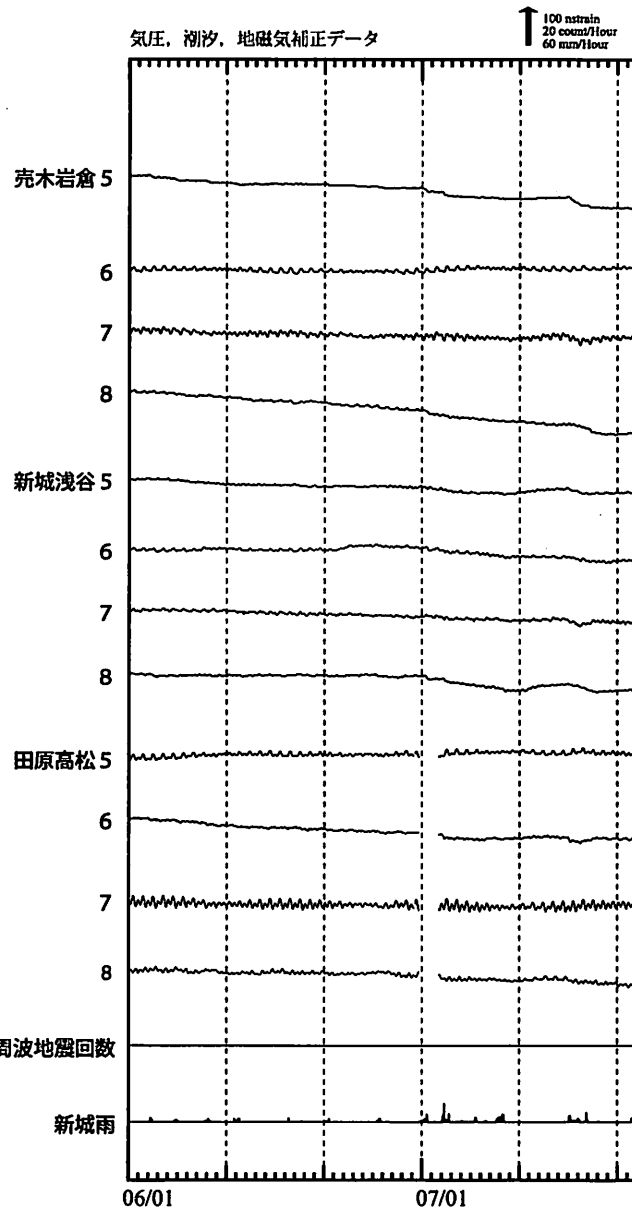
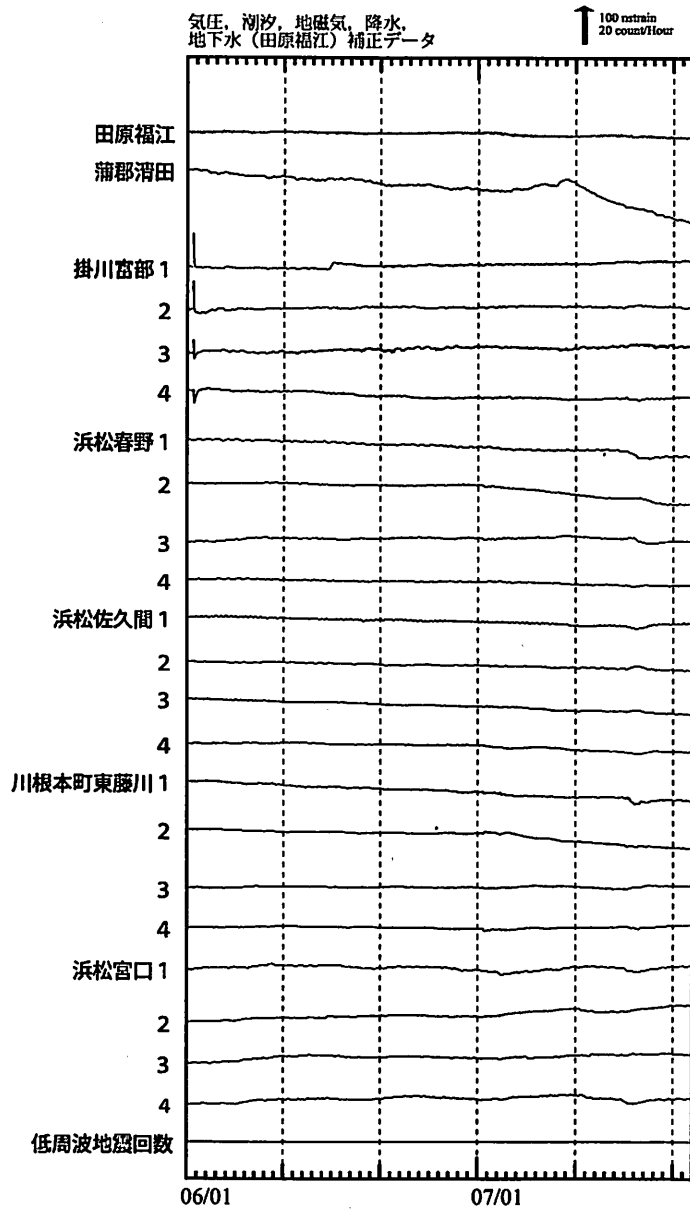


※ 赤線は、スタッキング波形データが欠測であることを示す。

気象庁作成

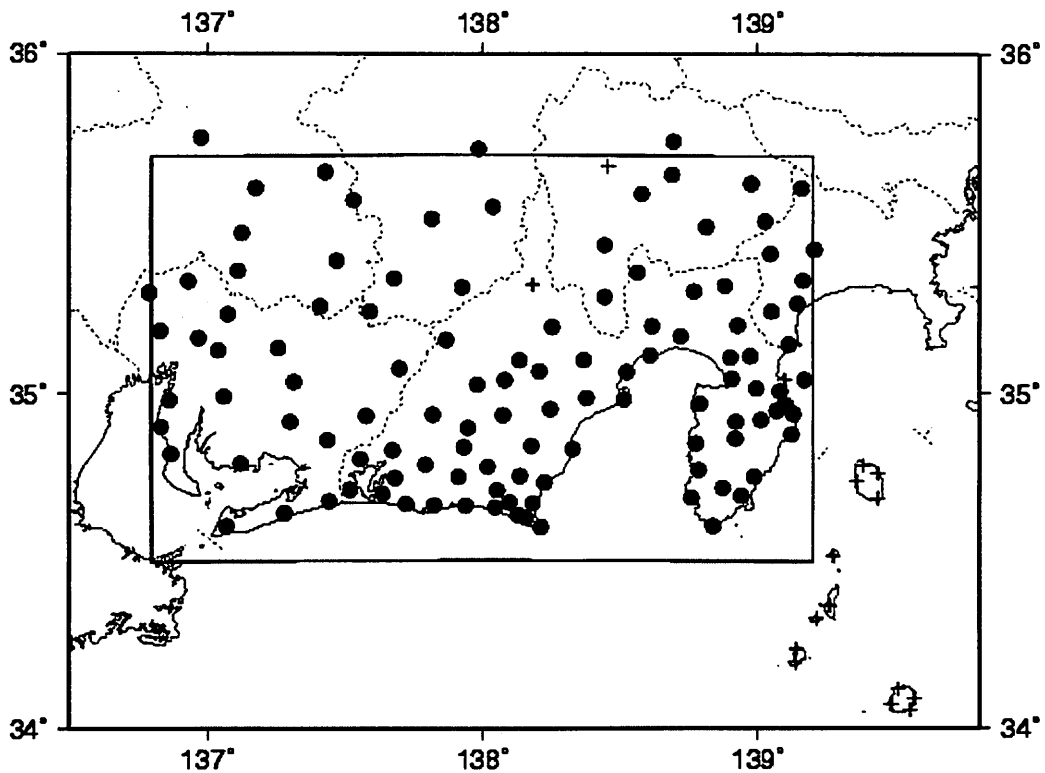
東海地域の短期的ゆっくりすべりの監視

2015.06.01 ~ 2015.07.22



※浜松春野, 川根本町東藤川は静岡県, 豊橋多米, 豊田神殿, 津安濃は産業技術総合研究所の観測点である。

GNSS 6時間値による面的監視

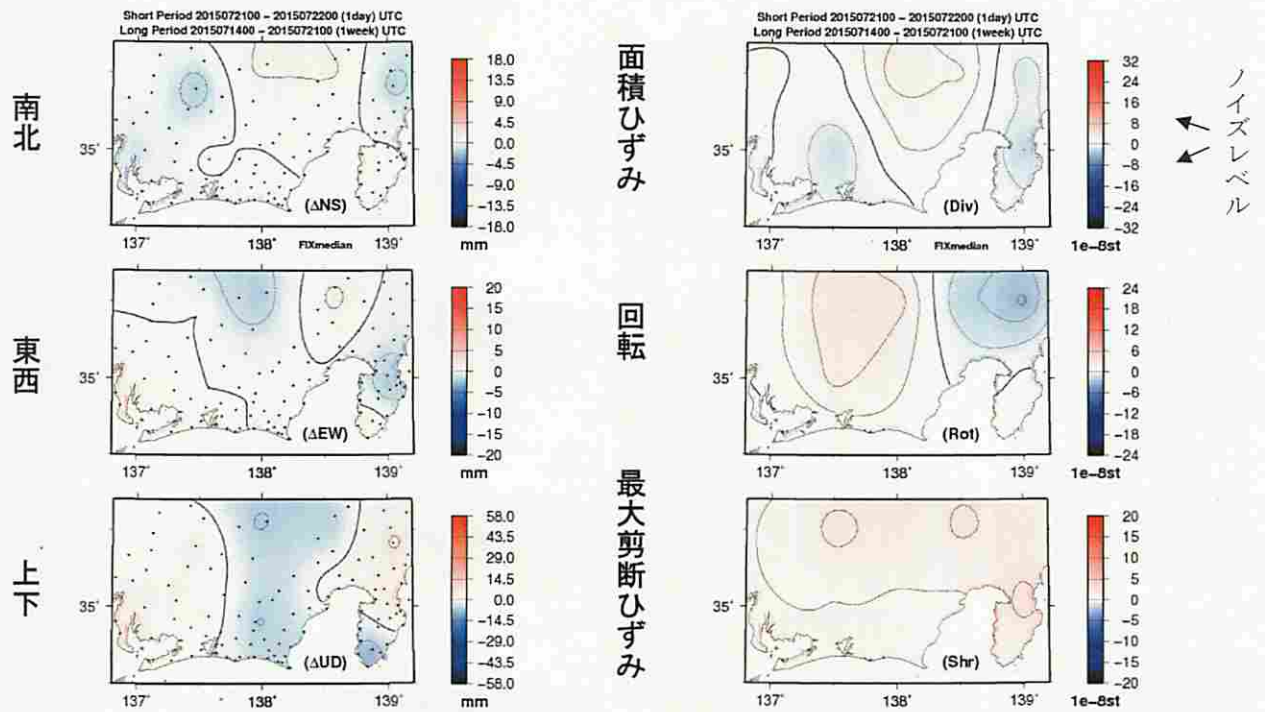


対象範囲(内側の矩形内)と使用観測点(●印)。+印の観測点はデータ不安定などにより今回の解析に使用していない。

東海地域におけるGNSS6時間値(国土地理院)を用いて、最近1日間及び1週間の中央値を過去と比較した。夏季に解析値のばらつきが見られるほかは特に目立った変位は見られない。

※GNSS(Global Navigation Satellite System)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称。

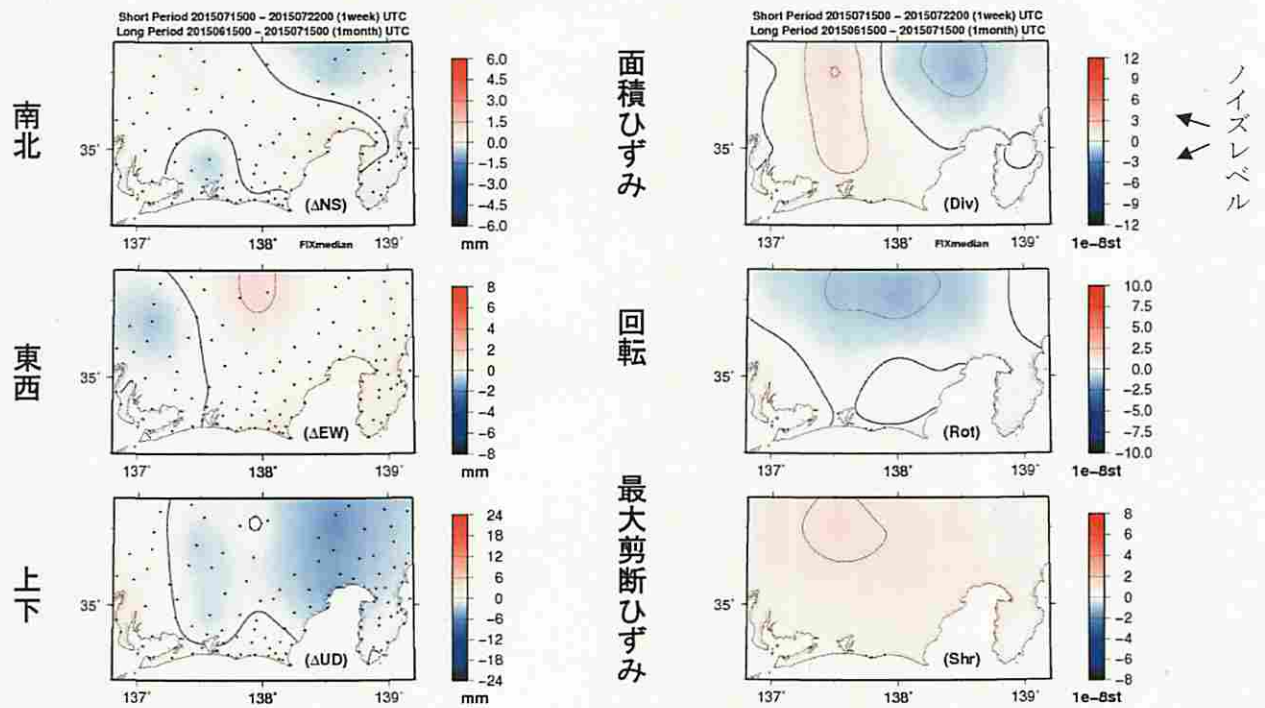
最近1日間とその前1週間との比較



対象期間：2015/07/21 00:00 - 2015/07/22 00:00(1day)

基準期間：2015/07/14 00:00 - 2015/07/21 00:00(1week)

最近1週間とその前1ヶ月間との比較

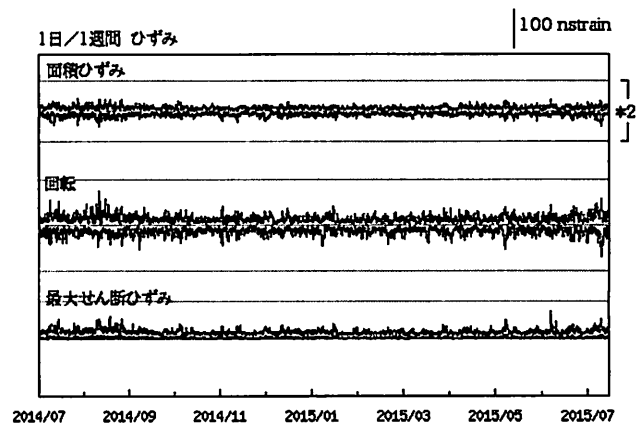
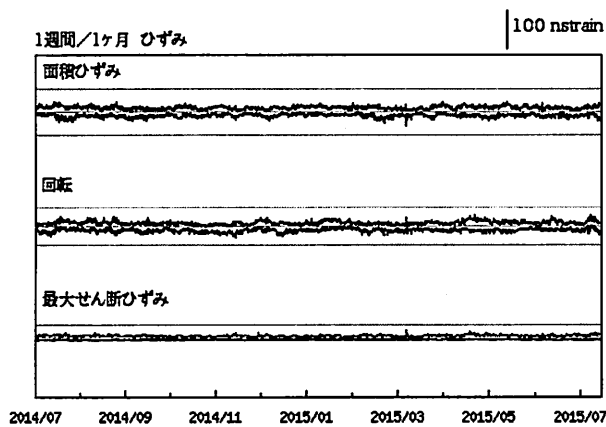
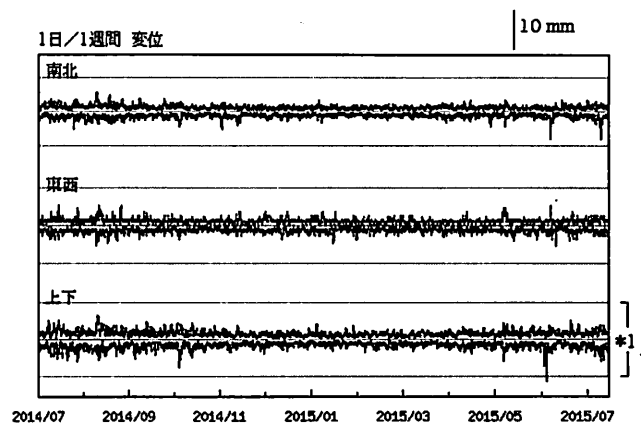
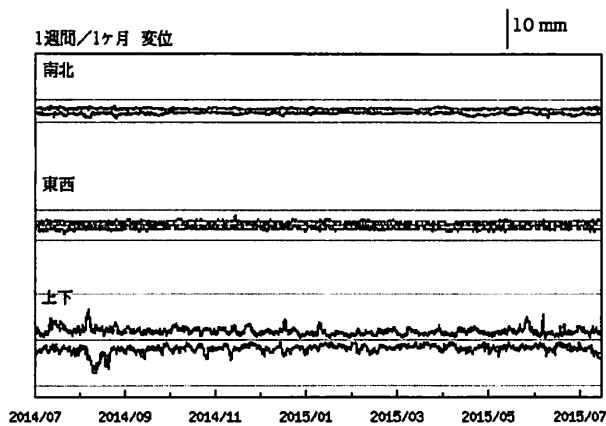


対象期間：2015/07/15 00:00 - 2015/07/22 00:00(1week)

基準期間：2015/06/15 00:00 - 2015/07/15 00:00(1month)

最近1年間(2014年7月1日00:00~2015年7月22日00:00)の 面的監視による対象範囲内の最大値の経過

(前ページまでのカラーマッピングはこれらのグラフの右端の状況。)



夏季に解析値のばらつきが見られる。

点線はノイズレベルであり、異常検知の閾値。閾値は、2006年1月~2007年12月の2年間分のデータを元に、1年に1回出現する最大値・最小値を把握できる値を求め設定。

* 1)の上下成分の1日/1週間は振幅を1/3倍、* 2)の面積ひずみ成分の1日/1週間は振幅を1/2倍にしてある。

GNSS 日値による面的監視（南海トラフ沿い）

今期間の解析結果には、特に目立った変位は見られない。

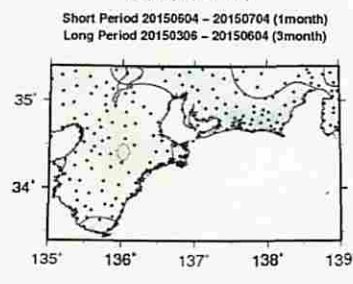
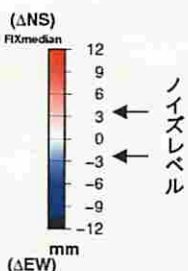
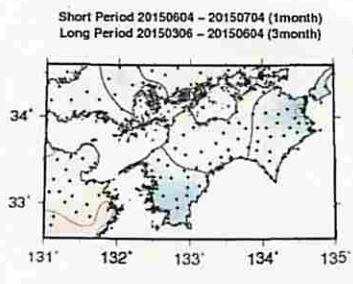
南海トラフ沿いの地域について紀伊水道を境に東西二つに分け、GNSS 日値 F3 解（国土地理院）を用いて、①最近 1 ヶ月間とその前の 3 ヶ月間の座標変化（各期間の中央値の差から 2 ヶ月間の変位）、②最近 1 ヶ月間と 1 年前の 1 ヶ月間との座標変化（1 年間の変位）、③各対象範囲内の最大値の経過、およびそれぞれ水平成分から計算したひずみを面的監視手法で見た。GNSS 座標値は観測点ごとに定常変位と見なされる期間の直線トレンドを除去しており、年周変化は補正していない。また、主な地震に伴うオフセットを差し引いている。東側の領域（東海～紀伊半島）は、2011 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震に伴う余効変動を差し引いている。

※GNSS (Global Navigation Satellite System) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称。

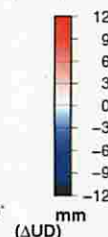
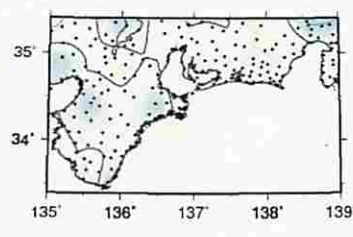
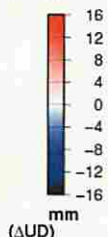
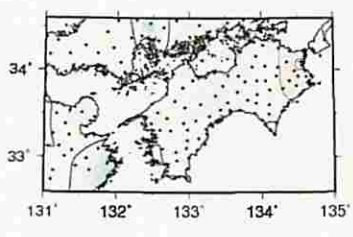
① 最近2ヶ月間の変位とひずみ

(余効除去)

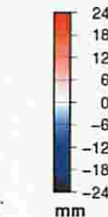
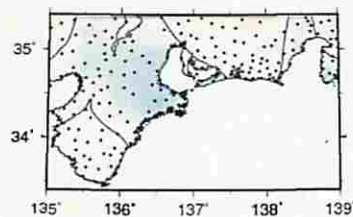
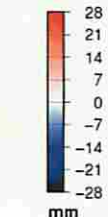
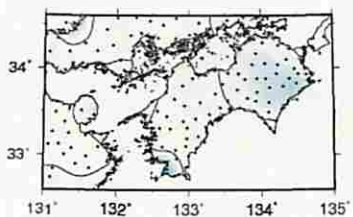
南北



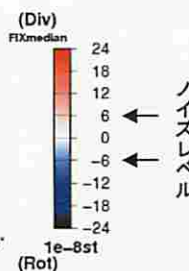
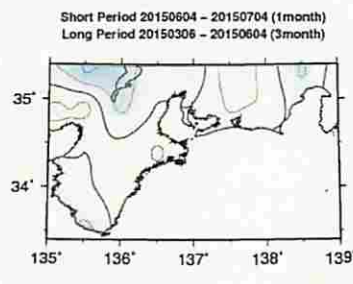
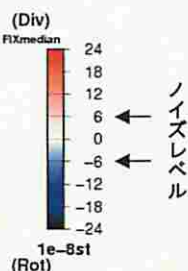
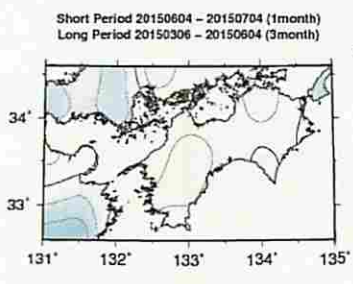
東西



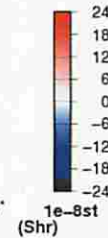
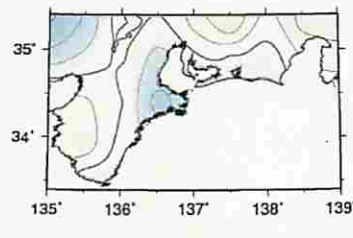
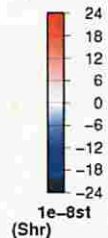
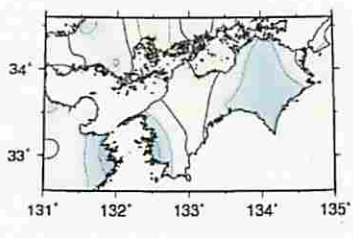
上下



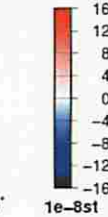
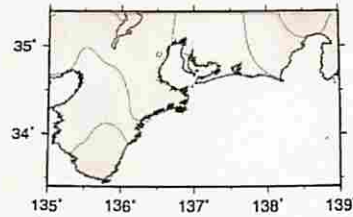
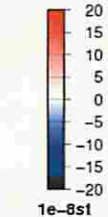
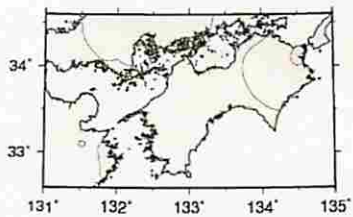
面積ひずみ



回転



最大せん断



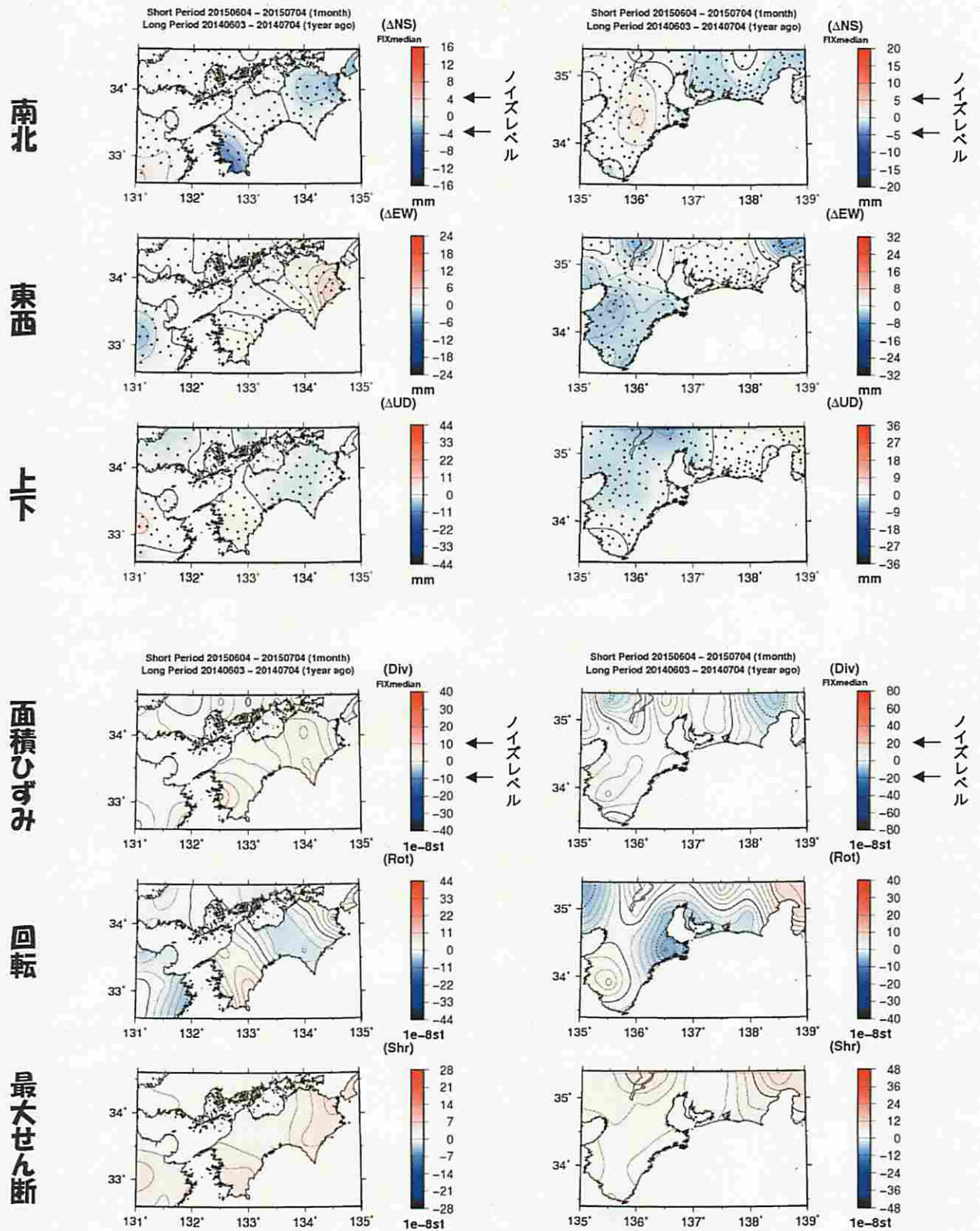
対象期間：2015/06/04-2015/07/04 (1month)

基準期間：2015/03/06-2015/06/04 (3month)

特に目立った変化は見られない。

②最近1年間の変位とひずみ

(余効除去)



対象期間：2015/06/04-2015/07/04 (1month)
特に目立った変化は見られない。

基準期間：2014/06/03-2014/07/04 (1month)

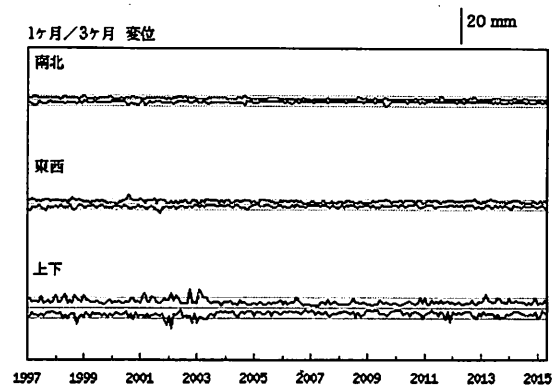
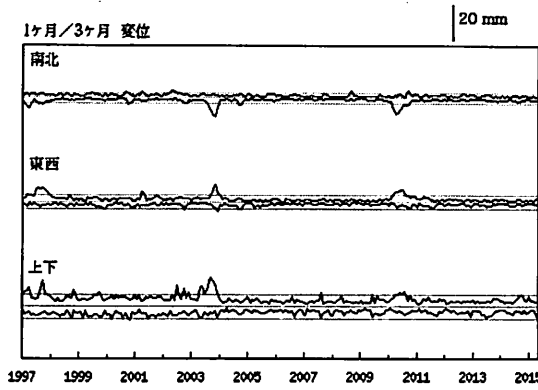
③ 面的監視による対象範囲内の最大値の経過 (1997年1月～2015年7月)

監視期間：2か月)

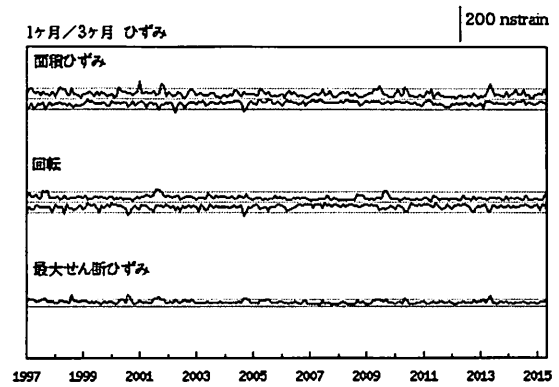
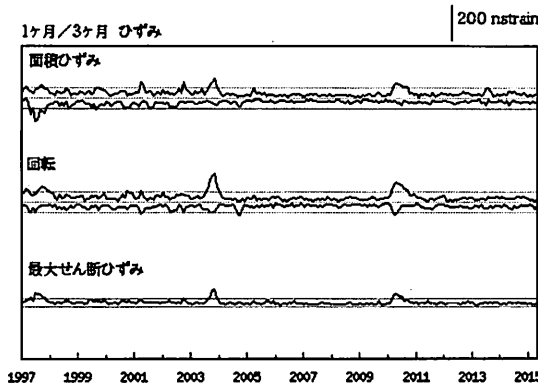
(四国)

(東海～紀伊半島；余効除去)

変位

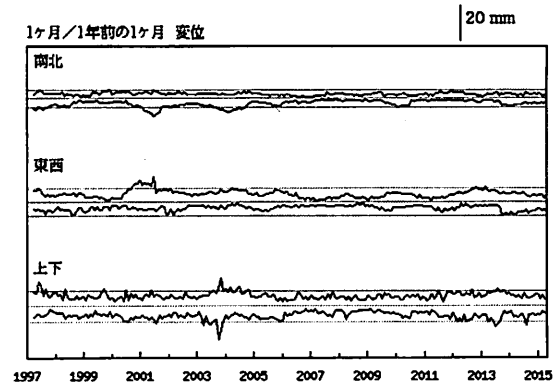
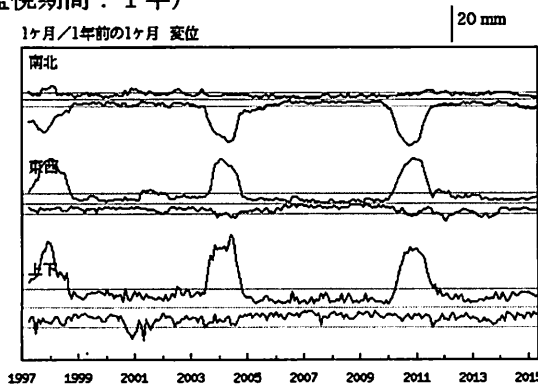


ひずみ

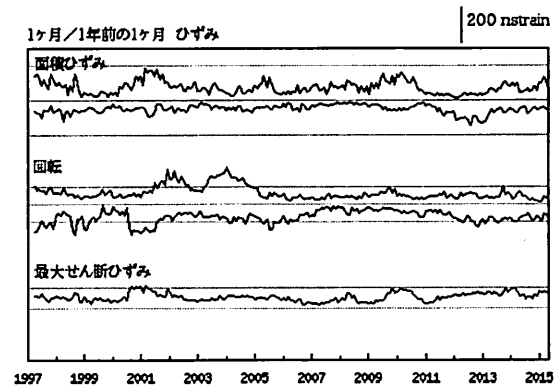
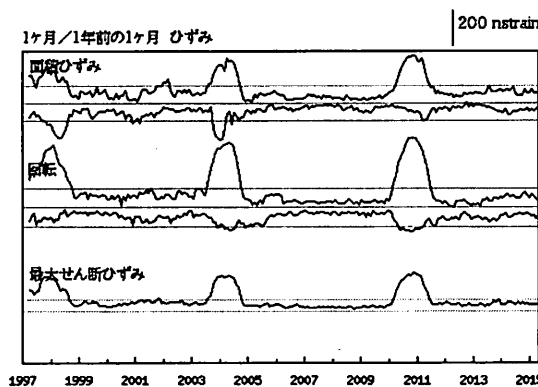


(監視期間：1年)

変位



ひずみ

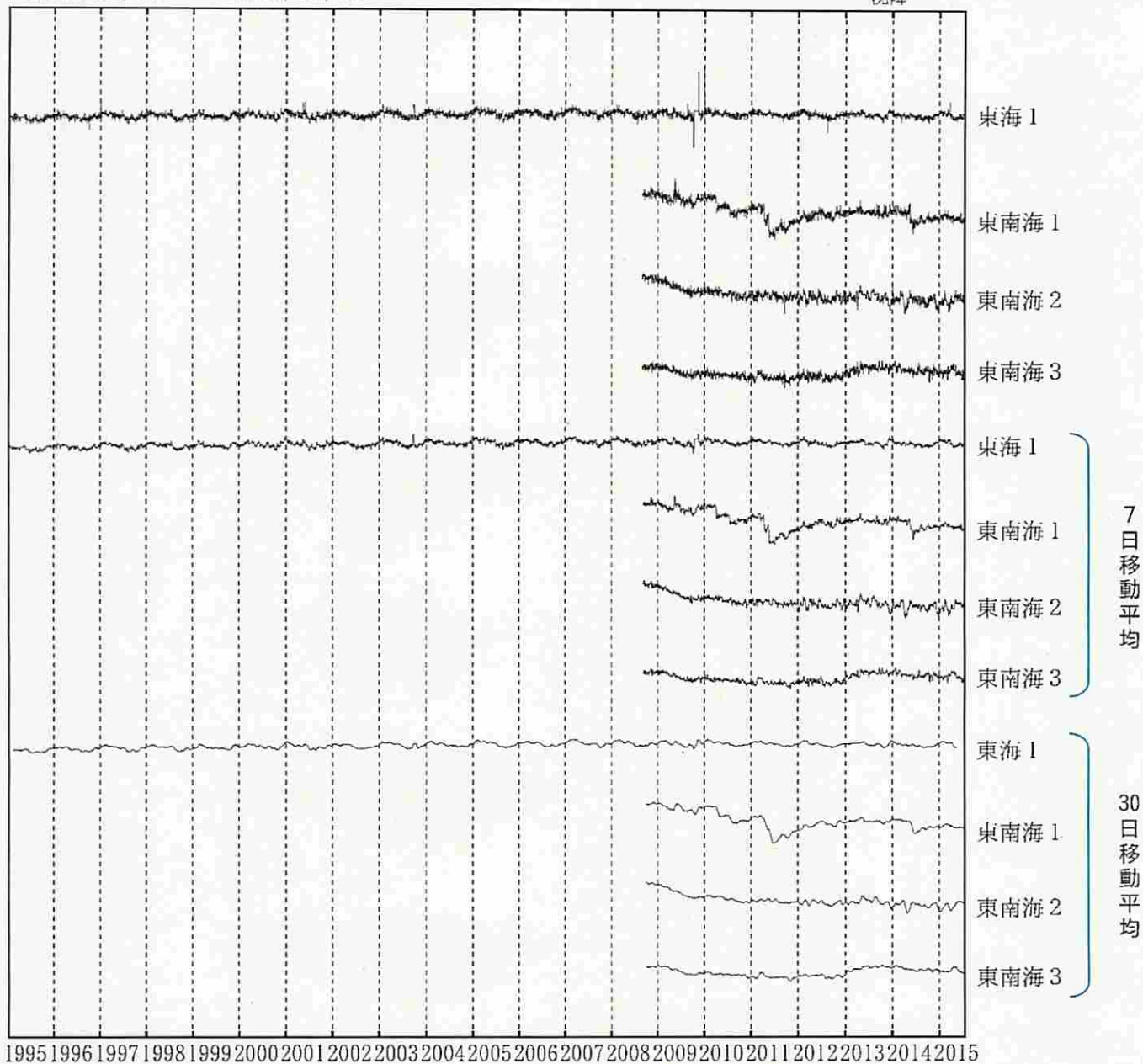


豊後水道の長期的ゆっくりすべりによる影響がこれまでに3度みられるが、このほかでは特に目立った変化は見られない。

東海・東南海地域の海底津波計記録の長期変化

海底津波計 日値 (潮汐補正データ)
1995/01/01 - 2015/07/20

隆起
↑ 1 m
↓ 沈降

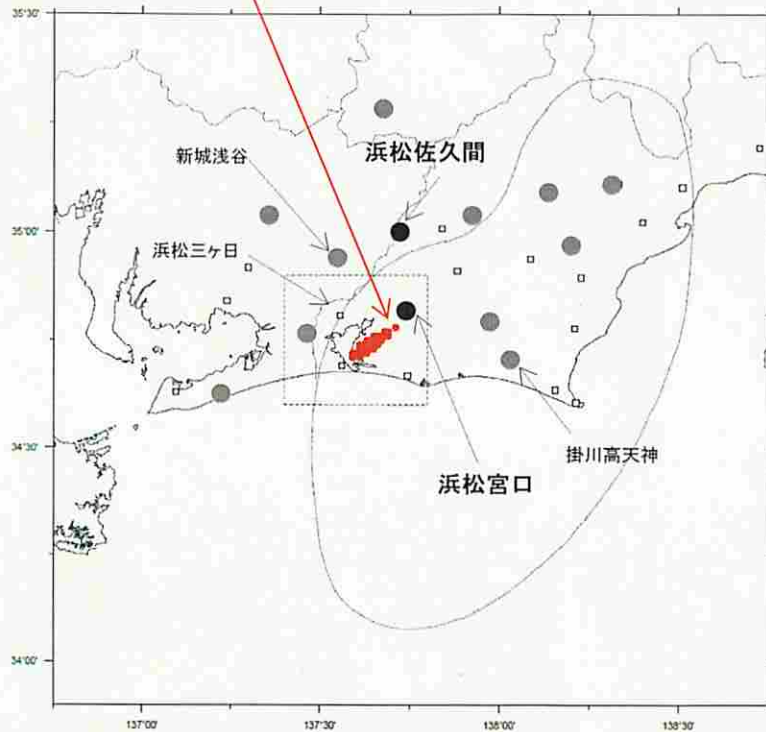


気象庁作成

ひずみ変化と長期的ゆっくりすべりのすべり推定

ひずみ変化から推定されるすべり候補点

Mw6.4~6.7程度



- すべり推定に使用したひずみ観測点(多成分ひずみ計)
- ひずみ観測点(多成分ひずみ計)
- ひずみ観測点(体積ひずみ計)

すべり候補領域は、中村・竹中(2004)¹⁾によるグリッドサーチの手法※により求めた。プレート境界と断層面の形状はHirose et al.(2008)²⁾による。

※ すべり候補領域の位置とその規模(Mw)を、すべりがプレート境界面上でプレートの沈み込み方向と反対に発生したと仮定し、考え得る全ての解を前提として得られる理論値と観測値を比較し、合致するものを抽出する手法

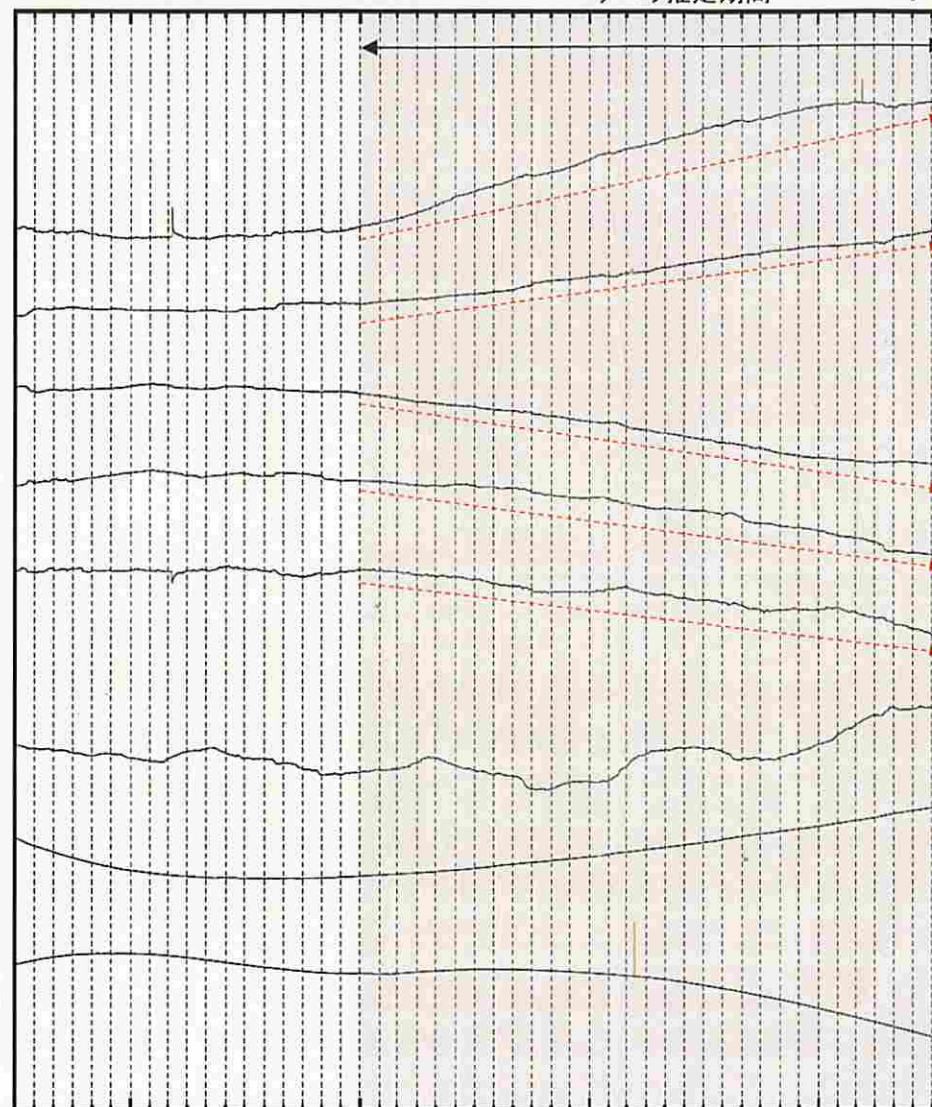
1) 中村浩二・竹中潤, 東海地方のプレート間すべり推定ツールの開発, 験震時報, 68, 25-35, 2004

2) Hirose F., J. Nakajima, A. Hasegawa, Three-dimensional seismic velocity structure and configuration of the Philippine Sea slab in southwestern Japan estimated by double-difference tomography, J. Geophys. Res., 113, B09315, doi:10.1029/2007JB005274, 2008

すべり推定期間

500 nstrain

- 浜松宮口4
- 浜松佐久間2
- 浜松佐久間1
- 浜松佐久間4
- 浜松宮口1
- 浜松三ヶ日
- 新城浅谷1 (1/7倍)
- 掛川高天神1 (1/40倍)



1月 7月 1月 7月 1月 7月 1月 7月
2012年 2013年 2014年 2015年



気象庁作成

スタッキングによる長期的ゆっくりすべりの検出について

○各グリッドでの時系列変化

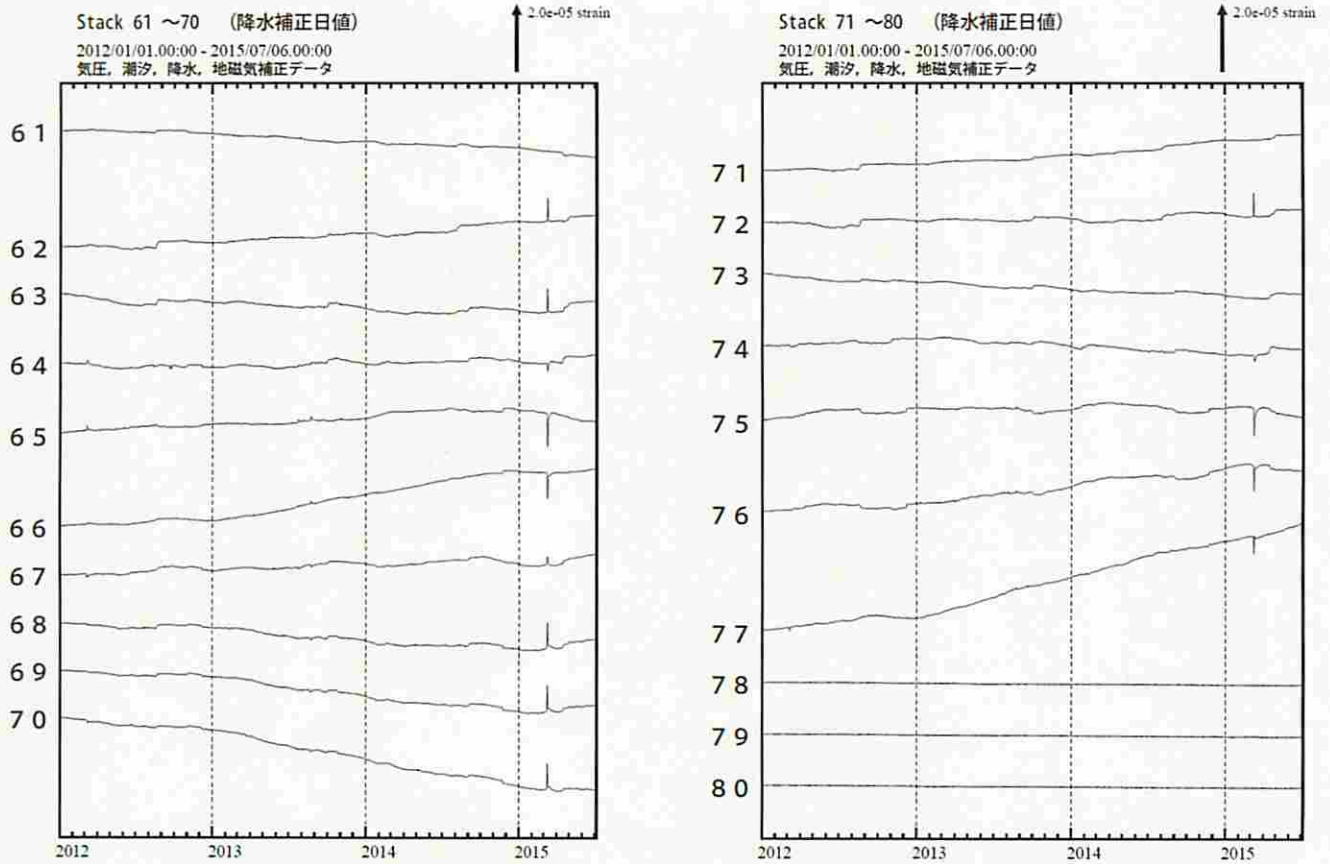


図1：日値スタッキング波形。番号は監視グリッド（図2参照）を示す。

- データ : 補正日値（体積ひずみ計と1998年から2002年整備の多成分ひずみ計）
- ノイズレベル : 2011年6月～2012年12月の、60日階差（単純な階差）の標準偏差
- 理論値計算 : 0.15°ごとの各グリッドを中心とする、20×20kmの断層
- トレンド : 2012年7月～12月の期間のトレンドを除去している

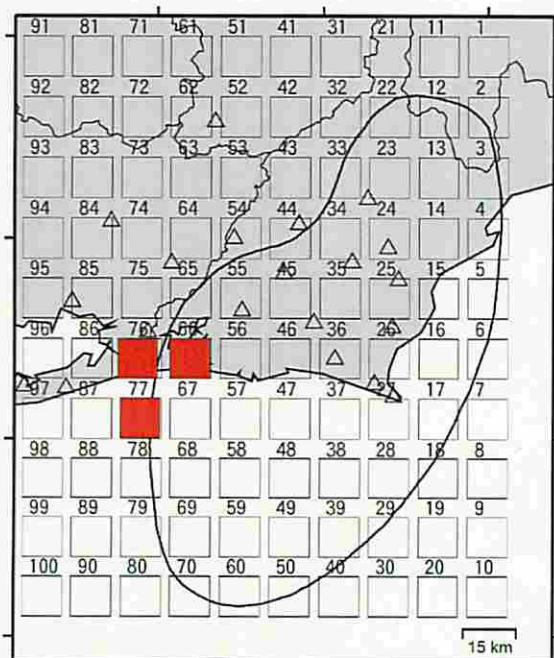


図2：グリッド配置及びすべり位置

グリッドNo.66, 76及びNo.77に明瞭な変化が見られている。総すべり量はMw6.6相当となる。

□ スタッキンググリッド

* スタッキング手法は、複数のひずみ計のデータを重ね合わせることによって、微小な地殻変動のシグナルを強調させて、検知能力を向上させる解析方法である。

参考文献

宮岡一樹, 横田 崇 (2012): 地殻変動検出のためのスタッキング手法の開発—東海地域のひずみ計データによるプレート境界すべり早期検知への適用—, 2012, 地震2, 65, 205-218.